

3. Webサイト「東日本大震災と方言ネット」の運用

3. 1. 東日本大震災と方言ネット構築の背景

現代では、インターネットによる情報の発信と共有が一般的となりつつある。東日本大震災においても、Webサイトによる情報の発信が、被災地の情報を素早く、かつ、広範囲に伝え、支援のための活動を円滑なものにすることに役立った。このようなインターネットの長所は、方言に関する取り組みにも有効に機能するはずである。

また、インターネットを使った取り組みは、他の分野ではすでに実施され、効果を挙げている。例えば、日本地理学会は、地震発生直後に、震災専用の特設Webサイトを設け、地震の解説や各地の被害報告の集約、関連サイトの掲載のほか、関連学会の企画の紹介や会員の提言等を行っている。こうしたWebサイトは、方言学の分野でも用意されることが望まれる。

以上のような状況を踏まえて、東北大学方言研究センターでは、震災専用Webサイト「東日本大震災と方言ネット」（以降、本章では「方言ネット」と略する）を立ち上げることにした。その詳しい経緯については、東北大学方言研究センター（2012）や、中西太郎（2012）に書き記した。

3. 2. 方言ネットの目的

方言ネットの目的は、被災地の方言に関する情報を発信し、多くの人々に共有してもらうことで、被災地の支援を行おうというものである。方言をキーワードにしたさまざまな情報を利用してもらいながら、被災地の方言に対する社会的関心を高めてもらう意図もある。

もう少し具体的なねらいを、被災者、支援者、研究者という対象ごとに挙げる。

被災者に対して：ボランティア団体の方言による活動情報を提供したり、被災地方言についての研究者の取り組みを紹介したりする。また、ふるさとの方言会話を聞いてもらうことで、被災地に留まる住民、あるいは遠方に避難した人々に対して心理的な激励を行う。

支援者に対して：被災地の方言についての情報を提供する。それにより、支援者が活動に当たる中で、地域住民の使用する方言を理解できなかつたり、誤解したりするといったコミュニケーションギャップの問題を回避するとともに、被災者との間の心理的な距離を縮めるのにも役立ててもらおう。

研究者に対して：被災地の方言についての研究を整理することで、記録・継承に向けた取り組みを支援する。また、大震災との関わりを考える研究を促進するとともに、それらの調査予定等を調整する役割も果たす。

3. 3. 東日本大震災と方言ネットのコンテンツ

前節までに述べたような背景と目的の下、方言ネットの Web サイトを構築した。(2012年6月から解説、画面は図3.1)

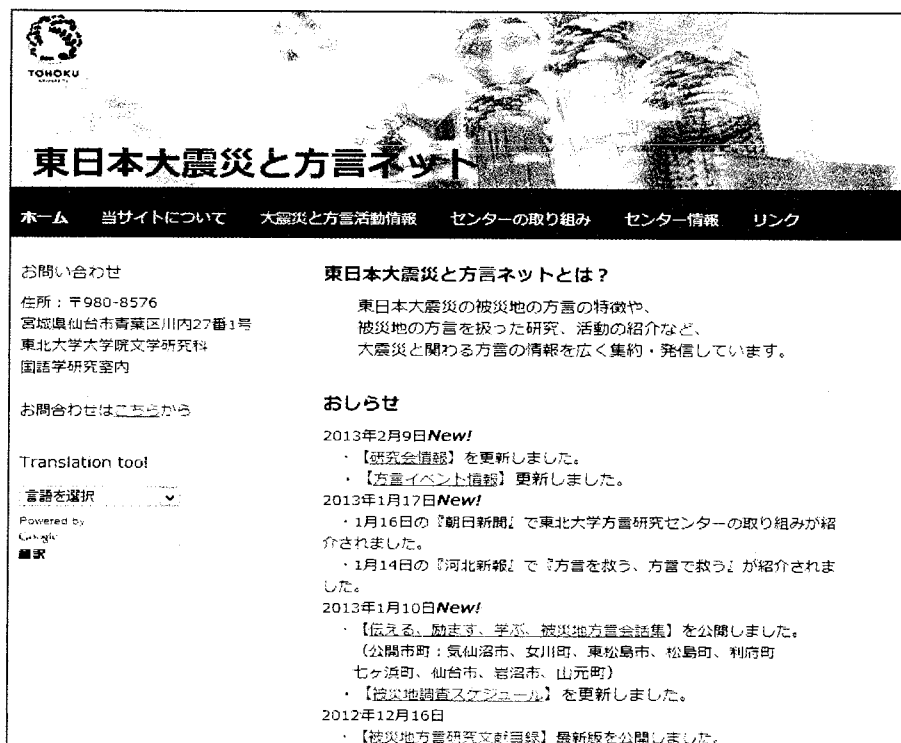


図 3.1 東日本大震災と方言ネット トップページ

本節では、方言ネットのコンテンツ（内容）を紹介する。

3. 3. 1. コンテンツの全体像

「方言ネット」のコンテンツ全体像は、以下に示すサイトマップのとおりである。

○当サイトについて

○大震災と方言活動情報

▼被災地の方へ

方言イベント情報／ふるさとの方言会話（※）／方言学の取り組み／助成金情報

▼支援者の方へ

見る、聞く、学ぶ、被災地の方言会話（※）／被災地の方言概説（宮城県）／支援者のための方言ツール（方言パンフレットなど）

▼研究者の方へ

研究会情報／被災地の方言研究文献目録／被災地調査スケジュール／大震災と方

言に関わる研究論文／「大震災と方言」研究に関わるリンク集

○センターの取り組み

▼これからの取り組み

▼これまでの取り組み

伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集（※）／図書、報告書、研究論文、新聞記事等／報告会、研究発表等

○センター情報（メンバー・所在地） ○リンク（（東北大学関連・言語研究関連）
（2013年2月時のもの、※は実質的に同じ内容）

3. 3. 2. 主要なコンテンツ

本節では、前節で示した全体のコンテンツのうち、いくつかのコンテンツを紹介する。

3. 3. 2. 1. 伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集（ふるさとの方言会話／見る、聞く、学ぶ、被災地の方言会話）（2013年1月から配信開始）

被災地の方言会話を収録し、文字化資料と音声を公開する。消えゆく方言の記録と継承に向けた準備であるとともに、被災地への支援活動の一環としての意味も持つ。すなわち、ふるさとの方言を聞いてもらうことで、被災者を心理的に励まそうという意図である。特に、遠方への避難住民にとっては、その効果が大きいと期待される。これは、現代方言が担う、仲間意識を喚起し、一体感を強めるといった心理的な機能を応用する取り組みである。その詳細については、5章に譲る。

これらの会話資料は、被災地に入る支援者にも参考にしてもらうことができる。すなわち、あらかじめ現地の会話に接しておくことで、被災地の方言に支援者の“耳”を慣れさせる効果が期待できる。特に、場面設定会話は、実用的な会話集といった性格をもつものであり、集約的に被災地の方言を知ることが可能である。

こういった性格の資料を方言ネットで配信することで、全国に点在する避難者や潜在的な支援者に、会話資料の情報を効率的に届けることができると思われる。

3. 3. 2. 2. 被災地の方言概説（2013年1月から配信開始）

被災地に赴く支援者の方などに宮城県沿岸の方言の会話をより理解してもらえよう、宮城県全体の方言の特徴と各15市町の方言の特徴を解説する形でまとめたコンテンツである。伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集の一部として、5章に収録してある。

その解説は、アクセント、音声、文法の項目があり、ことばの専門家ではない方にも理解してもらえよう、平易な説明文と具体例を交えて、方言の特徴の紹介を行っている。

(例) ♪ 音声

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

◀イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

例) 獅子（しし）、煤（すす）、寿司（すし） → すべてスス
知事（ちじ）、地図（ちず）、辻（つじ） → すべてツンズ

後述の「方言パンフレット」との違いは、「方言概説」は、これまでの方言学の研究の蓄積や、伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集の内容をもとに、要不要を問わず、地域の方言の特徴を概括的に述べたものであるのに対して、「方言パンフレット」は、現地での支援者からの聞き取りを踏まえ、解説項目の焦点を絞り、使いやすく、携帯しやすく作成した点にある。

また、この概説についても、方言ネットで配信することで、全国に点在する潜在的な支援者に、情報を効率的に届けることができるものと思われる。

3. 3. 2. 3. 支援者のための方言ツール（2012年6月から配信）

支援者のために作成した方言パンフレットなどの情報を載せたコーナーである。国立国語研究所の作成した支援冊子『東北方言オノマトペ用例集』（竹田晃子 2012）や、それをもとにした iPad 用アプリなどを紹介している。

東北大学方言研究センターの取り組みとしては、気仙沼方言を対象にした方言パンフレット『支援者のための気仙沼方言入門』がある（坂喜美佳・小原雄次郎 2012、図 3.2）。このパンフレットの目的は、支援者に被災地の方言を理解してもらうこと、および、支援者と被災者との意思疎通の手がかりとして役立ててもらうことにあり、実際に支援者たちが体験したコミュニケーションギャップを取材して作成している。

具体的な内容は、目的等のほか次のとおりである。

- a. 「気仙沼方言って、どんな方言？」＝わかりにくい、あるいは注目すべき発音、文法、語彙の特徴。
- b. 「使ってみよう！おススメの気仙沼方言」＝被災者との心理的距離を縮めるための挨拶や応答詞の方言。
- c. 「病気や気分を表す語・人体呼称図」＝看護師や保健師のためのコーナー。
- d. 「道具の名称」＝瓦礫処理等のボランティアのためのコーナー。

この方言パンフレットは、ダウンロードして印刷し、現地に携帯してもらってもよいように、PDF ファイルの形で公開している。この方言パンフレットについても、会話資料や方言の概説と同様に、方言ネットで配信することで、全国に点在する潜在的な支援者に、情報を効率的に届けることができるものと思われる。



図 3.2 方言パンフレット『支援者のための気仙沼方言入門』

3. 3. 2. 4. 被災地の方言研究文献目録 (2012 年 12 月から配信)

東北大学方言研究センターでは、方言のこれからの記録に向けて、被災地の方言がどのように研究されてきたのかを把握することを目的として、被災地の方言研究に関する文献・資料（書籍、論文、市町村史）の目録を作成した（詳しくは、東北大学方言研究センター2012、及び本報告書の4章）。

その被災地の方言研究文献目録も、ダウンロードして利用してもらえるよう、本Webサイト上で、データを配信している。配信に際しては、利用の便を考え、ExcelとPDFのダウンロードを設けている。

3. 3. 2. 5. 被災地調査スケジュール (2012年6月から配信)

方言ネットでは、主に、東北大学方言研究センターが被災地で行う調査などについて、その日程を Web 上にアップし、公開している (図 3.3)。



図 3.3 被災地調査スケジュール表 (Google カレンダーを利用)

これは、大震災後、被災地各地に入った学術的調査などの集中により被災者が迷惑を被るのを避けるため、他の多くの機関と、調査スケジュールを共有し、調査日程を調整することを企図した試みである。

ただし、そもそも、立ち上げたばかりの方言ネットの周知、それに伴う情報の発信力が十分ではなかったため、その目的を十分に果たしたとは言えない。情報発信力を考慮に入れた上でのコンテンツの運営母体の検討や、調査競合に伴う学術利権を巡る問題の検討など、考えるべき課題が多いコンテンツである。

3. 3. 2. 6. 検討中のコンテンツ—方言スローガンの作成

今後作成を検討しているコンテンツの一つには、方言スローガンの作成支援の取り組みなどがある。これは、支援者が被災地の方言を使った復興スローガンを作ろうというときに、参考にしてもらう内容である。魏ふく子・石山理恵 (2012) によれば、「がんばっぺ宮城」「がんばっぺし石巻」のような方言スローガンを作成することに対して、外部からの支援者は遠慮や自制が働くが、肝心の被災者たちはむしろ歓迎しているという意識の差

が明らかになった。そこで、支援者にこの事実を伝え、被災地方言によるスローガン作りを促そうと考えた。

ただ、支援者には、被災地の方言のことがよくわからず、方言を正確に使用できているか不安がある。そうした問題に対処するために、方言スローガン用の材料の提供や、支援者の具体的な相談への対応を行うコンテンツを考えている。

3. 4. 方言ネットの利用状況（2012年6月～2013年2月）

方言ネット構築の目的の一つは、被災地の方言に関する情報を発信し、多くの人々に共有してもらうことで、被災地の支援を行うというものであった。

本節では、多くの人々に情報を共有してもらうという点で、方言ネット構築後の半年余りの期間で、どれくらいの成果があったのかを分析する。

なお、方言ネットの利用状況の分析に当たっては、Google社が提供するサービス、Google Analytics を利用する。Google Analytics は、指定した Web サイトの利用者の数などを記録し、様々な形で分析することができるサービスで、本節では、主に、方言ネットの訪問者数の推移や、訪問者の利用地域の集計などに注目し、分析・考察を行う。それによって、今回構築した方言ネットが、どこの地域の人に、どれくらい利用されているかということが把握できる。

まず、Web サイト構築後から現在までに、方言ネットにアクセスした訪問者がどれくらいなのか、また、そのアクセス数がどのように推移してきたのかを示す（図 3.4a・b、図の推移を大きく、見やすくするため、全体を半分ずつにし、a・b として示した）。

図 3.3a の各種集計を見ると、訪問数は 2535、ユーザー数は 1737 となっている。ユーザー数というのは、Web サイトにアクセスした利用者の異なり合計数を示している。一方訪問数は同一ユーザーの複数回の訪問もカウントしたもので、訪問数がユーザー数より多い 2535 となっているため、本 Web サイトに複数回アクセスするリピーターがいることを示している。また、訪問数の推移をみると、サイト開設時の 2012 年 6 月から、徐々に利用者が増え、常にある程度のアクセス数があることが分かる。Web サイトでの方言に関わる取り組みの情報を配信する取り組みが、ある程度有効だということを示唆するものととらえて良いだろう。

その中でも、特に、2012 年の年末あたりから現在にかけて、利用者が増えていることが分かる。その増加が目立つ時期は、本 Web サイトのコンテンツの内、被災地の方言研究文献目録の公開、伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集の公開、そして、それに伴う宣伝活動を行った時期に該当する。そのため、その内容に興味を持ったユーザーのアクセスが増えたと考えられる。これらのコンテンツの Web 配信が効果を上げたと評価できる。

図 3.4a 方言ネットへの訪問数の推移 (集計単位は週区切り)

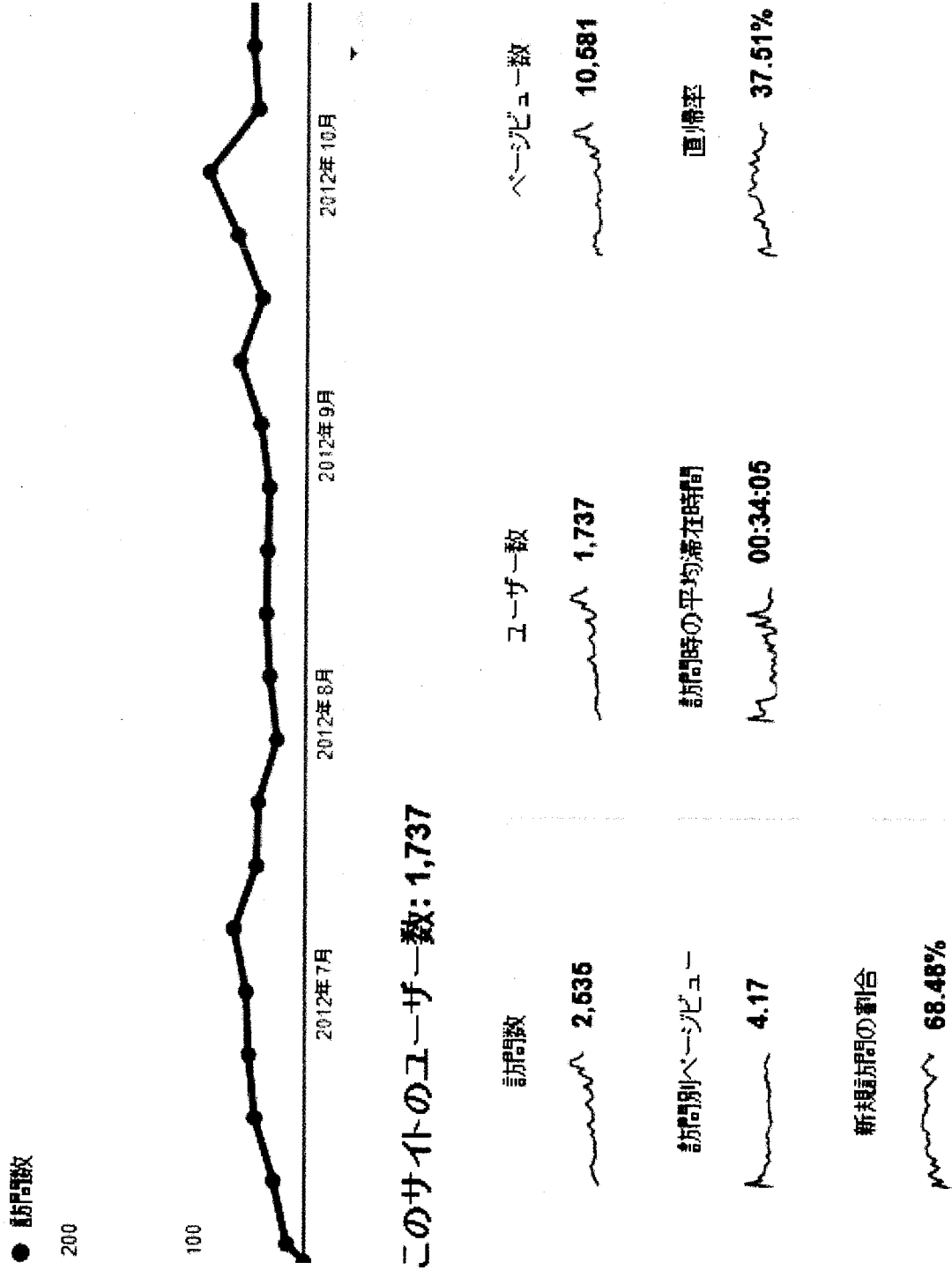


図 3.4b 方言ネットへの訪問数の推移 (集計単位は週区切り)

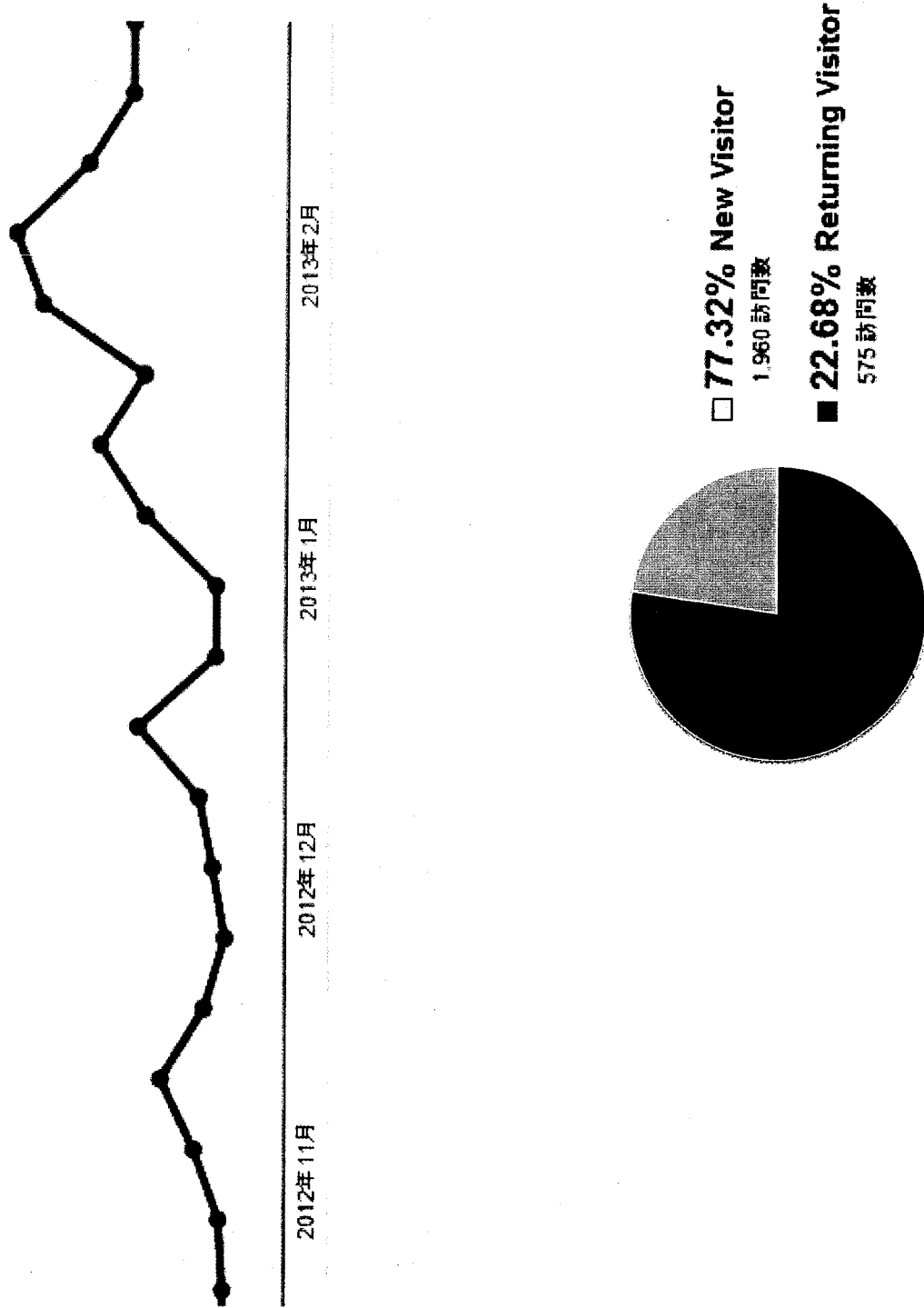


表 3.1 都道府県別方言ネット訪問者数

No	地域	訪問数	訪問別 ページビュー	訪問時の 平均滞在時間	新規訪問 の割合	No	地域	訪問数	訪問別 ページビュー	訪問時の 平均滞在時間	新規訪問 の割合
1	東京	1,048	4.27	0:47:14	70.99%	11	京都	36	2.89	0:44:58	86.11%
2	宮城	580	5.34	0:37:08	68.28%	12	北海道	27	3.44	0:03:02	59.26%
3	神奈川	86	4.71	0:08:45	93.02%	13	青森	23	2.74	0:12:42	86.96%
4	大阪	53	2.94	0:08:50	98.11%	14	茨城	21	3.81	0:02:21	90.48%
5	福島	51	3.31	0:09:11	94.12%	15	兵庫	21	3.57	0:02:59	100.00%
6	千葉	45	4.02	0:11:58	91.11%	16	山形	19	3.32	0:23:43	73.68%
7	岩手	42	4.36	0:07:41	69.05%	17	新潟	19	2.32	0:00:28	100.00%
8	福岡	42	2.62	0:12:26	97.62%	18	群馬	18	5.78	0:21:07	77.78%
9	埼玉	41	3.71	0:30:01	97.56%	19	静岡	16	4.31	0:06:30	87.50%
10	愛知	39	2.36	0:08:16	89.74%	20	広島	15	3.2	0:01:10	93.33%

次に、利用者の利用地域を、都道府県ごとに集計した結果を示す(表 3.1)。ここでは上位 20 県の集計結果を示している。なお、表 3.1 の「訪問数」は図 3.4 のものと同じであり、同一ユーザーの幾度かの訪問も、その都度、数えた値となっている。また、Google Analytics の地域別の集計の根拠となる、ユーザーの地域の判別は、ユーザーの PC の IP アドレスと地域のマッピングをもとに判別、集計されている。

さて、表 3.1 で最も訪問者数が多いのは、東京都、次いで宮城県、やや数を減らして、神奈川県、大阪府と続いている。また、今回の東日本大震災で津波の被害を受けた太平洋沿岸の 5 県(青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県)の訪問数も、白黒反転のセル表示で示したように、上位 20 位以内に位置している。

本 Web サイトのコンテンツは、宮城県の方言の内容を中心に作られており、宮城県に住む人にとって特に関心を引くもので、その分、宮城県の訪問数が多くなるのは想像に難くない。また、Web サイトについての各種宣伝も、東北大学方言研究センターが関係する諸機関など、近隣地域へのものが自然多くなり、それも宮城県の訪問数の多さにつながっていると考えられる。我々の関係者が、ネットコンテンツ作成のためにアクセスするのも、宮城県の訪問数が多くなった所以だろう。そういった事情を差し引いても、宮城県の訪問数は多く、その多さというのは、方言ネットによる情報の配信が有用であったということを示しているものと思われる。

また、宮城県の訪問数の多さを考慮に入れたうえで、特に注目すべきは、訪問数 1 位に位置する東京都である。東京都は、東日本大震災による直接的な被害は比較的少なかったにも関わらず、訪問数で 1 位を占めている。もちろん、東京都の人口の多さや、東京都には、諸大学や諸研究機関など、我々、方言学の分野の関係者が多いということ、さらに、他県に比してインターネット利用者数の多寡などの条件差があることも考慮に入れなければならない。だが、それを考慮しても他県に比した東京都の訪問数の多さは注目に値する。

また、直接的な被害が少なかったにも関わらず、上位に来ている府県という意味では、神奈川県（3位）、大阪府（4位）、千葉県（6位）、福岡県（8位）、埼玉県（9位）愛知県（10位）という、遠隔地も含む日本の広範囲からの訪問があるという点も、この表の示す値の特徴と言える。

この一連の結果は、方言ネットによる情報配信が、被災地のみならず地域の方々にも留まったということを示している。その点で、方言ネットの掲げる目的の一つ、被災地の方言に関する情報を発信し、多くの人々に共有してもらうことで、被災地の支援を行う、また、方言をキーワードにしたさまざまな情報を利用してもらいながら、被災地の方言に対する社会的関心を高めてもらう、という意図を、一定程度、達成できたということが言えるだろう。

3. 5. 方言ネットの成果と今後の課題

本節では、まず、方言ネットのこれまでの運用状況の分析を踏まえ、ネットに載せた主たるねらい、情報の拡散・周知に関わる成果を評価するとともに、その課題を取り上げる。

そもそも、方言ネットの配信する情報やコンテンツは、例えば、ふるさとの方言会話の配信による心理的支援や、方言概説による事前の予習など、遠隔地に避難した方や、全国に潜在する支援者の方にこそ利用してもらいたい内容がある。すなわち、全国の方々目に触れてこそ、その目的が達成できると言える。一方、報告書や冊子などの紙媒体のみでは、情報発信の効果が限られ、十分に利用してもらえない可能性がある。その点、全国どこからでも無制限にアクセスできるネットによる情報配信は、その目的にかなう可能性のある情報発信手段と捉えられる。

今回の Google Analytics による運用状況の分析・考察によれば、全国各地から方言ネットへの訪問があったことは事実であり、その意味で、各地の方々に、被災地の方言に関わる情報を広めることには成功したと言えるだろう。

ただし、それがそのまま、遠隔地に避難しているの方々などに方言ネットで情報が届いたということにつながるわけではない。その点については、今後、避難しているの方々などへのインタビューなどで、直接、検証することが求められる。

また、これまで運用してきた個々のコンテンツや、今後、作成を考えているコンテンツに関わる課題というのも、それぞれあるが、一つ一つ触れると細くなるため、ここではその詳細には触れない。大きくまとめれば、より多くの様々なコンテンツを充実させること、コンテンツ一つ一つの完成度を高めることが課題と言える。

また、「東日本大震災と方言ネット」をより有効なものとするためには、次のような課題も待ち構えている。

- ① ネットを使えない環境や人々への対応
- ② Web サイトに掲載すべき情報の収集
- ③ 次の災害に備えた「震災ネット」の準備

①については、ネットのみの問題ではなく、被災地の支援に向けての取り組みの中で、全体的に考えていかなければいけない。②については、さしあたり、多くの方々からの情報提供を待つことになるが、効率的な運用のために、積極的な情報収集のシステムを工夫すべきであろう。③については、今回の「震災ネット」自体が、震災から1年後という時期にようやく開始されたものであることへの反省がある。今回の試みを土台に、次の災害に備えた準備が各地で進むことが期待される。現段階で可能な情報収集やコンテンツの準備を着実に進めておく必要があるだろう。

こうした取り組みを総合的に続けていき、被災地の方言への関心を高め、災害とことばの問題をクローズアップしていくことが、結果として、必要な情報を届ける目的の達成にもつながっていくと考える。その意味で、方言ネットの活動を宣伝・周知していくことが最も大きな課題となる。

【参考文献】

- 魏ふく子・石山理恵 (2012) 「復興スローガンにおける方言の使用と意識」『日本方言研究会第94回研究発表会発表原稿集』日本方言研究会
- 小林隆 (2012) 「方言ネットでつなぐ」『第30回社会言語科学会研究大会予稿集』社会言語科学会
- 坂喜美佳・小原雄次郎 (2012) 「支援謝のための方言パンフレット作成とその有用性」『日本方言研究会第94回研究発表会発表原稿集』日本方言研究会
- 竹田晃子 (2012) 『東北方言オノマトペ用例集』国立国語研究所
- 東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救う—3.11被災地からの提言』ひつじ書房
- 中西太郎 (2012) 「情報ネットワーク「東日本大震災と方言ネット」の構築」『日本方言研究会第94回研究発表会発表原稿集』日本方言研究会

(第3章 中西太郎執筆)

4. 被災地における方言研究文献目録の作成と公開

4. 1. 目録作成の目的

本章で掲げる目録は、被災地^{*}の方言研究に関する文献・資料（書籍、論文、市町村史）のものである。この作成にあたっては、方言のこれからの記録に向けて、被災地の方言がどのように研究されてきたのかを把握することを目的とした。

東北大学方言研究センター（2012）『文化庁委託事業報告書 東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究』（<http://www.sinsaihougen.jp/>センターの取り組み/文化庁委託事業報告書）では、方言の記録・保存という観点から今後取り組むべき課題は何かを見出すため、目録を用いて文献・資料に関する分析を行っている。目録によって量的調査を行い、またこれらの文献・資料に目を通して、どのような分野、地域の研究がなされているのかを確認し、研究の不足している箇所について検討を行った。これについては東北大学方言研究センター（2012）『方言を救う、方言で救う—3.11被災地からの提言』（ひつじ書房）の第2章も参照されたい。

ここに掲載する目録は、上記で扱った目録の増補改訂版である。

※青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の津波による被害を受けた太平洋岸、及び東京電力福島第一原子力発電所事故による避難指示区域並びに計画的避難地域、特定避難勧奨地点を含む市町村

4. 2. 目録の作成にあたって

4. 2. 1. 探し方

目録の作成にあたって、どのように文献・資料を探したかを以下に記す。

- ①『20世紀方言研究の軌跡—文献総目録—』（日本方言研究会編、2005年、国書刊行会）

だいたい明治期から2001年までの方言書目、方言論文（資料）がそれぞれ総記と地方（各県ごと）に分けて記載されている。2001年までの書籍、論文はこれをベースとした。

- ②『国語年鑑』1954～2009年版（国立国語研究所編、大日本図書）

国語年鑑にはその年の刊行図書一覧、雑誌論文一覧があり、どちらともその中に「方言、民俗」という項目があるので、そこを見ると当該地域の書籍、文献があるかどうか分かる。

①で探しきれない2002～2008年の書籍・論文はここで補った。

- ③ インターネット

日本語情報資料館（<http://www6.ninjal.ac.jp/>）や CiNii（<http://ci.nii.ac.jp/>）などの学術文献データベースを用いて、「方言」「仙台」「宮城」などのキーワードで検索。上述の手順で取りこぼしがあった場合これで補完した。

4. 2. 2. 今後の課題

なお、上述の探し方では、各被災地の市町村史にある方言資料はリストアップできず、個別に確認する必要がある。これまで多数確認し、目録に掲載しているが、現在でもなおすべてを確認するには至っていない。

また、この探し方のどの方法でも確認・入手できていない資料も少なからずある。

一つには、①で確認したところでは存在するはずだが所在不明（掲載書誌不明）であるものがある。また、例えば2009年以降にX市Y地区の方言を集めた『Y地区のことば』という本が出版されていたとしても、③では市町村以下の地名での検索は基本的に行っていないため、リストアップされていない可能性もある。同様に『わが町の方言』のように《地名》が入っていないければ、これもリストアップされていない。

さらにこれらを補充し、内容の充実をはかることが今後の課題となる。

4. 3. 目録の公開

次頁から掲載する目録は、2012年12月よりWebサイト「東日本大震災と方言ネット」にて配信している(<http://www.sinsaihougen.jp/>大震災と方言活動情報/研究者の方へ/被災地方言研究文献目録/)。ここでは、実際にダウンロードして利用するときの便を考え、ファイル形式もExcelとPDFの2種類を揃えている。現段階では利用制限なども設けていないため、多くの研究者の利用が望まれる。

被災地方言研究文献目録

被災地方言研究文献目録

書籍の場合

Total No.	書籍/ 論文/ 市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
29	書籍	29	佐藤政五郎	1987	南部のことば 第二版 増補新版	伊吉書院	196	八戸市	《記述的研究》方言集	『南部のことば』より4466語増補。
32	書籍	32	岡田一二三	1996	みちのく 南部の方言	伊吉書院	?	?	?	未調査。

発行年順に並んでいます。
(論文、市町村史も同じ。)

ページは
総ページ数です。

該当する被災地が挙げられています。
「地名(地名)」とあるのは、「現在の市町村名(旧市町村名)」です。
(論文、市町村史も同じ。)

論文の場合

Total No.	書籍/ 論文/ 市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
40	論文	4	内田武志	1934	青森県方言調査報告	土の香12-3(土俗趣味社)	46-71	八戸市、おいらせ町(百石町)	《記述的研究》方言集	
43	論文	7	宮良当壮	1940	青森県秋田両県に於けるP音	[安藤教授還暦祝賀論文集]	1017-1040	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)	

「雑誌名xx-xx(発行所)」です。
xx-xxの部分は巻号です。

論文が書籍に収録されている場合は、
書籍名を〔 〕で括弧しています。

雑誌や書籍中の何ページに載っているかが
示されています。()で数字が括弧されている場合は
論文の総ページ数です。

市町村史の場合

Total No.	書籍/ 論文/ 市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
108	市町村史	1	正部家要	1977	階上町誌	階上町	799-830	階上町	《記述的研究》方言集	第五章 方言・訛語。

市町村史の何ページに載っているかが
示されています。

「内容」は、以下のように分類されています。(書籍、論文も同じ。)

- ▼研究手法・対象分類
 - 《記述的研究》《地理的分布》《世代差》《プロトグラム》《共通語化》
- ▼内容分類
 - ・音声；(音声、音韻、アクセント、イントネーション、その他)
 - ・語彙；(意味、用法、その他)
 - ・方言集
 - ・文法；(文法概説、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、その他)
- ・言語行動；(談話分析、表現など)
- ・待渡表現；(敬語、その他)
- ・談話資料
- ・その他；(方言意識など)

書籍/論文/市町村史		編著者		発行年		書名		発行所		頁数		地域		内容		注	
Total No.	No.																
1	青森書籍	1	不明	19--	八戸附近方言及訛語	不明(私製)	4	八戸市	《記述的研究》方言集	国研『青森県方言資料集1』所収。							
2	青森書籍	2	八戸郷土研究会	19--	方言採集録	八戸郷土研究会	127	八戸市	《記述的研究》方言集	名詞は「天文」「地理」など語彙ごとにあり、ほかに「代名詞」「動詞」など品詞ごとにまとめられている。国研所蔵。							
3	青森書籍	3	築瀬栄	1906	教育適用南部方言集	八戸印刷	53	南部地方	《記述的研究》方言集								
4	青森書籍	4	青森県師範学校	1907	方言調査報告	小藤印刷所	16	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。							
5	青森書籍	5	青森県	1908	青森県方言訛語	青森県庁	110	全域	《記述的研究》方言集	「総説」として津軽方言についての音声・音韻、また文法概説がある。南部方言については方言集あり。国研『青森県方言資料集1』所収。							
6	青森書籍	6	東奥日報社	1932	青森県方言集(最新東奥日用語辞典所収)	東奥日報社	48	全域	《記述的研究》方言集								
7	青森書籍	7	小井川潤次郎	1932	青森県八戸市近傍植物方言	小井川潤次郎	46	八戸市	《記述的研究》方言集	植物名。国研『青森県方言資料集2』所収。							
8	青森書籍	8	青森県師範学校 菅沼貴一	1935	青森県方言集	青森県師範学校	180	全域	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/助動詞/活用)								
9	青森書籍	9	菅沼貴一	1936	青森県方言集(改訂本)	今泉書店	190	全域	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/助動詞/活用)								
10	青森書籍	10	江渡益太郎	1949	正しく美しいことばの生活を求めて 私の方言研究ノート	三戸郡地引小学校	54	八戸市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/《その他》方言矯正	南部方言についての言及。国研『岩手県方言資料集1』所収。							
11	青森書籍	11	北山長雄	1951	青森県方言音韻語法の特徴形の実態	国研報告書	6	?	?	未調査。							

Total No.	原書名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
12	青森書籍		12	北山長雄	1951	青森県方言の概観	国研報告書	113	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)/方言集/文法(文法概説)/《地理的分布》語彙(その他(語形))	地理的分布は「メダカ」と「神官」。
13	青森書籍		13	日野資純	1958	青森方言から共通語へ—音韻アクセントを中心として—	日野資純	22	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)	青森県全般について。国研『青森県方言資料集1』所収。
14	青森書籍		14	寺井義弘	1962	青森県南部方言考	八戸市教育委員会	112	南部地方	《記述的研究》音声(音声/音韻)/方言集/文法(文法概説/活用)	表紙には「昭和37年10月」とあるが、内書きに1962.9.25の日付あり。国研『青森県方言資料集3』所収。
15	青森書籍		15	読売新聞社青森支局	1965	青森のことば	読売新聞社青森支局	31	全域	《その他》	新聞の連載記事。雑多な内容。
16	青森書籍		16	此島正年	1966	青森県の方言	青森県文化財保護協会	220	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/語彙(語彙/意味/用法)/文法(助詞/活用/条件表現)/《共通語化》音声(音韻)/語彙(意味/用法)/文法(助詞)/待遇表現(敬語)	共通語学習法の記述も。
17	青森書籍		17	九学会連合下北調査委員会	1967	下北—自然・文化・社会—	平凡社	563	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》音声(アクセント)/文法(助詞/活用/ボイス)/待遇表現(敬語)/《地理的分布》音声(アクセント)/語彙(グロットグラム)語彙	調査対象地域は下北半島すべて。
18	青森書籍		18	菅沼貴一	1975	青森県方言集	国書刊行会	190	全域	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/活用)	再刊本。原本は1936年刊。
19	青森書籍		19	青森県教育委員会	1975	青森県民俗分布図—緊急民俗資料分布調査報告書—	青森県教育委員会	62	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地図。北海道教育委員会・青森県教育委員会編・岩手県教育委員会編/天野武監修(2000)『都道府県別日本の民俗分布地図集成1 北海道・東北地方の民俗地図』北海道・青森・岩手』東洋書林所収。

Total No.	青森書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
20	書籍	20	工藤祐	1979	津軽と南部の方言	北方新社	250	南部地方	《記述的研究》方言集	青森県の文化シリーズ15。津軽・南部の方言についての語彙集。自然の部(鳥獣、地勢)、生物の部(鳥獣、魚介、昆虫、植物)。
21	書籍	21	平山輝男	1982	北奥方言基礎語彙の総合的研究	桜楓社	642	八戸市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/ボイス/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	
22	書籍	22	佐藤政五郎	1982	南部のことば	伊吉書院	373	八戸市	《記述的研究》方言集	約17000語。
23	書籍	23	館光子(松館光城)	1983	ことばのごもず方言が語る私の八戸	八戸地域社会研究会	164	八戸市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/語彙(意味・用法)/談話資料/その他(方言意識)	八戸町大字塩町。八戸で話されている方言全般について広く記述されている。但し、文法事項などは少ない。主に語彙、談話的資料、音話など。
24	書籍	24	高松敬吉	1984	下北半島昔話集	岩崎美術社	257	下北郡	《記述的研究》その他(昔話)	全文方言口調(関敬吾『日本昔話集成』よりの収録数が多い。すべて地の話者から採録)共通語対訳はなし(接続助詞等一部括弧書きで記載する程度)。
25	書籍	25	高橋圭三	1984	教育適用南部方言集:共通語索引並びに解説	高橋圭三	31	南部地方	《その他》	築瀬栄(1906)の共通語索引。
26	書籍	26	大嶋孜	1986	下北半島東通村の昔話 わたしの民話ノート	青森県国民教育研究所	212	東通村	《記述的研究》文法(文法概説)/その他(昔話)	一村内のものとしては詳しい。「大利部落の方言」とセットの内容。
27	書籍	27	大嶋孜	1986	下北半島大利部落の方言	青森県国民教育研究所(青森教文社)	172	東通村	《記述的研究》方言集	「東通村の昔話」とセットの内容。
28	書籍	28	寺井義弘	1986	青森県南・岩手県北・八戸地方方言辞典 古語出典付	寺井義弘	452	八戸市	《記述的研究》方言集/文法(文法概説)	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
29	書籍	29	佐藤政五郎	1987	南部のことば 第二版 増補新版	伊吉書院	196	八戸市	《記述的研究》方言集	『南部のことば』より4466語増補。
30	書籍	30	佐藤政五郎	1990	「第二版 南部のことば」補遺集	佐藤政五郎	47	八戸市	《記述的研究》方言集	『南部のことば』第二版の後に収集した2069語をまとめたもの。
31	書籍	31	佐藤政五郎	1992	南部のことば 第3版 増補改訂	伊吉書院	206	八戸市	《記述的研究》方言集	「第二版 南部のことば」補遺集」までの23400余語をまとめたもの。
32	書籍	32	岡田一二三	1996	みちのく 南部の方言	伊吉書院	?	?	?	未調査。
33	書籍	33	大橋純一	2002	東北方言音声の研究	おうふう	469	八戸市	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声)	被災地に関しては他に、岩手県洋野町(種市町、大野村)、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、高古市(高古市、田老町、川井村)、大槌町、宮城県気仙沼市(本吉町)、仙台市、山元町、福島県楢葉町、いわき市が調査地点となっている。
34	書籍	34	青森県	2003	青森県史 自然編 生物 別冊 青森県の生物呼称	青森県	238	全域	《地理的分布》語彙(意味・用法)	
35	書籍	35	平山輝男ほか 編/佐藤和之・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・平沢洋一・柳引洋子執筆	2003	〈日本のことば〉シリーズ2) 青森県のことば	明治書院	286	全域	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/方言集/文法(活用/文法概説)/待遇表現/その他(方言区画/方言意識/諺/なぞなぞ/方言詩/わらべ歌/民謡/昔話)	概説書。
36	書籍	36	佐藤政五郎著 /佐藤運・佐藤いつ編著	2006	へんだら、まんつ 南部のことば抄	木村書店	278	南部地方	《記述的研究》方言集	方言語彙の中でも古語の残存と思われる語について掲載し解説している。

Total No.	青森 県名	書籍/ 論文/ 市町村史	No.	著者	発行 年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
37	青森	論文	1	菅沼貴一	1933	「青森県方言集」より	国語教育18-3(国語研究会)	68-73	全域	《記述的研究》方言集	『青森県方言集』からの抜粋か。
38	青森	論文	2	菅沼貴一	1933	青森県の方言	郷土号1(青森県師範学校校友会)	99-132	全域	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/助動詞/活用)	
39	青森	論文	3	八角三郎	1933	陸奥下北半島地名考	旅と伝説6-6(岩崎美術社)	2-11	東通村	《記述的研究》その他	下北地方のアイヌ語起源とみられる地名を収集し、考察。
40	青森	論文	4	内田武志	1934	青森県方言調査報告	土の香12-3(土俗趣味社)	46-71	八戸市、おいらせ町(百石町)	《記述的研究》方言集	
41	青森	論文	5	永田吉太郎	1936	青森県八戸市方言稿	方言6-2(春陽堂)	153-155	八戸市	《記述的研究》方言集/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用)	
42	青森	論文	6	佐藤政五郎	1936	南部方言訛語序説	郷土号4(青森県師範学校校友会)	181-286	南部地方	《記述的研究》方言集/文法(助詞/助動詞/活用)	
43	青森	論文	7	宮良当壮	1940	青森県秋田両県に於けるP音	[安藤教授還暦祝賀論文集]	1017-1040	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)	
44	青森	論文	8	大西久枝	1952	青森県下北郡方言に於ける音韻について	文学論議2(東洋大学国語国文学会)	18-29	下北郡	《記述的研究》音声(音韻)	
45	青森	論文	9	此島正年	1952	青森(ことば風土記)	言語生活12(筑摩書房)	38-39	南部地方	《記述的研究》文法(文法概説)	津軽地方と南部地方について述べている。
46	青森	論文	10	此島正年	1952	終助詞による敬意のあらわし方(青森県)	国研(52)報告	(21)	全域	《記述的研究》待遇表現	国立国語研究所の地方調査員報告。『地調(52)報告 終助詞による待遇表現(北海道・東北)』の中にとじられている。著者自身の原稿。
47	青森	論文	11	此島正年	1952	「これからの敬語」についでのこと(青森県)	国研(52)報告	(28)	全域	《記述的研究》その他	「これからの敬語」についで青森県方言の視点から検討する。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
48	論文	12	豊巻英吉	1953	南部(八戸)方言に於ける助動詞について一特にサル・エルについて	国語学12(国語学会)	96-97	八戸市	《記述的研究》文法(活用/助動詞)	
49	論文	13	此島正年	1954	青森方言の敬語法	弘前大学人文社会科学会	39-45	南部地方	《記述的研究》待遇表現(敬語)	津軽地方と南部地方について述べている。
50	論文	14	小島俊之亮	1956	下北地方の田名部弁(ことば風土記)	言語生活52(筑摩書房)	75-76	下北地方	《記述的研究》音声(音声)/文法(文末形式・文末表現)	
51	論文	15	此島正年	1956	青森	[NHK国語講座 方言の旅]	11-16	八戸市	《記述的研究》音声(アクセント)/文法(助詞)	内容は黒石市と五戸町の全話例で被災地には直接関係ないが、八戸ではこのように言う、という箇所が数個ある。
52	論文	16	小島俊之亮	1956	下北方言の表情(ことば風土記)	言語生活63(筑摩書房)	74-75	下北郡	《記述的研究》音声(音声)/その他(方言意識)	
53	論文	17	此島正年	1960	方言と共通語の交渉一青森県言語の語法を例として一	弘前大学人文社会科学会	105-116	全域	《記述的研究》文法(文法概説/助詞/助動詞/形容詞など)	主に津軽地方。
54	論文	18	此島正年	1961	方言の実態と共通語化の問題点 2 青森	[方言学講座2]	127-149	南部地方	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(文法概説/助詞)/待遇表現(敬語)	津軽地方と南部地方について述べており、方言の概要を説明した上で、共通語化のために直すべき点を説明している。
55	論文	19	寺井義弘	1963	青森県南部方言考(抄)	国語研究16(日本書院)	(8)	八戸市	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)	
56	論文	20	川本栄一郎	1963	青森県下北方言におけるワ段音	国語学研究3(東北大学文学部国語学研究会)	74-85	東通村	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声/音韻)	
57	論文	21	柴田武	1964	下北方言の分布	人類科学17(九学会連合)	72-87	東通村	《地理的分布》音声(アクセント)/語彙	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
58	論文	22	此島正年	1965	下北方言語法考	弘前大学人文社会科学会 35(弘前大学人文社会科学会)	53-64	東通村	《記述的研究》文法(文法概説/助詞/活用)/待遇表現(敬語)/《地理的分布》文法(文法概説)	
59	論文	23	柴田武	1965	下北の方言	都立大学方言学会 会報6(都立大学方言学会)	(6)	東通村	《記述的研究》音声(アクセント)	
60	論文	24	川本栄一郎	1965	青森県下北方言の「イ」と「ウ」	国語学61(国語学会)	16-28	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》《地理的分布》音声(音韻)	
61	論文	25	日野資純	1966	下北地方における共通語教育—従来の成果と今後の問題点—	人類科学18(九学会連合)	146-171	東通村	《記述的研究》音声(音声)/《共通語化》音声(音声/アクセント)/文法(文法概説/助詞/文末表現)	
62	論文	26	川本栄一郎	1966	青森県下北地方のウ段拗長音	国語学研究6(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	1-14	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》音声(音声/音韻)/《地理的分布》音声(音声/音韻)/《世代差》音声(音声)	
63	論文	27	川本栄一郎	1966	青森県下北地方における「あやめ」の方言分布とその解釈	国語学67(国語学会)	47-59	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》音声(音声)/《地理的分布》音声(音声)	
64	論文	28	佐藤喜代治・加藤正信	1974	青森県東南部・岩手県西北部地方の言語調査報告—音韻・アクセントの部—	日本文化研究所 研究報告別巻11(東北大学日本文化研究所)	1-17	三沢市、おいらせ町(百石町)	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/《地理的分布》音声(音声/音韻/アクセント)/《意味・用法》	
65	論文	29	佐藤喜代治・加藤正信	1975	青森県東南部・岩手県西北部地方の言語調査報告—文法・語彙の部—	日本文化研究所 研究報告別巻12(東北大学日本文化研究所)	1-20	三沢市、おいらせ町(百石町)	《記述的研究》文法(助詞/助動詞/条件表現/動詞など)/《地理的分布》語彙(意味・用法)	
66	論文	30	井上史雄	1976	集落内の言語差—下半島上田屋—	北海道大学人文科学論集12(北海道大学教養部人文科学論集編集委員会)	65-101	東通村	《地理的分布》《世代差》《共通語化》語彙(意味・用法)	
67	論文	31	加藤正信	1978	八戸方言の系統	〔伝統と未来 八戸市民大学講座講演集 1977〕	102-113	八戸市	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/文法(助詞)/その他(方言区画)/《共通語化》その他	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
68	論文	32	川本栄一郎	1982	青森県における「鋸」の成長段階名	文経論叢17-3人文科学論2(弘前大学人文学部)	101-118	全域	《記述的研究》《地理的分布》語彙(語形)	
69	論文	33	佐々木隆次	1982	あいさつお国めぐり(12) 青森の巻一直截にして簡明	言語生活365(筑摩書房)	94-95	南部地方、下北地方	《記述的研究》語彙(意味・用法)	津軽地方、南部地方、下北地方それぞれについて言及。
70	論文	34	此島正年	1982	青森県の方言	[講座]方言学4 北海道・東北地方の方言]	215-236	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(文法概説/助詞)/《その他》研究史/区画	
71	論文	35	高橋宏一・二ツ矢昌夫・竹浪二三正	1982	青森県言語調査の統計的解析(1)	Science Reports of the Hirosaki Univ. 29-2(弘前大学理学部)	93-111	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》その他(統計)	
72	論文	36	此島正年	1983	青森方言語法にまつわる諸問題 共通語との関連を主として	[現代]方言学の課題1)	121-137	全域、三沢市	《記述的研究》文法(文法概説/助詞/活用/動詞用)/《共通語化》文法(助詞/活用/動詞など)	青森県全般にかかわる記述。その中に三沢市について触れている部分がある。
73	論文	37	二ツ矢昌夫・高橋宏一	1983	青森県言語調査の統計的解析(2)	Science Reports of the Hirosaki Univ. 30-1(弘前大学理学部)	11-19	東通村、六ヶ所村	《記述的研究》その他(統計)	
74	論文	38	川本栄一郎	1984	青森県方言におけるヒッキとモツケとケアロの言語地理学的考察	文経論叢19-3人文科学論4(弘前大学人文学部)	85-111	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(白石町)、八戸市、階上町	《記述的研究》《地理的分布》語彙(その他(語形))	
75	論文	39	大阪真理	1984	青森県における親族語彙(1)	方言誌あおもりけん2(青森・方言研究会)	10-20	東通村、六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・用法)	広く青森全域に渡った調査、「祖父」を意味する方言の分布。
76	論文	40	佐々木隆次	1984	語源めぐり歩き	方言誌あおもりけん2(青森・方言研究会)	21-29	六ヶ所村、三沢市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	「おばあさん」に関する語彙の記載あり。

Total No.	青森	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
77	青森	論文	41	八条志馬	1985	高山地方と徳島、大 阪、青森、北海道の方 言研究	北海道方言研究会 会報10(北海道方 言研究会)	(4)	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)		
78	青森	論文	42	大阪真理	1985	青森県における親族 語彙(2)	方言誌あおもりけ ん3(青森・方言研 究会)	4-26	東通村、六ヶ 所村、三沢 市、八戸市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・ 用法)	広く青森全域に渡った調 査、「祖母」「父」「母」を 意味する方言の分布。	
79	青森	論文	43	渡辺修平	1985	青森アクセントについ て その1	方言誌あおもりけ ん3(青森・方言研 究会)	1-3	全域	《記述的研究》音声(アクセント)		
80	青森	論文	44	井上史雄	1986	〈新方言〉と共通語の 20年後 下北半島上 田屋	東京外国語大学論 集36(東京外国語 大学)	62-80	東通村	《共通語化》語彙(その他(語形))		
81	青森	論文	45	八条志馬	1986	方言の研究 青森、秋 田、北海道	北海道方言研究会 会報13(北海道方 言研究会)	15-17	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)		
82	青森	論文	46	館光子	1986	謡曲と八戸	方言誌あおもりけ ん4(青森・方言研 究会)	1-3	八戸市	《その他》	八戸の言葉に関する雑 感・随想。	
83	青森	論文	47	大阪真理	1986	青森県における親族 語彙(3)	方言誌あおもりけ ん4(青森・方言研 究会)	3-26	東通村、六ヶ 所村、三沢 市、八戸市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・ 用法)	広く青森全域に渡った調 査、「兄」「姉」「未っ子」を 意味する方言の分布。	
84	青森	論文	48	佐々木隆次	1986	「グンズガサエビ」の 「グンズ」を求めて	方言誌あおもりけ ん4(青森・方言研 究会)	27-38	三沢市、八戸 市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・ 用法)	「グンズ」に関する調査 (語彙)、ただし被災地域 に関するものは少ない。	
85	青森	論文	49	村上謙	1986	「クラハネア」	方言誌あおもりけ ん4(青森・方言研 究会)	50-51	三戸郡	《記述的研究》語彙(意味・用法)/文法 (活用)		
86	青森	論文	50	此島正年	1987	青森方言雑考	方言誌あおもりけ ん5(青森・方言研 究会)	1-4	八戸市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/文法 (条件表現/文末形式・文末表現)	「ウザネハク」、「マイ ネ」、「行クンダ」「起キン ダ」などの命令法。	
87	青森	論文	51	高山治	1987	県内高校生の方言意 識調査(1)	方言誌あおもりけ ん5(青森・方言研 究会)	22-33	八戸市	《記述的研究》《地理的分布》その他(方 言意識)	青森、弘前、八戸の高校 生を対象としており、各 市間での比較、男女差に も触れている。	

Total No.	書籍/ 論文/ 市町村史	原 名	No.	著 者	発 行 年	論 文 名	雜 誌 名	頁 数	地 域	内 容	注
88	論文	青森	52	館光子	1987	訛りは国の手形	方言誌あおもりけん5(青森・方言研究会)	38-39	八戸市	《その他》	方言に対する雑感、「なしろがえし」を八戸の商家で隠語として使っているという記述あり。
89	論文	青森	53	川本栄一郎	1988	青森県における「旧暦六月一日」を表わす名称の言語地理学的考察	[国語語彙語法論叢 此島正年博士喜寿記念]	634-654	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	
90	論文	青森	54	川本栄一郎	1988	青森県における「つらら」と「氷」の方言分布	方言誌あおもりけん6(青森・方言研究会)	11-15	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	
91	論文	青森	55	高山治	1988	県内高校生の方言意識調査(2)	方言誌あおもりけん6(青森・方言研究会)	49-82	八戸市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)/《その他(方言意識)》	青森、弘前、八戸の高校生を対象としており、各市間での比較、男女差にも触れている。
92	論文	青森	56	森下喜一	1991	地域別・年齢別にみた青森方言アの変化とその過程について1・2 音節名詞を中心に	[日本語論考]	128-144	八戸市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》音声(アクセント)	調査地域は八戸市、十和田市、野辺地町、むつ市、青森市、弘前市、五所川原市、今別町。
93	論文	青森	57	森下喜一	1991	青森方言アクセントの型とその変化について三・四音節語を中心に	作新学院大学院紀要1(作新学院大学院経営学部)	113-132	八戸市	《記述的研究》音声(アクセント)	
94	論文	青森	58	萬西孜	1991	女子大生の方言・共通語意識	方言誌あおもりけん9(青森・方言研究会)	1-11	全域	《記述的研究》その他(方言意識)	女子短大生の方言意識に関する調査。
95	論文	青森	59	大西拓一郎	1992	青森県八戸市新井田方言における身体感覚を表すオノマトベ	方言資料叢刊2(方言研究ゼミナール)	13-16	八戸市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
96	論文	青森	60	館光子	1992	方言随想「メドツ」ど「カダル」	方言誌あおもりけん10(青森・方言研究会)	53-55	八戸市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	「メドツ」(かっぱ)と「カダル」(参加する)に関する随想。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
97	論文	61	館花久二男	1992	ケガツの話(1)	方言誌あおもりけん10(青森・方言研究会)	50-52	八戸市	《記述的研究》談話資料	八戸方言による、八戸の昔話の記述。
98	論文	62	葛西孜	1992	女子短大生の方言使用状況	方言誌あおもりけん10(青森・方言研究会)	1-13	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)/その他(方言意識)	女子短大生の方言使用に関する調査。
99	論文	63	岡田一二三	1993	下北のサイとサマエ	方言誌あおもりけん11(青森・方言研究会)	32-33	下北地方、八戸市	《記述的研究》待遇表現	下北の待遇表現、雑感に近い。
100	論文	64	館花久二男	1993	ケガツの話(2) その2 ハチネンケガツ 八年続いた飢饉	方言誌あおもりけん11(青森・方言研究会)	34-35	八戸市	《記述的研究》談話資料	八戸方言による、八戸の昔話の記述。
101	論文	65	葛西孜	1993	「女性語」使用の実態と意識—女子短大生の場合—	方言誌あおもりけん11(青森・方言研究会)	1-31	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)/文法(条件表現/文末形式/文末表現)/その他(方言意識)	文末表現を中心に、女子短大生の女性語使用に関する調査。
102	論文	66	川本栄一郎	1994	津軽と南部のことば	[国語論究4 現代語・方言の研究]	156-181	全域	《地理的分布》語彙(意味・用法)/文法(文法概説)	
103	論文	67	川本栄一郎	1994	青森県と富山県における「かぼちや」の方言分布とその変遷	弘前大学国語国文学16(弘前大学国語国文学会)	1-21	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《記述的研究》《地理的分布》語彙	
104	論文	68	小泉智子	2003	六ヶ所村における方言語彙	弘前大学国語国文学29(弘前学院大学国語国文学会)	8-15	六ヶ所村	《記述的研究》《共通語化》語彙(意味・用法)	
105	論文	69	佐藤亮一	2006	青森県における「あさつての翌々日」を意味するキササツテの由来について 大正大学学生、大坪橋介君の意見をヒントとして	国文学踏査18(大正大学国文学会)	304-312	東通村、六ヶ所村、三沢市、おいらせ町(百石町)、八戸市、階上町	《記述的研究》語彙(意味・用法/その他(語源))/《地理的分布》語彙(意味・用法)	地点はLAJに準拠。

青森論文

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
106	論文	70	吉田雅昭	2008	東北方言における基本的時間表現形式について 形式の変化と文法体系との相関	日本語の研究4-2 (日本語学会)	45-60	八戸市	《記述的研究》文法(テンス・アスペクト)	
107	論文	71	津田智史	2011	東北諸方言アスペクトの捉え方	東北文化研究室紀要52(東北大学大学院文学研究科東北文化研究室)	左21-35	六ヶ所村、三沢市、八戸市	《記述的研究》《地理的分布》文法(テンス・アスペクト)	調査地点は八戸市、三戸町、三沢市、十和田市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村、むつ市(むつ、大畑)、大間町、弘前市、黒石市、大鰐町、青森市、平内町(小湊、狩場沢)、外ヶ浜町(三厩)、鯉ヶ沢町、深浦町、五所川原市、中泊町。

青森市町村史

Total No.	原 名	書 籍 / 論 文 / 市 町 村 史	No.	編 者	発 行 年	書 名	発 行 所	頁 数	地 域	内 容	注
108	青森	市町村史	1	正部家奨	1977	階上町誌	階上町	799-830	階上町	《記述的研究》方言集	第五章 方言・訛語。
109	青森	市町村史	2	東通村史編集委員会	1997	東通村史 民俗・民俗 芸能編	東通村	376-433	東通村	《記述的研究》音声(音韻)/語彙/文法(助詞)/その他	岡田一二三著 第九節「方言」上、エッセイ的な概説あり。
110	青森	市町村史	3	八戸市史編集委員会	2005	新編 八戸市史 別編 自然編	八戸市史編集委員会	485-501	八戸市	《記述的研究》語彙/その他	第2部 第6章 方言呼称に関する一考察。
111	青森	市町村史	4	八戸市史編集委員会	2010	新編 八戸市史 民俗 編	八戸市史編集委員会	519-539	八戸市	《記述的研究》方言集/その他	第七章 第二節 ことば・方言。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
112	岩手	書籍	1	田鎖直三	19--	南部地方方言詠語調草稿	田鎖直三	36	南部地方	《記述的研究》方言集	「築瀬栄氏/昭和38年11月起草、昭和39年1月発行(八戸印刷所)セル南部方言集八路之二同ジ」とある。
113	岩手	書籍	2	八重樫真	1922	釜石町方言誌	日本民俗研究会	116	釜石市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(文法概説)	
114	岩手	書籍	3	田鎖直三	1928	気仙郡方言	田鎖直三	42	気仙郡	《記述的研究》方言集	国研『岩手県方言資料集2』所収。
115	岩手	書籍	4	上閉伊郡釜石尋常小学校郷土教育研究会	1931	釜石地方方言集	上閉伊郡釜石尋常小学校郷土教育研究会	23	釜石市	《記述的研究》方言集	国研『岩手県方言資料集1』所収。天体/部、地文ノ部などに分けられた語彙集。
116	岩手	書籍	5	下閉伊郡船越尋常小学校	1931	船越村ヲ中心セル発音ノ誤リト方言詠語	下閉伊郡船越尋常小学校	16	山田町	《その他》	国研『岩手県方言資料集1』所収。発音の矯正や共通語教育を目的としたもの。
117	岩手	書籍	6	八重樫真	1932	岩手県釜石町方言誌	日本民俗研究会	116	釜石市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式/文末表現)/待遇表現(敬語)	語数多い。
118	岩手	書籍	7	佐藤文治	1954	気仙地方のことば(社協シリーズ第2集)	大船渡市教育委員会	12	気仙地方(大船渡市)	《記述的研究》語彙(語彙・意味・用法)	気仙地方に見られる方言語彙について意味や語源などについてエッセイ的に解説。1972年第2版発行。
119	岩手	書籍	8	及川 勝穂	1955	上閉伊郡方言集	遠野郷土研究会 岩手県立遠野高等学校社会研究会	68	上閉伊郡	?	遠野市立図書館蔵。未調査。
120	岩手	書籍	9	小松代融一	1959	岩手方言の語彙(岩手方言研究第三集)	岩手方言研究会	406	全域	《記述的研究》方言集	南部・伊達のどの市町村のものかは不明。
121	岩手	書籍	10	小松代融一	1961	岩手方言研究史者(岩手方言研究第二集)	岩手方言研究会	1085	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集/語彙(意味・用法/その他(語源))/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/《その他》先行研究一覽・先行研究の区画	分量多い。過去の研究・資料をまとめている。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
122	岩手書籍	11	金野静一・菊池武人	1964	気仙方言誌	金野静一・菊池武人	170	気仙地方	《記述的研究》方言集/文法(文法概説)	
123	岩手書籍	12	佐藤文治	1965	気仙ことば	気仙ことば刊行会	147	気仙地方	《記述的研究》方言集	
124	岩手書籍	13	西井信男	1972	岩泉地方の方言訛語	岩泉町教育委員会	142	岩泉町	《記述的研究》方言集	巻末に「わらべ謡、はやしことば、響集」あり。
125	岩手書籍	14	松村佐紀子	1975	岩手県上閉伊郡大槌方言資料2	松村佐紀子	68	大槌町	《記述的研究》談話資料	
126	岩手書籍	15	本堂寛	1976	岩手県閉伊川流域言語地図集	岩手大学教育学部国語学研究室	116	宮古市	《地理的分布》語彙(その他(語形))	『日本語地図図』にある75項目を閉伊川流域で調査し、地図化したもの。
127	岩手書籍	16	岩手県教育委員会事務局文化課	1977	岩手県民俗地図—民俗文化財緊急分布調査報告書—	岩手県教育委員会	142	洋野町、久慈市、野田村、野曹代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、陸前高田市	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地図。北海道教育委員会・青森県教育委員会編・岩手県教育委員会編/天野武監修(2000)『都道府県別 日本の民俗分布地図集成』北海道・東北地方の民俗地図1 北海道・青森・岩手』東洋書林所収。
128	岩手書籍	17	金野菊三郎	1978	気仙方言辞典 付・音韻と語法	大船渡芸術文化協会	172	気仙地方	《記述的研究》音声(音声/音韻)/文法(活用/助詞/助動詞)/方言集/その他(諺)	
129	岩手書籍	18	佐藤文治	1980	気仙ことば(第2版)	大船渡市立博物館	234	気仙地方	《記述的研究》方言集	佐藤文治(1965)の再版。内容はほとんど同じで、こちらは校正後書きが付されている。
130	岩手書籍	19	本堂寛	1980	岩手県山田町 山田ことば辞典	岩手大学教育学部国語学研究室	185	山田町	《記述的研究》方言集/文法(助詞/助動詞)	

Total No.	真名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
131	岩手	書籍	20	伊藤麟市	1982	宮古の方言と敬語	田中タイプ印刷	189	宮古市	《記述的研究》方言集/待遇表現(敬語)	「第一部 宮古の方言」として語彙集になつていゝ。カタカナ表記。「第二部 敬語編」として具体的使用例を挙げながら語句レベルで解説を加えている。「第三部 宮古地方の諺警えことば考」の補遺として便諺も多少出る。巻末の近隣地域16地点の語彙対照表もあり。
132	岩手	書籍	21	大槌町民話研究会	1982	ふるさと大槌 吉里吉里方言辞典	三協企画出版部	63	大槌町	《記述的研究》方言集/言語行動(表現)	吉里吉里弁会話編として「店頭において」「トイレを尋ねるとき」などあり。
133	岩手	書籍	22	佐藤政五郎	1982	南部のことば	伊吉書院	373	洋野町、久慈市	《記述的研究》方言集	辞典。主は書森方言のため岩手の記述は少ない。
134	岩手	書籍	23	菅野嘉七	1989	気仙郡における方言言の調査	共和印刷企画センター	255	気仙郡	《記述的研究》方言集	
135	岩手	書籍	24	堀米繁男	1989	種市のことば 沿岸北部編	種市町歴史民俗の会	224	洋野町	《記述的研究》方言集/文法(助詞/助動詞)	
136	岩手	書籍	25	山浦玄嗣	1989	ケセン語入門 改訂補足版	共和印刷企画センター	464	気仙地方	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント/イントネーション)/語彙(意味・用法)/文法(文法概説/助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	教科書風。
137	岩手	書籍	26	田老町教育委員会	1989	郷土民俗文化遺産ガイド ふるさと資料集	田老町教育委員会	9	宮古市(田老町)	《記述的研究》方言集	他に「民話伝説、口碑伝説、なぞなぞ遊び、俗信・迷信」などあり。
138	岩手	書籍	27	九里拓洋	1990	田野畑の諺(たとえひこ)	九里 拓洋	118	田野畑村	《記述的研究》方言集/その他(諺)	
139	岩手	書籍	28	山田町教育委員会	1990	山田の方言1	山田町教育委員会	50	山田町	《記述的研究》方言集	アイウエオ順。

Total No.	岩手書籍/ 県名/ 市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
140	岩手書籍	29	山浦玄嗣	1992	みんなのケセン語1	共和印刷企画センター	102	気仙地方	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/言語行動(表現)	非常に詳細な記述。
141	岩手書籍	30	山浦玄嗣	1992	みんなのケセン語2	共和印刷企画センター	102	気仙地方	《記述的研究》音声(音韻/イントネーション)/文法(文法概説/助詞/活用/テンス/条件表現)	非常に詳細な記述。
142	岩手書籍	31	山田町教育委員会	1994	山田の方言2	山田町教育委員会	31	山田町	《記述的研究》語彙(語彙)/方言集/談話資料	『山田の方言1』に追加する語または新たに漁業関係用語集も附。三編の談話資料にも共通語対照で挙げられている。
143	岩手書籍	32	坂口忠	1999	宮古のことば	坂口忠	300	宮古市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
144	岩手書籍	33	山浦玄嗣	2000	ケセン語大辞典 上 1. 文法編 2. 語彙編(A~M)	無明舎出版	1445	気仙地方	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/語彙(意味・用法)/文法(文法概説/助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	分量多く、記述詳細。
145	岩手書籍	34	山浦玄嗣	2000	ケセン語大辞典 下 2. 語彙編(N~Z・記号)付録・和ケ索引	無明舎出版	1366	気仙地方	《記述的研究》語彙(意味・用法)	分量多く、記述詳細。
146	岩手書籍	35	平山輝男ほか編/齋藤孝滋・大野眞男・森下喜一執筆	2001	〈日本のことばシリーズ3〉岩手県のことば	明治書院	212	全域(特に久慈市、陸前高田市)	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト)	概説書。
147	岩手書籍	36	坂口忠	2001	宮古のことば2	坂口忠	351	宮古市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/言語行動(表現)/談話資料	道での挨拶(朝、昼、夕、夜)やさまざまな言語行動が載っている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
148	岩手	書籍	37	大橋純一	2002	東北方言音声の研究	おうふう	469	洋野町(種市町、大野村)、久慈市、野田村、菅代村、泉町、宮古市(宮古市、田老町、川井村)、大槌町	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声)	被災地に関しては他に青森県八戸市、宮城県気仙沼市(本吉町)、仙台市、山元町、福島県楡葉町、いわき市が調査地点となっている。
149	岩手	書籍	38	田中宣廣	2005	付属語アクセントからみた日本語アクセントの構造	おうふう	548	宮古市	《記述的研究》音声(アクセント)	
150	岩手	書籍	39	関谷徳夫	2007	いとしくおかしく懐かしく—私の吉里吉里語辞典	関谷徳夫	527	大槌町	《記述的研究》方言集	
151	岩手	書籍	40	大橋勝男	2008	太平洋沿岸方言音声の研究 上巻	おうふう	780	宮古市(川井村)	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/談話資料	
152	岩手	書籍	41	大橋勝男	2008	太平洋沿岸方言音声の研究 下巻	おうふう	835	宮古市(川井村)	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/談話資料	
153	岩手	書籍	42	堀米繁男	2008	種市のことば 解説編	種市町歴史民俗の会	227	洋野町	《記述的研究》方言集/語彙(意味・用法)	各語の用法が割合詳細に記されている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
154	岩手	論文	1	橋正一	1931	岩手県のジャンケン 掛け声	方言と土俗2-3(一言社)	24-31	洋野町、久慈市、野田村、山田町、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》語彙	語数多い。説明あり。
155	岩手	論文	2	橋正一	1931	岩手県海岸の風の 名	方言と土俗2-6(一言社)	11-13	洋野町、久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》語彙	説明なし。
156	岩手	論文	3	八重樫真道	1934	鹿から鯉に—釜石 町方言を中心に—	国語研究2-4(国語学研究会)	58-59	釜石市	《記述的研究》語彙(その他(語源))	
157	岩手	論文	4	宮良当壮	1941	宮城・岩手両県 方言調査小報	方言研究3(日本方言学会)	61-67	大槌町、釜石市	《記述的研究》《地理的分布》音声(音韻)	記述少ない。
158	岩手	論文	5	日本方言研究所	1947	岩手方言の 花園	日本の言葉1-3(日本の言葉研究会)	表紙4のみ	全域	《記述的研究》方言集	釜石や大槌などの方言が少し。
159	岩手	論文	6	東条操	1947	方言境界線の問題— 岩手方言に例をとる—	日本の言葉1-3(日本の言葉研究会)	左19-20	全域	《地理的分布》音声(アクセント)/語彙	説明少ない。
160	岩手	論文	7	小松代融一	1952	「終助詞による敬意の 表わし方」について (岩手県)	国研(52)報告	(74)	全域	《記述的研究》待遇表現	国立国語研究所の地方調査員報告『地調(52)報告 終助詞による待遇表現(北海道・東北)』の中にとじられている。著者自身の原稿。
161	岩手	論文	8	小松代融一	1952	「これからの敬語」に ついて(岩手県)	国研(52)報告	(61)	全域	《その他》	「これからの敬語」について岩手県方言の視点から検討する。
162	岩手	論文	9	柴田武	1955	日本語のアクセント 体系	国語学21(国語学会)	44-69	宮古市	《地理的分布》音声(アクセント)	体系を表にまとめる。東京語との比較も少々。
163	岩手	論文	10	柴田武	1957	方言の手帳3 ズー ズー弁	放送文化12-11(日本放送協会)	54-55	宮古市	《地理的分布》音声(音韻)	ズーズー弁を中心に東北地方から北陸、出雲地方の差を見たもの。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
164	岩手論文	11	鈴木仁	1958	陸前の方言アクセント	言語生活78(筑摩書房)	76のみ	陸前地方	《その他》	「ことば風土記」の中の一編。コラム的。
165	岩手論文	12	見坊豪紀	1960	小松代融一著「岩手方言の語彙」	言語生活102(筑摩書房)	75-76	全域	《その他》	書評、小松代融一『岩手方言の語彙』について。
166	岩手論文	13	小松代融一	1961	岩手のことば	言語生活117(筑摩書房)	77-79	岩泉町、山田町	《記述的研究》音声(音韻)/語彙	コラム的。
167	岩手論文	14	小松代融一	1961	方言の実態と共通語化の問題点 4岩手	[方言学講座2]	177-203	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/文法(助詞/活用/ボイス/デンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	概説。
168	岩手論文	15	柴田武	1961	ズーズー弁でない東北方言	国語学研究1(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	1-16	洋野町(種市町)、岩泉町	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)	岩泉や種市に昇られる非ズーズー弁について。地点は岩泉町安家、岩泉町小本、種市町中野。
169	岩手論文	16	柴田武	1962	岩手県岩泉付近の非ズーズー弁	国語学研究2(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	49-59	洋野町(種市町)、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市(宮古市、田老町、川井村)	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》音声(音声/音韻)	岩泉中心に周辺沿岸地域の調査。二拍・三拍名詞が主、ズーズー弁や全国の諸方言との歴史的関係の考察あり。
170	岩手論文	17	小松代融一	1964	岩手県の方言区画	[日本の方言区画]	159-174	全域	《その他》/《地理的分布》文法(助詞/ボイス)/待遇表現(敬語)	先行研究の区画紹介と区画に関する問題点にも触れている。
171	岩手論文	18	本堂寛	1964	岩手県方言における敬語秩序についての考察	国語学研究4(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	24-37	洋野町、久慈市、野田村、普代村、宮古市、山田町、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》待遇表現(敬語)	調査結果・考察詳細。
172	岩手論文	19	高橋圭三	1965	東北方言の味—南部地方のことば—	言語生活168(筑摩書房)	80-81	南部地方	《記述的研究》語彙(意味・用法)/その他	コラム、対象や調査方法の記述無し。

Total No.	原題 書簿/ 論文/ 市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
173	岩手論文	20	佐藤喜代治	1966	岩手県三陸地方北部の言語調査報告	日本文化研究所研究報告別巻4(東北大学日本文化研究所)	11-56	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)文法(助詞/活用/条件表現)/《地理的分布》音声(音韻/アクセント)/語彙(意味/用法)/文法(助詞)	分量多く詳細。
174	岩手論文	21	坂口忠	1966	岩手県宮古市方言語彙	研究紀要3(宮古市教育研究所)	1-113	宮古市	《記述的研究》方言集	
175	岩手論文	22	日本放送協会	1966	3 岩手県宮古市高浜	[全国方言資料第一巻 東北・北海道編]	81-140	宮古市	《記述的研究》談話資料	自由会話×2、あいさつ。
176	岩手論文	23	川本栄一郎	1967	三陸地方北部におけるサ行音とザ行音	日本方言研究会第4回発表原稿集	?	三陸地方	?	未調査。
177	岩手論文	24	坂口忠	1967	岩手県宮古市方言文法教育序説	研究紀要4(宮古市教育研究所)	1-58	宮古市	《記述的研究》文法(助詞/活用/その他(指示表現/質問・疑問))/言語行動(表現)/待遇表現(敬語)/《その他》方言教育/方言資料	
178	岩手論文	25	本堂寛	1967	岩手県方言の系統と区画について	一関工高専研究紀要1(一関工業高等専門学校)	431-459	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、陸奥高田市	《地理的分布》文法(活用/条件表現/文末形式・文末表現)	分布図多数。
179	岩手論文	26	日本放送協会	1967	1 岩手県九戸郡種市町中野	[全国方言資料第七巻 辺地・離島編1(東北・関東)]	29-56	洋野町(種市町)	《記述的研究》談話資料	自由会話×2、あいさつ。
180	岩手論文	27	本堂寛	1968	岩手県方言における文末助詞「ナハン」について	国語学研究8(東北大学文学部「国語学研究」刊行会)	11-20	洋野町、岩泉町、宮古市、釜石市	《地理的分布》《世代差》文法(助詞/文末形式・文末表現)	男女差に関する記述含む。
181	岩手論文	28	川本栄一郎	1969	三陸地方北部における「ソ・ザ・ジョ・ジャ」の分布と解釈	国語学研究9(東北大学文学部「国語学研究」刊行会)	1-12	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市	《記述的研究》《地理的分布》音声(音韻)	広く沿岸北部全域に渡って音韻を記述。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
182	岩手	論文	29	本堂寛	1970	文頭表現・文末表現に示される女性語意識一主として北奥方言について	国語学研究10(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	36-58	九戸郡、氣仙郡、久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市	《記述的研究》《地理的分布》文法(文末形式・文末表現)/その他(方言意識/その他)	文末表現のほか文頭の簡単表現など、東北全般を対象、女性意識に関する考察等あり。
183	岩手	論文	30	佐藤喜代治・加藤正信	1972	三陸地方南部の言語調査報告	日本文化研究所研究報告 別巻8・9(東北大学日本文化研究所)	1-51	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》音声(音韻/アクセント)/語彙(その他(語形))/文法(助詞/ボイス/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	分量多く詳細。
184	岩手	論文	31	加藤昭	1973	岩手県宮古市白浜の自然会話	フィールドの歩み4(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	117-134	宮古市	《記述的研究》談話資料	被調査者の自宅で録音した会話の書き落とし、言葉表記、アクセントやイントネーションの記述あり。
185	岩手	論文	32	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の概観	フィールドの歩み4(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	49-69	久慈市、野田村、普代村、宮古市(田老町)、大槌町、大船渡市(三陸町)	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川原に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
186	岩手	論文	33	本堂寛	1977	地域社会の共通語化 岩手県下閉伊郡川井村の言語変容	文芸研究84(日本文芸研究会)	50-59	宮古市(川井村)	《共通語化》音声(音韻/アクセント)/文法(助詞/活用/ボイス/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	旧川井村は内陸側。沿岸部からは遠い。
187	岩手	論文	34	田中信	1981	九戸郡地方方言集	岩手方言10(岩手方言研究会)	3-5	久慈市	《記述的研究》方言集	説明なし。
188	岩手	論文	35	小松代融一	1982	うざね舎雑筆11	岩手方言12(岩手方言研究会)	1-12	全域	《地理的分布》語彙	分量少なめ。
189	岩手	論文	36	本堂寛	1982	岩手県の方言	[講座]方言学4 北海道東北地方の方言	238-269	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(助詞/活用/条件表現/文末形式・文末表現)/《地理的分布》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(活用/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/その他	見出しには「語彙」とあるものの今後の研究への提言にとどまる、岩手全般としながらも盛岡市・一関市が中心のため被災地との関わりは薄い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
190	岩手	論文	37	森下喜一	1982	岩手アクセントの特徴と分布について 名詞を中心に	国語研究45(学院大学国語研究会)	14-39	久慈市、岩泉町、宮古市、釜石市、大船渡市	《地理的分布》音声(アクセント)	一拍・二拍・三拍名詞のアクセントの地理的分布、広く県全域を調査している。
191	岩手	論文	38	齋藤孝滋	1987	「語中における子音の有声化現象」の音韻論的解釈 岩手方言を中心に	語文論叢15(千葉大学文学部国語国文学会)	86-64	大船渡市(三陸町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)	盛岡、久慈、安代地域と関連して。
192	岩手	論文	39	齋藤孝滋	1987	岩手方言における拍の統合現象 共通語の「ル」と「リ」、「又」と「二」に対応する拍について	日本語研究9(東京都立大学国語学研究室)	45-53	久慈市	《地理的分布》音声(音韻)	久慈の記述は少なめ。
193	岩手	論文	40	岩手県聯合教育会	1988	言語の訛謬1	岩手方言24(岩手方言研究会)	4-5	九戸郡	《共通語化》語彙	方言矯正。
194	岩手	論文	41	岩手県聯合教育会	1989	言語の訛謬2	岩手方言25(岩手方言研究会)	5-7	下閉伊郡	《共通語化》音声(音韻)/文法(助詞)	方言矯正。
195	岩手	論文	42	大西拓一郎	1989	岩手県山田町方言のアクセント	国語学研究29(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左1-10	山田町	《記述的研究》音声(アクセント)	アクセントの規則を示す。
196	岩手	論文	43	山浦玄嗣	1989	はい? いいえ? ケセン語・ウンツエハアの謎	言語18-1(大修館書店)	86-89	気仙地方	《記述的研究》語彙(意味・用法)	応答詞について。分量少ない。
197	岩手	論文	44	齋藤孝滋	1990	岩手方言における語中子音有声化現象 音標境・語彙的事情・世代の観点から	国語学研究30(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左57-70	大船渡市	《記述的研究》音声(音韻)	記述の主は一関市。
198	岩手	論文	45	大西拓一郎	1991	岩手県下閉伊郡山田町における祝言のあいさつ	方言資料叢刊1(方言研究ゼミナール)	40-46	山田町	《記述的研究》言語行動(表現)	用例多いが説明なし。
199	岩手	論文	46	大橋勝男	1991	日本諸方言について 記述的研究(19)岩手県下閉伊郡川井村川内方言について	新潟大学教育学部紀要・人文・社会科学編32-2(新潟大学教育学部)	215-238	宮古市(川井村)	《世代差》音声(音韻/アクセント/イントネーション)	詳細。

Total No.	県名	書名/ 書簿/ 論文/ 市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
200	岩手	論文	47	加藤正信・村上雅孝・神戸和昭・齋藤孝・滋・武田拓・半沢康	1991	南部・伊達・瀧澤地域における方言分布調査の報告と考察	日本文化研究所研究報告別巻28(東北大学日本文化研究所)	55-85	釜石市、大船渡市	《記述的研究》音声(音韻)/語彙(意味・用法)/文法(条件表現)/《地理的分布》語彙(意味・用法)	浜藪など古方言集と方言分布との関係にも触れている。
201	岩手	論文	48	齋藤孝・滋	1991	岩手方言における語中子音鼻音化現象の環境・語彙的事象・世代の観点から	語文論叢19(千葉大学文学部国語国文学会)	91-79	大船渡市(三陸町)	《記述的研究》音声(音韻)/文法(助詞)/その他	語彙や世代差と関連して音声について述べている。調査は三段階に分けて実施。
202	岩手	論文	49	小松代融一	1992	岩手師範学校方言集(上)	岩手方言32(岩手方言研究会)	5-11	九戸郡、気仙郡	《地理的分布》語彙	説明なし。
203	岩手	論文	50	大西拓一郎	1992	三陸沿岸地域方言のアクセント語彙(1)金田一語彙名詞	[東日本の音声論文編2]	19-39	洋野町、久慈市、野田村、野普代村、田野畑村、宮古市、山田町、大槌町	《地理的分布》音声(アクセント)	調査語数多い。
204	岩手	論文	51	大西拓一郎	1992	岩手県宮古市愛宕方言における身体感覚を表すオノマトペ	方言資料叢刊2(方言研究ゼミナール)	17-20	宮古市	《記述的研究》語彙(その他(オノマトペ))	説明少々あり。
205	岩手	論文	52	大西拓一郎	1992	岩手県下閉伊郡山田町方言における身体感覚を表すオノマトペ	方言資料叢刊2(方言研究ゼミナール)	21-25	山田町	《記述的研究》語彙(その他(オノマトペ))	説明少々あり。
206	岩手	論文	53	齋藤孝・滋	1992	岩手方言における語中子音有聲化・鼻音化現象言語内的・外的要因の観点から	国語学168(国語学会)	左1-14	大船渡市(三陸町)	《地理的分布》《世代差》音声(音声)/その他(方言意識)	世代別の有聲化・鼻音化の傾向、有聲化・鼻音化に対する意識の調査。
207	岩手	論文	54	齋藤孝・滋	1992	母音無声化の「広さ」と「強さ」岩手方言を中心にして	国語学研究31(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左39-50	久慈市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》音声(音声)	母音無声化の度合いを段階づけ。
208	岩手	論文	55	大西拓一郎	1993	三陸沿岸地域方言のアクセント語彙(2)金田一語彙 動詞・形容詞	[東日本の音声論文編3—主要都市・多人数調査(札幌・市名古歴市)報告]	1-18	洋野町、久慈市、野田村、野普代村、田野畑村、宮古市、山田町、大槌町	《地理的分布》音声(アクセント)	調査語数多い。

Total No.	岩手	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
209	岩手	論文	56	齋藤孝滋	1993	岩手県三陸町綾里方言の音韻	東北大学文学部日本語学専攻3(東北大学文学部日本語学科)	37-48	大船渡市	《記述的研究》音声(音韻)	分量多い。共通語との対応も。
210	岩手	論文	57	大西拓一郎	1994	岩手県九戸郡種市町平内方言のアスペクト	方言資料叢刊4(方言研究セミナー)	15-18	洋野町(種市町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)/文法(テンズ・アスペクト)	調査結果の記述、音韻表記、アスペクトについて言及あり。
211	岩手	論文	58	齋藤孝滋	1994	岩手方言における/e, o, i/融合現象の動態とその要因	[ことばの世界北海道方言研究会20周年記念論文集]	176-183	大船渡市	《グロットグラム》音声(音韻)	計量的。
212	岩手	論文	59	山浦玄嗣	1994	麗しきケセン語	日本語論2-1(山本書房)	62-64	気仙地方	《その他》	『ケセン語入門』執筆にあたって。
213	岩手	論文	60	大西拓一郎	1995	岩手県種市町平内方言の用言の活用	[研究報告集16<国立国語研究所報告110>]	57-98	洋野町(種市町)	《記述的研究》音声(音韻)/文法(助詞/活用/テンズ・アスペクト)	青森・八戸など隣接方言との関係、通時的観点からの考察あり。
214	岩手	論文	61	山浦玄嗣	1996	ケセン語複合動詞の音調規則	[言語学林 1995-1996]	235-253	気仙地方	《記述的研究》音声(アクセント)	用例豊富。
215	岩手	論文	62	齋藤孝滋	1997	岩手方言における語中/w/の動態要因とパリエーションの計量的推定	国語学研究36(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左1-12	大船渡市	《共通語化》音声(音声/音韻)/その他(方言意識)/《世代差》音声(音声/音韻)	計量的。今後の予測も。
216	岩手	論文	63	齋藤孝滋	2001	岩手県久慈市方言における形容詞活用体系	都大論究38(東京都立大学国語国文学会)	53-62	久慈市	《記述的研究》音声(音声)/文法(活用)	
217	岩手	論文	64	澤村真貴子	2001	岩手県方言区画試論	弘学大語文27(弘前学院大学国語国文学会)	1-11	全域	《記述的研究》その他(文法・アクセント・語彙による区画)	先行研究の区画図を統合。
218	岩手	論文	65	齋藤孝滋	2002	岩手県久慈市方言の音韻対応—共通語との対応を中心として	玉藻38(フェリス学院大学国文学会)	1-16	久慈市	《記述的研究》音声(音韻)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
219	岩手	論文	66	田中宣廣	2003	陸中宮古方言アクセントの実相	国語学54-4(国語学会)	44-59	宮古市	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)	ピッチグラムを用いている。重起アクセント等含む。
220	岩手	論文	67	齋藤孝滋	2006	岩手方言における形容詞の特徴：活用体系と音声文法の観点から	フェリス女学院大学文学部紀要41(フェリス女学院大学)	61-68	久慈市	《記述的研究》音声(音声)/文法(活用)	形容詞の活用・語幹と音声との関係について、地理的なことには多く触れていない。
221	岩手	論文	68	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3-4(東北大学文学会)	左58-77	宮古市、大槌町、陸前高田市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(その他(語史))	
222	岩手	論文	69	山浦玄嗣	2008	20年目のウンツェンハブー—岩手県気仙地方における対否定疑問文応答形式の経時的変化	日本方言研究会第87回発表原稿集	69-76	気仙地方	《世代差》文法(その他(応答詞))	
223	岩手	論文	70	田中宣廣	2009	地域言語の理解法—岩手県域諸方言の例から	岩手県立大学宮古短期大学部研究紀要20-1(岩手県立大学宮古短期大学部)	1-10	宮古市	《記述的研究》音声(音韻)/言語行動(その他(買い物時のやりとり))	主旨は方言の正しい理解のための方法。宮古方言は例であり記述少ない。
224	岩手	論文	71	小島聡子	2010	研究ノート 岩手県で用いられる特徴的な言葉について	アルテス リベラス86(岩手大学人文社会学部)	69-86	久慈市、野田村、岩泉町、釜石市、宮古市、山田町、大槌町、大船渡市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/その他(記号の読み方)	「はこいち」と読むか「しかくいち」と読むか、「特にも」用法・用例。
225	岩手	論文	72	田中宣廣	2012	アクセント—三陸地方南部地域—	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	33-43	山田町、大槌町、釜石市、陸前高田市	《記述的研究》《地理的分布》音声(アクセント)	宮城県北から岩手県南にかけての地理的な調査が含まれている。具体的な調査地点は以下の通り(被災地以外も含む)。下閉伊郡山田町船越・上閉伊郡大槌町大槌・釜石市釜石・釜石市白浜(平市)・釜石市唐丹・釜石市洞泉・遠野市大船渡市吉浜・大船渡市越喜来・大船渡市綾里・大船渡市大船渡・陸前高田市小友・陸前高田市矢作・一関市。

Total No.	岩手	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
226	岩手	論文	73	竹田晃子	2012	ヴォイス(受身・可能)	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	73-86	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(ボイス)	72に同じ。
227	岩手	論文	74	竹田晃子	2012	テンス・アスペクト	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	87-98	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(テンス・アスペクト)	72に同じ。
228	岩手	論文	75	榎引祐希子	2012	方言特有の「イキナリ」「ナゲル」「オチル」の分布状況	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	141-152	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》語彙(意味・用法)	72に同じ。
229	岩手	論文	76	中西太郎	2012	あいさつ表現	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	189-208	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》《世代差》言語行動(あいさつ表現)	72に同じ。
230	岩手	論文	77	椎名渉子	2012	懐かせつけ場面を中心とした音児の言語行動	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	209-221	山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	《地理的分布》言語行動(表現)	72に同じ。

岩手市町村史

Total No.		書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
231	岩手	市町村史	1	川井村郷土誌編纂委員会	1962	川井村郷土誌 下巻	川井村役場	630-657	宮古市(川井村)	《記述的研究》方言集	第九篇 第四章 第一節 方言。
232	岩手	市町村史	2	県教育会九戸郡部会	1972	九戸郡誌	名著出版	498-554	九戸郡	《記述的研究》方言集	第九章 八方言 昭和11年岩手県教育会九戸郡部会編纂により刊行されたものの復刻版。
233	岩手	市町村史	3	関口喜多路	1980	岩泉地方史 下巻	岩泉町教育委員会	603-749	岩泉町	《記述的研究》方言集	第十七章 岩泉地方の方言訛語。
234	岩手	市町村史	4	大船渡市史編集委員会	1980	大船渡市史 第四巻	大船渡市	345-612	気仙郡、大船渡市	《記述的研究》言語行動	p.345-391 俚語、俗語など、共通語形も多いが、一部に方言例あり。 p.531-612 気仙地方の民謡や童唄について一部方言形。 p.393-529 気仙地方の伝説、一部方言形。 その他、第一章、第二章にも「衣食住」や「生産・生業」に関する語彙が多少本文の中で紹介されている。
235	岩手	市町村史	5	三陸町史編集委員会	1988	三陸町史 第五巻 民俗一般編	三陸町	569-616	大船渡市(三陸町)	《記述的研究》方言集	『郷土教育資料(紀元二千六百年記念事業、綾里小学校編)』を中心に、『気仙方言誌(金野静一・菊池武人著)』、『岩手気仙の方言(菊池武人著)』、『気仙ことば(佐藤文治著)』、『気仙方言辞典(金野菊三郎著)』を参照したものの。菊池武人執筆。
236	岩手	市町村史	6	三陸町史編集委員会	1990	三陸町史 第一巻 自然・考古編	三陸町史刊行委員会	49-53	大船渡市(三陸町)	《記述的研究》その他	魚の名前。

岩手市町村史

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
237	岩手	市町村史	7	陸前高田市史編集委員会	1992	陸前高田市史 第六巻 民俗編下	陸前高田市	107-203	陸前高田市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集/文法(文法概説/活用)/《地理的分布》語彙(語形)	第二章 言語・方言 第一節 気仙地方(特に陸前高田)方言の特色、第二節 江戸時代の語彙。第二節は「文化から天保年間にかけて、旧今泉村の菅野久助が記した文章から拾った方言形を紹介する」。
238	岩手	市町村史	8	田野畑村芸術文化協会	1994	新たなのはた風土記	田野畑村芸術文化協会	256-262	田野畑村	《記述的研究》語彙(意味・用法)/その他	田野畑方言と京言葉・工ノ語との関わりについて、地名由来。
239	岩手	市町村史	9	陸前高田市史編集委員会	1994	陸前高田市史 第一巻 自然編	陸前高田市	375-388	陸前高田市	《記述的研究》方言集	『新岩手風土記(瀨川経郎著)』を参考にし、地域の古老からも採取したものの。
240	岩手	市町村史	10	普代村郷土史編集委員会	2003	普代村郷土史	普代村	1072-1116	普代村	《記述的研究》語彙(意味・用法)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
241	宮城	書籍	1	猪苗代兼郁	1720	仙台言葉以呂波奇	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第二輯』(港の人・2000)に広本系の「仙台言葉伊呂波奇」の影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に「仙台言葉」の翻刻がある。『近世方言辞書 第二輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
242	宮城	書籍	2	大北溟・岡文鶴	1736	燈心野語	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
243	宮城	書籍	3	燕々軒	1776	俳諧夷艸	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
244	宮城	書籍	4	堀田正敦	1785頃	仙台言葉	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第二輯』(港の人・2000)に影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世方言辞書 第二輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
245	宮城	書籍	5	未詳	江戸末期か	仙台浜菰	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第一輯』(港の人・1999)に影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻、『近世方言辞書 第一輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)に解説がある。

Total No.	宮城	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
246	宮城	書籍	6	櫻田欽斎	1818頃	仙台方言	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第二輯』(港の人・2000)に影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世方言辞書 第二輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
247	宮城	書籍	7	黄庵	1827	方言達用抄	—	—	仙台市	《記述的研究》方言集	『近世方言辞書 第二輯』(港の人・2000)に影印、『近世仙台方言書 翻刻編』(明治書院・1995)に翻刻がある。『近世方言辞書 第二輯』、『近世仙台方言書 研究編』(明治書院・1995)で解説がなされている。
248	宮城	書籍	8	小倉博	1827	標準語励行と方言掃滅	読売宮城	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。
249	宮城	書籍	9	伊勢斎助	1916	増訂仙臺史傳・仙臺方言考	豪華房	69	仙台市	《記述的研究》方言集	『増訂仙臺史傳』(仙臺方言考)の合本。
250	宮城	書籍	10	土井八枝	1919	仙台方言集	土井八枝	90	仙台市	《記述的研究》方言集(文法概説)	
251	宮城	書籍	11	仙台稅務監督局	1920	東北方言集	東北印刷株式会社出版部	185	全域	《記述的研究》方言集	
252	宮城	書籍	12	仙台叢書刊行会	1925	仙台叢書第八卷(「仙台方言選以呂波春」「方言達用抄」「仙台方言」所収)	仙台叢書刊行会	462	仙台市	《記述的研究》方言集	
253	宮城	書籍	13	弁天丸孝	1932	石の巻弁 語彙篇	郷土社書房	40	石巻市	《記述的研究》方言集	「石の巻弁 別冊」の二冊組。部数限定発行。

Total No.	宮城	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
254	宮城	書籍	14	弁天丸孝	1932	石の巻弁 別冊	郷土社書房	20	石巻市	《記述的研究》方言集	「石の巻弁 語彙編」の分類索引目録。名詞、代名詞等の分類ごとに並べられている。
255	宮城	書籍	15	小倉進平	1932	仙台方言音韻考(言語誌叢刊)	刀江書院	454	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)	
256	宮城	書籍	16	真山彬	1936	仙台方言考(言語誌叢刊)	刀江書院	181	仙台市	《記述的研究》方言集	
257	宮城	書籍	17	土井八枝	1938	仙台の方言	春陽堂	341	仙台市	《記述的研究》方言集	
258	宮城	書籍	18	佐藤喜代治	1950	宮城県方言の概観	国研報告書	150	気仙沼市(小泉村)、南三陸町(志津川町)、石巻市(雄勝村)、名取市(千真村)、亶理町(新浜町)、山元町(坂元村)	《地理的分布》音声(音声/音韻)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/文末形式・文末表現)	全29地点。筆者自筆の原稿。
259	宮城	書籍	19	佐藤喜代治	1951	宮城県方言音韻の特微形の実態	国研報告書	64	利府町(利府村)	《記述的研究》音声(音声/音韻)	利府村の他、加美郡宮崎村、柴田郡村田村も。筆者自筆の原稿。
260	宮城	書籍	20	佐藤喜代治	1951	仙台本草	国研報告書	96	仙台市	《記述的研究》方言集	『仙台本草』の中から、「仙台方言の記載されているもののみをぬきたし」たもの。
261	宮城	書籍	21	田村淑秋	1951	仙台方言集(1998年改訂発行)	通信文化の会	84	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	
262	宮城	書籍	22	石川鈴子	1966	自伝的仙台弁	審美社	170	仙台市	《記述的研究》方言集	福島。
263	宮城	書籍	23	浮田草一	1974	宮城県牡鹿半島における言語調査	浮田草一	38	石巻市(牡鹿町)鮎川浜、牡鹿町十八成(浜)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	

Total No.	宮城	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
264	宮城	書籍	24	浮田章一	1975	宮城県牡鹿半島における言語調査	浮田章一	7	石巻市(牡鹿町・鮎川浜、牡鹿町十八成浜)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
265	宮城	書籍	25	浮田章一	1975	宮城県牡鹿半島における言語調査 鮎川・網地島・金華山	浮田ゼミ	8	石巻市(牡鹿半島)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
266	宮城	書籍	26	土井八枝	1975	仙台の方言(再刊)(原本は1938年刊)	国書刊行会	341	仙台市	《記述的研究》方言集	
267	宮城	書籍	27	仙台郵政監察局	1975	東北方言集(再刊)(原本は1920年8月刊)	国書刊行会	185	気仙沼市(気仙沼地方)	《記述的研究》方言集	
268	宮城	書籍	28	浮田章一ほか	1976	宮城県牡鹿町と女川町における言語調査 鮎川浜・江島	女子聖学院短大浮田ゼミ	32	女川町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
269	宮城	書籍	29	宮城県教育委員会	1977	宮城県民俗分布図一緊急民俗資料分布調査報告書一	宮城県教育委員会	96	気仙沼市(唐桑町、気仙沼市、本吉町)、南三陸町(歌津町、志津川町)、石巻市(北上町、雄勝町、牡巻町、石巻市、河北町、河南町)、女川町、東松島市(矢本町、鳴瀬町)、松島町、利府町、塩竈市、七ヶ浜町、仙台市(泉市、仙台市、宮城町、名取市、岩沼市、亘理町、山元町)	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地図。目次の表記は「宮城県民俗地図」、奥付の表記は「宮城県民俗分布地図」。宮城県教育委員会・秋田県教育委員会・山形県教育委員会編/矢野武監修(2000)『都道府県別日本の民俗分布地図集 第2巻 北海道・東北地方の民俗地図 2 宮城・秋田・山形・福島』東洋館書林所収。

Total No.	宮城	書籍/ 論文/ 市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
270	宮城	書籍	30	女子聖学院短大浮田ゼミ	1977	宮城県女川町出島における言語調査1 出島	女子聖学院短大浮田ゼミ	12	女川町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
271	宮城	書籍	31	女子聖学院短大浮田ゼミ	1978	宮城県牡鹿郡女川町における二度目の言語調査 出島・寺間	女子聖学院短大浮田ゼミ	6	女川町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
272	宮城	書籍	32	佐藤忠雄	1981	仙台方言攻—音韻と語法—	溪聲出版	184	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)/文法(活用/テンス・アスペクト/助詞/助動詞/その他(名詞/数詞/代名詞/形容詞/形容動詞/副詞/副体詞/接續詞/感動詞))	宮城県仙台以南の地方。
273	宮城	書籍	33	浅野建二	1981	仙台方言辞典	東京堂出版	378	仙台市	《記述的研究》方言集	旧仙台領一般。
274	宮城	書籍	34	西条弥一郎	1984	南三陸地方の方言	西条弥一郎	70	石巻市(北上町)	《記述的研究》方言集	
275	宮城	書籍	35	仙台文化出版社	1986	仙台弁句辞典(せんだい新書1)	仙台文化出版社	198	仙台市	《記述的研究》方言集	
276	宮城	書籍	36	西村源太郎	1989	仙台原町方言集(せんでいばらまづほおげんすう)	西村源太郎	74	仙台市宮城野区(原町)	《記述的研究》方言集	
277	宮城	書籍	37	田村正夫	1990	滅び行く方言 岩沼地方編	田村正夫	199	岩沼市(岩沼町)	《記述的研究》方言集	
278	宮城	書籍	38	渋谷信義	1992	ケンケン鳥お背戸のズサぬ木 明治初期仙台亘理から伊達開拓移住者達の会話	北海道新聞社出版局	231	亘理町	《記述的研究》方言集	
279	宮城	書籍	39	山浦玄嗣	1992	みんなのケケン語1	共和印刷企画センター	102	気仙沼市	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント/その他)	著者が方言の勉強のために自作したテキスト。独特の表記とカタカナなどを用いて記されており、内容は充実している。非常に詳細な記述。

Total No.	宮名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
280	宮城	書籍	40	山浦玄嗣	1992	みんなのケケセン語2	共和印刷企画センター	102	気仙沼市	《記述的研究》音声(音声/音韻/イントネーション)/文法(文法概説/助詞/活用/ケース/案件表現)	著者が方言の勉強会のために自作したテキスト。独特の表記とカタカナなどを用いて記されており、内容は充実している。非常に詳細な記述。
281	宮城	書籍	41	仙台文化出版社	1993	続仙台弁句辞典	仙台文化出版社	177	仙台市	《記述的研究》方言集	仙台市及び旧仙台領地域において、現在(1993年時点)も日常の会話に使用されているものが中心。採録されている語の使用例は、「仙台郷土句帖」及び、読売新聞宮城版に掲載されていた天江富弥選「仙台弁句」の中から選び、仙台郷土句会の横山彦平、富田博、大友靖彦による校閲を受けている。
282	宮城	書籍	42	田村昭	1993	仙台方言集付・東北の方言10版改訂	宝文堂	84	仙台市	《記述的研究》方言集	
283	宮城	書籍	43	鈴木與藏	1993	七ヶ浜の言葉	鈴木與藏	74	七ヶ浜町	《記述的研究》方言集	
284	宮城	書籍	44	菊池武人	1995	近世仙台方言書 翻刻編	明治書院	673	仙台市	《記述的研究》方言集	旧仙台藩『濟萩』など、近世の方言書の翻刻。
285	宮城	書籍	45	菊池武人	1995	近世仙台方言書 研究編	明治書院	480	仙台市	《記述的研究》方言集	旧仙台藩(翻刻版の検討)。方言と方言集ができた当時の時代背景。
286	宮城	書籍	46	菊池武人	1996	近世仙台方言書 続翻刻編	明治書院	506	仙台市	《記述的研究》方言集	旧仙台藩『濟萩』など、近世の方言書の翻刻。
287	宮城	書籍	47	小山正平	1997	わたしの言語論 三陸地方の古代史を読み解く	小山正平	301	気仙沼市(三陸地方)	《記述的研究》方言集	方言語意を音節レベルに語源解析する。きわめて独特な見解を展開。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
288	宮城	書籍	48	半沢康・小林初夫・武田拓	1998	宮城・福島沿岸地域におけるグロットグラム調査報告	科研報告書	49	亘理町、山元町	《グロットグラム》音声(音韻)/語彙/文法(助詞/活用/アスペクト)/待遇表現(敬語)	
289	宮城	書籍	49	仙台市史編さん委員会	1998	音でたずねる仙台の民俗 仙台市史特別編6 民俗付録	仙台市	14	仙台市	《記述的研究》談話資料	小さい冊子とCDのセット。CDに方言解説と挨拶場面など10例の会話が収録されている。その他、CDには民謡、昔話も収録。
290	宮城	書籍	50	佐々木徳夫	1999	話すてけらしえ仙台弁	無明舎出版	174	仙台市	《記述的研究》談話資料	
291	宮城	書籍	51	佐藤武義・木村晟・山田瑩・徹・古瀬順一・片山晴賢編/小林隆解題	1999	近世方言辞書 第一輯 仙台浜藪	港の人	512	仙台市	《記述的研究》方言集	仙台浜藪の影印本。
292	宮城	書籍	52	京野清一編集/阿部逸郎・高橋鉄雄・阿部勝江・高橋美代子・阿部和子編纂	2000頃	石巻地区東北弁集	京野清一	52	石巻市	《記述的研究》方言集	
293	宮城	書籍	53	佐藤武義・木村晟・山田瑩・徹・古瀬順一・片山晴賢編/佐藤武義・遠藤仁・樋渡登解題	2000	近世方言辞書 第二輯 御国通辞・仙台言葉 以呂波寄・仙台言葉・方言運用抄・仙台方言・庄内浜藪・庄内方言音攷	港の人	582	仙台市	《記述的研究》方言集	御国通辞、仙台言葉以呂波寄、仙台言葉、方言運用抄、仙台方言、庄内浜藪、庄内方言音攷の影印本。
294	宮城	書籍	54	後藤彰三	2001	胸ば張って仙台弁ぬくもり伝えるふるさととば	宝文堂	297	仙台市	《記述的研究》音声(音声/アクセント)/語彙(語彙)/文法(助詞/助動詞/活用/文末形式・文末表現/その他(接頭辞/感動詞))/待遇表現(敬語)/その他(地理的分布)語彙(語形)	その他として、俚諺、言い伝え・わらべ歌・民謡・方言文芸などの民俗語と、共通語・仙台弁対照表、語誌編、補説がある。

Total No.	宮城	書籍/ 論文/ 市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
295	宮城	書籍	55	大橋純一	2002	東北方言音声の研究	おうふう	469	仙台市、山元町、気仙沼市(本吉町)	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声)	全地点共通調査の一部。仙台市は特定地点(地域)調査の一地点でもある。被災地に関するものは他に青森県八戸市、岩手県洋野町(種市町、大野村)、久慈市、野田村、菅代村、田野畑村、岩泉町、宮古市(宮古市、田老町、川井村)、大槌町、福島県楡葉町、いわき市が調査地点となっている。
296	宮城	書籍	56	井上史雄・玉井宏児・遣水兼貴	2003	東北・北海道方言の地理的・年節的分布(THグロットグラム)	東京外国語大学	196	松島町	《グロットグラム》語彙/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現/その他)	一部被災地該当。
297	宮城	書籍	57	加藤正信・大橋純一・武田拓・半沢康	2004	関東・東北境界域言語地図 常磐線・磐越東線グロットグラム	いわき明星大学人文学部加藤正信研究室	379	仙台市、名取市、亶理町、山元町	《グロットグラム》音声(音韻/アクセント)/語彙/文法(助詞/活用/テンス・アスペクト/条件表現)/その他(方言意識)	前半は福島浜通、中南部～栃木・茨城県北部の言語地図。後半はグロットグラム。
298	宮城	書籍	58	菅原孝雄	2006	けせんぬま方言アラカルト	三陸新報社	172	気仙沼市	《記述的研究》方言集	
299	宮城	書籍	59	芦立光之	2006	気仙沼 お国ことば句集	開明書院	179	気仙沼市	《記述的研究》その他	気仙沼市の方言を用いた句を採録したもの。各句の後に語彙の意味も簡単に書かれている。

Total No.	宮城 県名	書籍/ 論文/ 市町村史	No.	著者	発行 年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
300	宮城	論文	1	馬場生	1899	東京仙台方言くらべ	風俗画報194(東陽堂)	17-18	仙台市	《記述的研究》方言集	
301	宮城	論文	2	研亭主人	1899	東京仙台方言くらべ拾遺	風俗画報196(東陽堂)	12-13	仙台市	《記述的研究》方言集	
302	宮城	論文	3	小倉進平	1910	仙台方言音韻組織	国学院雑誌16-3(国学院大学)	70-86	仙台市	《記述的研究》音声(音声/音韻)	鼻母音や無声のr音等の記述あり。
303	宮城	論文	4	あしのまうや	1911	宮城方言抄	風俗画報419(東陽堂)	18-20	全域	《記述的研究》方言集	
304	宮城	論文	5	——	1915	仙台方言	風俗画報471(東陽堂)	31のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
305	宮城	論文	6	青葉山時鳥	1919-1934	仙台の方言と方言	教育	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。
306	宮城	論文	7	真山青果	1932	仙台方言雑考(一)	仙台郷土研究2-4(仙台郷土研究会)	24-25	仙台市	《記述的研究》方言集	
307	宮城	論文	8	真山青果	1932	仙台方言雑考(二)	仙台郷土研究2-5(仙台郷土研究会)	8-9	仙台市	《記述的研究》方言集	
308	宮城	論文	9	真山青果	1932	仙台方言雑考(三)	仙台郷土研究2-6(仙台郷土研究会)	16-17	仙台市	《記述的研究》方言集	
309	宮城	論文	10	真山青果	1932	仙台方言雑考(四)	仙台郷土研究2-7(仙台郷土研究会)	22のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
310	宮城	論文	11	真山青果	1932	仙台方言雑考(五)	仙台郷土研究2-8(仙台郷土研究会)	14-15	仙台市	《記述的研究》方言集	
311	宮城	論文	12	真山青果	1932	仙台方言雑考(六)	仙台郷土研究2-9(仙台郷土研究会)	18-19	仙台市	《記述的研究》方言集	
312	宮城	論文	13	小林英夫	1932	仙台方言音韻論試作	方言2-11(春陽堂)	13-58	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
313	宮城論文	14	—	1932	仙台方言座談会概況	仙台郷土研究2-2 (仙台郷土研究会)	31-34	仙台市	《その他》	座談会で話題になった語がコメント付きで20語ほど挙げられている。
314	宮城論文	15	藤原相之助	1932	古い方言と特殊語	仙台郷土研究2-2 (仙台郷土研究会)	34-35	仙台市	《その他》	「ズイナシ、ツハイ」「タレカモノ」「シング」などに対する雑感。
315	宮城論文	16	中市謙三	1933	東北方言の特殊音韻	国語教育18-7(国語研究会)	80-83	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)	
316	宮城論文	17	菊沢季生	1934	宮城方言文法の一斑	国語研究2-4(国語学研究会)	60-91	石巻市、亶理町(荒浜村)、仙台市	《記述的研究》文法(文法概説)	「浜藪」や「方言達用集」、方言調査報告、地誌等の記述を筆者が概略的にまとめたもの。
317	宮城論文	18	燕々軒書/荒砥白翁補	1935	仙台方言資料「俳諧夷州」	国語研究3-12(国語学研究会)	24-40	仙台市	《記述的研究》方言集	「俳諧夷州」中に出てくる方言の意味について記述。本論文の「仙臺」と現在の「仙台」の区別が同じか不明。
318	宮城論文	19	菅野蔵治	1935	仙南地方の家族呼称	方言5-5(春陽堂)	27-30	名取市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	家族呼称とその意味について。方言集とまではいかない。
319	宮城論文	20	猪狩幸之助編 /小倉進平補	1935	宮城県方言考	方言5-6(春陽堂)	6-37	全域	《記述的研究》方言集	
320	宮城論文	21	真山彬	1936	仙台方言考	宮城県人1-2	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。 書籍『宮城県人』か、もしくは雑誌『宮城県人』12-xの可能性が高い(宮城県人12は1936年刊)。未調査。
321	宮城論文	22	倉田一郎	1937	陸前荒浜漁村語彙	方言7-9(春陽堂)	33-46	岩沼市	《記述的研究》方言集	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
322	宮城論文	23	藤原勉	1940	追ふ方言	仙台郷土研究10-3 (仙台郷土研究会)	13のみ	仙台市	《記述的研究》語彙(その他(語源))	仙台市で「ぶくる(追う)」の語源解。犬をけしかけるときの掛け声の記述も。
323	宮城論文	24	三原良吉	1940	仙台語彙(一)	仙台郷土研究10-4 (仙台郷土研究会)	23のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
324	宮城論文	25	三原良吉	1940	仙台語彙(二)	仙台郷土研究10-5 (仙台郷土研究会)	21のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
325	宮城論文	26	三原良吉	1940	仙台語彙(三)	仙台郷土研究10-6 (仙台郷土研究会)	15のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
326	宮城論文	27	三原良吉	1940	仙台語彙(四)	仙台郷土研究10-7 (仙台郷土研究会)	14のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	
327	宮城論文	28	宮良当社	1941	宮城・岩手両県方言調査小報	方言研究3(日本方言学会)	61-67	亘理町、仙台市、石巻市、南三陸町(志津川町)	《記述的研究》《地理的分布》音声(音韻)	記述少ない。
328	宮城論文	29	土井八枝	1941	仙台弁探求の動機	朝日宮城	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の軌跡』にはあるが確認できず。
329	宮城論文	30	三原良吉	1941	仙台語彙(四)	仙台郷土研究11-3 (仙台郷土研究会)	13のみ	仙台市	《記述的研究》方言集	論題は「仙台語彙(四)」だが(五)の間違いか。内容は『仙台郷土研究』10-7のものとは異なる。
330	宮城論文	31	斎藤義七郎	1942	真山青果氏「仙台方言書目」引用書目索引(上)	国語研究10-9(国語研究会)	7-17	仙台市	《その他》	真山青果のまとめた東北方言(語彙)がどのような書物から引用されているかについて記述。
331	宮城論文	32	斎藤義七郎	1942	真山青果氏「仙台方言書目」引用書目索引(下)	国語研究10-10(国語研究会)	14-20	仙台市	《その他》	真山青果のまとめた東北方言(語彙)がどのような書物から引用されているかについて記述。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
332	宮城論文	33	堀籠敬蔵	1951	仙南海浜地方の方言における接頭語と接尾語	教育宮城1-4(宮城県教育委員会)	45-46	仙南海浜地方(名取市・岩沼市・亶理町・山元町あたりか)	《記述的研究》文法(その他(接頭辞/接尾辞))	
333	宮城論文	34	佐藤喜代治	1952	終助詞による敬意のあらわし方(宮城県)	国研(52)報告	(24)	全域	《記述的研究》待遇表現	国立国語研究所の地方調査員報告『地調(52)報告 終助詞による待遇表現(北海道・東北)』の中にとられている。著者自身の原稿。
334	宮城論文	35	浅野健二	1953	仙台俚言考(上)―特に江戸時代語との関係について―	文芸研究14(日本文芸研究会)	55-64	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	文献中の語彙について先行研究・文献をもとに記述。文献調査。
335	宮城論文	36	浅野健二	1954	仙台俚言考(下)―特に江戸時代語との関係について―	文芸研究16(日本文芸研究会)	53-61	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	文献中の語彙について先行研究・文献をもとに記述。文献調査。
336	宮城論文	37	横山辰次	1955	仙台ことば	言語生活51(筑摩書房)	74-75	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	仙台市で使われている語を、東北方言、特に山形県置賜地方の方言と比較したものの。
337	宮城論文	38	小林好日	1956	仙台方言集「浜荻」について	国語研究4(国学院大学国語研究会)	13-21	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	金田一京助博士選歴記念論文集のために寄稿されたものであったが、第二次世界大戦により刊行できず、国学院大学金田一教授研究室に保管されていたもの。「金田一博士、ならびに、小林博士の御遺族のおゆるしを得て」発表された。
338	宮城論文	39	佐藤喜代治	1956	宮城	[NHK国語講座 方言の旅]	31-35	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)/語彙/待遇表現(敬語)	海岸地帯として牡鹿半島の語も少しある。
339	宮城論文	40	岡村昭	1956	仙台方言の「あらし」について	言語生活57(筑摩書房)	75のみ	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	

宮城論文

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
340	宮城論文	41	佐藤孝	1958	三陸女性の感動詞	言語生活86(筑摩書房)	75のみ	気仙沼市	《記述的研究》語彙(その他(感動詞))	
341	宮城論文	42	平山輝男	1959	仙北方言のアクセント体系とその性格	音声学会会報100(日本音声学会)	27-30	仙台市北部	《記述的研究》音声(アクセント)	
342	宮城論文	43	伊藤裕	1960	仙台ことばと横浜ことば	ともしひ9	?	?	?	書籍不明。『20世紀方言研究の動向』にはあるが確認できず。
343	宮城論文	44	斎藤義七郎	1961	方言の実態と共通語化の問題点 5 宮城・山形	[方言学講座2]	204-235	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント/イントネーション)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/ボイス)	方言の概要を説明した上で、共通語化のために直すべき点を説明している。
344	宮城論文	45	千葉徳二	1961	東北弁と音楽教育—言語形成期の子供を対象として—	言語生活113(筑摩書房)	51-57	仙台市	《記述的研究》その他(教育法)	仙台市若林区南材木町。
345	宮城論文	46	菊沢季生	1961	宮城県方言資料文献目録	宮城学院女子大学研究論文集18(宮城学院女子大学文学部)	111-113	全域	《記述的研究》その他(文献目録)	
346	宮城論文	47	佐藤亮一	1963	宮城県における多型アクセントの南限—主として二音節名詞について—	文芸研究45(日本文芸研究会)	40-47	東松島市(矢本町)、松島町、多賀城市(多賀城市)、仙台市、七ヶ浜町、利府町(利府村)、名取市(閉上町)	《記述的研究》《地理的分布》音声(アクセント)	宮城県全域、仙台市は宮城野区(もと仙台市若切、仙台市福田町)。

Total No.	書簿/ 論文/ 市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
347	宮城論文	48	加藤正信	1964	北奥方言と南奥方言と越後方言の境界	[日本の方言区画]	175-195	気仙沼市、石巻市、仙台市	《地理的分布》音声(音声/音韻)/語彙(語形)/文法(助詞/助動詞/活用)	調査地点はほかに岩手県花巻市、一関市、秋田県横手市、宮城県大崎市(古川)、白石市、山形県新庄市、鶴岡市、山形市、米沢市、小国町、福島県相馬市、福島市、郡山市、会津若松市、新潟県村上市、新発田市、阿賀町(津川)、新潟市、三条市、長岡市、柏崎市、上越市(高田)。
348	宮城論文	49	佐藤亮一	1966	宮城県北部における三音節名詞のアクセント	国語学研究6(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	16-29	気仙沼市(気仙沼市、本吉町)、南三陸町(歌津町、志津川町)、女川町、石巻市(北上町、雄勝町、牡鹿町、河北町、河南町)、東松島市(矢本町)、松島町、多賀城市(多賀城町)	《地理的分布》音声(アクセント)	
349	宮城論文	50	加藤正信	1967	動詞語尾における連母音アウ・オウの音訛一宮城県方言を中心にして	国語学研究7(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	35-46	気仙沼市(気仙沼市、本吉町)、南三陸町(歌津町、志津川町)、石巻市(石巻市、鮎川町、河北町、河南町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)/文法(活用/ボイス/テンス・アスペクト)/《地理的分布》音声(音声/音韻)	
350	宮城論文	51	佐藤孝	1967	アルとイル	言語生活186(筑摩書房)	73-75	阿武隈川河口付近	《記述的研究》語彙(意味・用法)	地域についての記述は「阿武隈川河口付近」だけ。分量は少なめ。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
351	宮城論文	52	佐藤亮一	1967	アクセントの「ゆれ」の実態—宮城県北部のアクセントについて—	日本文学研究会第4回発表原稿集	18-30	気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町、東松島市、松島町、仙台市	《地理的研究》音声(アクセント)	
352	宮城論文	53	藤原与一	1967	東北方言「文末詞」の研究“山形弁”“宮城弁”について	方言研究年報10(広島大学方言研究会)	57-72	松島町	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)	
353	宮城論文	54	藤原与一	1967	“山形弁”と“宮城弁”	国語学70(国語学会)	76-86	松島町	《記述的研究》音声/文法(文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	
354	宮城論文	55	佐藤亮一	1968	宮城県北部におけるアクセントの一側面—語単独の相と助詞を付けたときの相との違いに関して—	聖和7(聖和学園短期大学)	69-95	気仙沼市(気仙沼市、本吉町)、南三陸町(志津川町)、石巻市(河北町、北上町)、東松島市(矢本町)、松島町、仙台市	《地理的分布》音声(アクセント)	気仙沼市(字九条、字岩月台の沢)、本吉郡本吉町(大沢、小浜)、本吉郡登米郡登米町、本吉郡津山町、桃生郡河北町、桃生郡北上町、登米郡迫町、栗原郡金成町、栗原郡若柳町、栗原郡栗駒町、玉造郡岩出山町、玉造郡鳴子町、加美郡中新田町、桃生郡矢本町、宮城郡松島町、黒川郡大衡村、黒川郡富谷町、宮城郡泉町、仙台市北山、仙台市郡山北目宅地の24地点。参考として岩手県南部の4地点も調査。
355	宮城論文	56	太田真喜子・但野きよ江	1968	仙台方言のイントネーションについて	日本文学ノート3(宮城学院女子大学日本文学会)	117-124	仙台市、石巻市(杜鹿町)	《記述的研究》音声(イントネーション)	他、丸森にて調査。
356	宮城論文	57	熊坂津恵子	1969	仙台の方言集に関する一考察	日本文学ノート4(宮城学院女子大学日本文学会)	142-151	仙台市	《記述的研究》その他(方言集考察)	12冊の仙台方言集に関して、その編集目的や内容などを比較・考察したものの。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
357	宮城論文	58	高橋富雄	1969	方言	[県史シリーズ4 宮城県の歴史]	左40-43	仙台市	《記述的研究》方言集	付録。民謡についても紹介されている(P.46)。
358	宮城論文	59	佐藤喜代治・加藤正信	1972	三陸地方南部の言語調査報告	日本文化研究所研究報告別巻8・9 (東北大学日本文化研究所)	1-50	気仙沼市(気仙沼市、唐桑町、本吉町)	《地理的分布》音声(音韻/アクセント)/方言集/文法(助詞/ボイス/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	
359	宮城論文	60	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の外観	ワールドの歩み4 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	49-69	気仙沼市(唐桑町)、石巻市(牡鹿町)、塩竈市、亶理町	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
360	宮城論文	61	佐藤忠雄	1974	仙台方言の音節とその用例	音声学会会報146 (日本音声学会)	9-11	仙台市	《記述的研究》音声(その他(音節))	
361	宮城論文	62	佐藤忠雄	1975	仙台方言における母音研究	音声学会会報148 (日本音声学会)	15-21	仙台市	《記述的研究》音声(音韻)	
362	宮城論文	63	加藤正信	1976	江戸時代以降の仙台方言語史一転訛を中心として一	[佐藤喜代治教授退官記念国語学論集]	603-624	仙台市を中心に全域	《地理的分布》語彙(その他(語史))	
363	宮城論文	64	浮田ゼミ	1979	宮城県出島における言語調査 第2回	線聖文芸10(女子聖学院短期大学国語国文学会)	12-16	女川町(宮城県出島)	《記述的研究》談話資料	調査対象者に文章を読んでもらったものか。
364	宮城論文	65	国立国語研究所	1981	国立国語研究所資料集 方言談話資料5 岩手・宮城・千葉・静岡	国立国語研究所	133-191	亶理町(亶理町荒浜)	《記述的研究》談話資料	
365	宮城論文	66	加藤正信	1981	あいさつお国めぐり(3)仙台の巻	言語生活351(筑摩書房)	90-91	全域	《記述的研究》方言集	あいさつについて。方言集とまではいかないが、どのような言葉が使われているかについて記述されている。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
366	宮城論文	67	加藤正信・佐藤和之・小林隆	1982	宮城県北地方の方言調査報告	日本文化研究所研究報告別巻19(東北大学日本文化研究所)	左1-28	石巻市(北上町、雄勝町、牡鹿町、河北町)、東松島市(鳴瀬町)	《記述的研究》音声(音韻)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	宮城県北地方20地点(桃生郡、牡鹿郡、登米郡、本吉郡、遠田郡、栗原郡、志田郡、玉造郡、加美郡のなかで20地点)。
367	宮城論文	68	加藤正信・佐藤武義	1982	方言集	〔宮城県百科事典〕	1182-1185	全域	《記述的研究》方言集	他にも方言に関する項目あり。
368	宮城論文	69	佐藤亨	1982	宮城県の方言	〔講座方言学4 北海道・東北地方の方言〕	333-361	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集/文法(助詞/条件表現/文末形式・文末表現)/言語行動(表現)/待遇表現(敬語)	
369	宮城論文	70	佐藤武義	1983	宮城県方言の歴史と国語史	〔宮城の研究7 民族・方言・建築史編〕	303-350	全域	《記述的研究》語彙(その他(方言語彙史))	
370	宮城論文	71	齋藤友季子	1985	国学院大学図書館蔵「奥州仙台こと葉いろは番」について—考察と翻刻—	国学院雑誌86-7(国学院大学)	17-35	仙台市	《記述的研究》方言集/その他(異本比較)	小倉本・叢書本・國學院大學所蔵本を比較し、差異を示している。翻刻もなされている。
371	宮城論文	72	黄鴻信	1985	学校における待遇表現の調査研究—仙台市の場合—	文芸研究108(日本文芸研究会)	52-63	仙台市	《記述的研究》待遇表現(敬語)	
372	宮城論文	73	三宅民夫	1987	各地のねぎらいのことば(7)うざねはいたね(宮城県唐桑町)	言語生活428(筑摩書房)	81のみ	気仙沼市(唐桑町)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
373	宮城論文	74	大西拓一郎	1987	仙台市方言における2種類の尻上がり音調について	国語学研究27(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左11-23	仙台市	《記述的研究》音声(イントネーション)	
374	宮城論文	75	大西拓一郎	1989	宮城県志津川町方言の名詞のアクセント—音節単位によるモーラ方言の分析—	国語学158(国語学会)	左36-49	南三陸町(志津川町)	《記述的研究》音声(アクセント)	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
375	宮城論文	76	三沢奈緒美	1990	宮城県南部の方言区画—語彙を中心とした考察—	日本文学ノート25 (宮城学院女子大学日本文学会)	75-89	亶理町、山元町	《地理的分布》語彙(意味・用法)	刈田郡、伊具郡、亶理郡の33地点。
376	宮城論文	77	大西拓一郎	1990	宮城県志津川町方言の用言のアクセント—動詞の変化形を中心—	日本文化研究所研究報告 別巻27(東北大学日本文化研究所)	15-40	南三陸町(志津川町)	《記述的研究》音声(アクセント)	
377	宮城論文	78	大西拓一郎	1991	宮城県気仙沼市方言の動詞のアクセント	[東日本の音声論文編1]	17-24	気仙沼市(階上村)	《記述的研究》音声(アクセント)	
378	宮城論文	79	大西拓一郎	1992	方言アクセントの現在—仙台市方言におけるアクセントの獲得を中心—	日本語学11-10(明治書院)	98-113	仙台市	《記述的研究》音声(アクセント)	
379	宮城論文	80	遠藤仁・松本宙	1994	宮城方言の言語地理学的研究	[宮城教育大学所蔵資料による宮城県を中心とした教育・言語・文芸の研究]	左1-16	気仙沼市(新月村、唐桑町、気仙沼町、大島村、階上村、小泉村、大谷村)、南三陸町(入谷村、志津川町、歌津村、戸倉村)、石巻市(石巻村、萩浜村、大原町、鮎川村)、女川町、亶理町(逢隈村、亶理町、荒浜村、吉田村)	《地理的分布》語彙(その他(語史))	本吉郡32地点、亶理郡15地点、亶理郡6地点、栗原郡26地点。宮城教育大学付属図書館に「旧宮城師範資料」として蔵せられていた「宮城県下方言調査資料 その1(社会・生活関係の部)」、『宮城県下方言調査資料 その2(雑載:文法関係の部)』を使用。「この調査の目的・調査票および被調査者については不明であるが、(中略)昭和8年に生徒自らの手によって調査がなされたものと推定される」。
380	宮城論文	81	小林隆	1995	変容する日本の方言—仙台市住民意識に原る方言志向・共通語志向	言語24-12(大修館書店)	34-46	仙台市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》その他(方言意識)	
381	宮城論文	82	大西拓一郎	1995	仙台市多人数音調調査の資料一覧	[東日本の音声論文編4—主要都市多人数調査(弘前市・仙台市)報告]	41-69	仙台市	《記述的研究》音声(アクセント)	アクセント資料一覧。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
382	宮城	論文	83	半沢康	1995	仙台市におけるランダム配列読み上げ調査の調査結果報告	[東日本の音声論文編4—主要都市・多人数調査(弘前市・仙台市)報告]	31-40	仙台市	《記述的研究》《世代差》音声(アクセント)	
383	宮城	論文	84	李範錫	1997	無型アクセント方言のイントネーション平坦な首調の形成要因について	言語科学論集1(東北大学文学部言語科学専攻)	123-134	仙台市	《記述的研究》音声(音声/イントネーション)	
384	宮城	論文	85	李範錫	1997	仙台無型アクセント方言話者におけるイントネーションとフォーカス	国語学研究36(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左13-21	仙台市	《記述的研究》音声(イントネーション)/言語行動(談話分析)	
385	宮城	論文	86	大橋純一	1997	宮城県山元町方言における語中・尾力行子音の有声化・半有声化現象について—多人数話者の場面差および音意識の面から—	国語学研究36(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左23-32	山元町	《記述的研究》《グロットグラム》音声(音声/イントネーション)/言語行動(談話分析)	
386	宮城	論文	87	大橋純一	1997	東北方言における/k/ki/の地理的・年代的諸相と展開—/k/子音と/i/母音との関連性に着目して—	言語科学論集1(東北大学文学部言語科学専攻)	15-26	山元町	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》《グロットグラム》音声(音声/音韻)	
387	宮城	論文	88	小林隆・李範錫・竹田晃子・瀧川美穂	1998	宮城県仙台市方言の記述的調査報告	東北文化研究室紀要40(東北大学文学部東北文化研究室)	左57-75	仙台市	《記述的研究》音声(音声/イントネーション)/文法(テンス・アスペクト)/言語行動(表現)	
388	宮城	論文	89	木幡弓	1999	宮城県気仙沼市方言と秋田県田利方言からみた「の」の考察	言語科学研究5(神田外国語大学大学院)	31-44	気仙沼市	《記述的研究》文法(助詞)	
389	宮城	論文	90	金田弘	1999	仙台藩儒松本靖斎・桜田簡斎とその言語	[近代語研究10]	71-86	仙台市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)	
390	宮城	論文	91	玉懸元	1999	仙台市方言の「パー」の用法	言語科学論集3(東北大学文学部言語科学専攻)	37-48	仙台市	《記述的研究》文法(助詞/テンス・アスペクト)/文末形式・文末表現	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
391	宮城論文	92	李範錫	1999	無型アクセント方言話者におけるイントネーションの標準語化—仙台市方言を例として—	国語学197(国語学会)	左1-12	仙台市	《記述的研究》《グロツトグラム》《共通語化》音声(アクセント/イントネーション)	
392	宮城論文	93	李範錫	1999	無型アクセント方言におけるフォーカスと韻律的特徴との関連について—仙台市方言を例として—	国語学研究38(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	左11-26	仙台市	《記述的研究》《世代差》音声(イントネーション)	
393	宮城論文	94	半沢康	1999	東北地方の地域方言と社会方言	日本語学18-13(明治書院)	176-184	名取市、岩沼市、亶理町、山元町	《グロツトグラム》音声(音韻/テンズ・アスペクト)/文法(文末表現・文末形式/助詞/その他)	宮城県北部から福島県いわき市にかけてのグロツトグラムや、福島県宮城県のグロツトグラムを用いて方言変化の様子をみたもの。亶理町(逢隈、浜吉田)、山元町(上平、中浜、磯浜)、岩沼市(岩沼)、名取市(名取)、仙台市(南仙台、仙台、泉)。
394	宮城論文	95	飯間明日香	2000	現代社会における方言意識—仙台方言地域の高校生を中心として—	宮城学院女子大学大学院人文学会誌1(宮城学院女子大学大学院人文学会)	72-80	仙台市	《記述的研究》その他(方言意識)	仙台市と亶理市の二地点間の比較。
395	宮城論文	96	大橋純一	2000	1.ガ行鼻音	[宮城県仙台市方言の研究]	8-19	仙台市	《世代差》音声(音韻)	性差に関する記述もあり。
396	宮城論文	97	佐藤亮一	2000	2.アクセント	[宮城県仙台市方言の研究]	20-27	仙台市	《世代差》音声(アクセント)	
397	宮城論文	98	李範錫	2000	3.イントネーション	[宮城県仙台市方言の研究]	28-35	仙台市	《記述的研究》音声(イントネーション)	
398	宮城論文	99	竹田晃子・吉田雅昭	2000	4.テンズ・アスペクト	[宮城県仙台市方言の研究]	36-55	仙台市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(テンズ・アスペクト)	性差に関する記述もあり。
399	宮城論文	100	小林隆	2000	5.文末形式「ケ」	[宮城県仙台市方言の研究]	56-70	仙台市	《記述的研究》《世代差》文法(文末形式・文末表現)	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
400	宮城論文	101	武田拓	2000	6.終助詞「ワ」	[宮城県仙台市方言の研究]	71-75	仙台市	《世代差》文法(文末形式・文末表現)	性差に関する記述もあり。
401	宮城論文	102	玉懸元	2000	7.終助詞「ツチャ、サ」	[宮城県仙台市方言の研究]	76-89	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現) 《世代差》文法(文末形式・文末表現) その他(使用意識)	性差に関する記述もあり。
402	宮城論文	103	瀧川美穂	2000	8.要求表現	[宮城県仙台市方言の研究]	90-100	仙台市	《世代差》文法(文末形式・文末表現)	性差に関する記述もあり。
403	宮城論文	104	斎藤典子	2000	9.待遇表現	[宮城県仙台市方言の研究]	101-115	仙台市	《世代差》《共通語化》待遇表現(敬語)	性差に関する記述もあり。
404	宮城論文	105	作田将三郎	2000	10.伝統的方言語彙	[宮城県仙台市方言の研究]	116-129	仙台市	《記述的研究》語彙(その他(語史))	
405	宮城論文	106	武田拓	2000	11.新しい方言語彙	[宮城県仙台市方言の研究]	130-135	仙台市	《世代差》語彙(意味・用法)	
406	宮城論文	107	佐藤祐希子	2000	12.「いぎなり」の方言用法	[宮城県仙台市方言の研究]	136-144	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法/その他(使用意識))《世代差》語彙(意味・用法)	
407	宮城論文	108	半沢康	2000	13.方言意識	[宮城県仙台市方言の研究]	145-156	仙台市	《世代差》その他(方言意識)	
408	宮城論文	109	小林隆	2000	仙台市方言の文末形式「ケ」	[語から文章へ]	左127-140	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)	
409	宮城論文	110	小林隆・竹田晃子・玉懸元・佐藤祐希子	2001	宮城県石巻市方言の記述的調査報告	東北文化研究室紀要43(東北大学文学研究科東北文化研究室)	左59-75	石巻市	《記述的研究》文法(助詞/テンス・アスペクト)/言語行動(表現)	
410	宮城論文	111	玉懸元	2001	宮城県仙台市方言の終助詞「ツチャ」の用法	国語学205(国語学芸)	30-43	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)	
411	宮城論文	112	ボンダレンコ H. J.	2001	H. J. レザノフの日本語辞典における仙台方言の特徴	東北アジア研究5(東北大学東北アジア研究センター)	27-46	仙台市	《記述的研究》方言集	

Total No.	宮城 論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
412	宮城 論文	113	大橋純一	2001	東北方言におけるガ 行鼻音の動向	文芸研究151(日本 文芸研究会)	97-106	山元町	《地理的分布》音声(音韻/アクセント)	
413	宮城 論文	114	山県浩	2001	近世方言書類の上方 語「仙台言葉以呂波 寄」『短心野語』を中心 に	[筑紫語学論叢:奥 村三雄博士追悼記 念論文集]	372-388	仙台市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	全日本各地(大阪、京 都、仙台など)。方言書 物12冊の江戸語京都語 との比較。
414	宮城 論文	115	玉懸元	2002	仙台市方言の「ペー」 の用法(2)―「推量」 「確認」「確認要求」の 用法をめぐって―	国語学研究41(東 北大学大学院文学 研究科「国語学研 究」刊行会)	左24-35	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表 現)	
415	宮城 論文	116	大橋純一	2003	音韻	[宮城県石巻市方 言の研究]	5-17	石巻市	《記述的研究》《世代差》音声(音韻)	
416	宮城 論文	117	佐藤亮一	2003	アクセント	[宮城県石巻市方 言の研究]	18-28	石巻市	《記述的研究》音声(アクセント)	
417	宮城 論文	118	玉懸元	2003	格助詞・副助詞・終助 詞	[宮城県石巻市方 言の研究]	29-43	石巻市	《記述的研究》文法(助詞/文末形式・文 末表現)《世代差》文法(助詞)	
418	宮城 論文	119	櫻井真美	2003	条件表現形式「トキ」	[宮城県石巻市方 言の研究]	44-49	石巻市、仙台 市、多賀城 市、塩釜市、 利府町、松島 町、東松島市 (成瀬町、矢 本町)	《グロットグラム》文法(条件表現)	仙台市=仙台市宮城野 区。
419	宮城 論文	120	竹田晃子	2003	テンス・アスペクト―体 系と属性差―	[宮城県石巻市方 言の研究]	50-59	石巻市	《記述的研究》《世代差》文法(テンス・ア スペクト)	性差に関する記述もあ り。
420	宮城 論文	121	高田祥司・竹 田晃子	2003	テンス・アスペクト―仙 石線グロットグラム調 査から―	[宮城県石巻市方 言の研究]	60-68	石巻市、仙台 市、多賀城 市、塩釜市、 利府町、松島 町、東松島市 (成瀬町、矢 本町)	《グロットグラム》文法(テンス・アスペクト)	仙台市=仙台市宮城野 区。
421	宮城 論文	122	竹田晃子	2003	可能表現	[宮城県石巻市方 言の研究]	69-74	石巻市	《記述的研究》《世代差》文法(ボイス)	性差に関する記述もあ り。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
422	宮城論文	123	佐藤祐希子	2003	「ナゲル」の用法	[宮城県石巻市方言の研究]	75-83	石巻市	《記述的研究》《世代差》語彙(意味・用法)	
423	宮城論文	124	作田将三郎	2003	伝統的方言語彙	[宮城県石巻市方言の研究]	84-102	石巻市、仙台市、多賀城市、塩釜市、利府町、松島市、栗松島市(成瀬町、矢本町)	《地理的分布》語彙(その他(語史))《グロットグラム》語彙(意味・用法)	仙台市=仙台市宮城野区。
424	宮城論文	125	武田拓	2003	方言語彙の動向	[宮城県石巻市方言の研究]	103-109	石巻市	《世代差》語彙(意味・用法)	気付かない方言、新方言。
425	宮城論文	126	武田拓・半沢康	2003	仙石線グロットグラム調査報告	[宮城県石巻市方言の研究]	110-162	石巻市、仙台市、多賀城市、塩釜市、利府町、松島市(成瀬町、矢本町)	《グロットグラム》語彙(語形/意味・用法)/文法(助詞/活用/文末形式・文末表現/その他(接辞))/言語行動(表現)/その他	仙台市=仙台市宮城野区。
426	宮城論文	127	高橋ゆか	2003	接尾語「コ」の性格—宮城県石巻市の場合—	日本文学ノート38(宮城学院女子大学日本文学会)	64-71	石巻市	《記述的研究》文法(文法概説)	
427	宮城論文	128	琴鍾愛	2003	仙台市方言における談話展開の方法—説明的場面で使用される談話標識から見る—	文芸研究155(日本文芸研究会)	左1-13	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)	
428	宮城論文	129	佐藤祐希子	2003	「気づかない方言」の意味論的考察—仙台市における程度副詞的な「イキナリ」—	国語学212(国語学会)	32-45	仙台市	《記述的研究》文法(文法概説/テンス・アスペクト)/その他(方言意識)	
429	宮城論文	130	作田将三郎	2003	宮城県における〈糠〉の地方語史	言語科学論集7(東北大学大学院文学研究科言語学専攻)	59-70	南三陸町(志津川町)、石巻市(石巻市、河北町)、塩釜市、仙台市(仙台市、宮城町)、名取市	《地理的分布》語彙(その他(語史))	宮城県全域を対象としている。他に登米市(中田町、迫町、南方町)、加美町(中新田町)、涌谷町、大崎市(鹿島台町)、角田市、蔵王町、白石市、丸森町。

Total No.	宮城 論文 No.	書誌/ 論文/ 市町村史	No.	著者	発行 年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
430	宮城 論文	131	佐藤祐希子	2004	東北方言の「ナゲル」の形成に関する一考察—宮城県石巻市方言の分析を通して—	文芸研究158(日本文芸研究会)	左1-13	石巻市	《記述的研究》文法(文法概説)		
431	宮城 論文	132	琴鍾愛	2004	仙台方言における談話展開の方法の世代差—談話標識の出現傾向から見る—	東北文化研究室紀要46(東北大学文学研究科東北文化研究室)	43-59	仙台市	《世代差》言語行動(談話分析)/談話資料	談話標識の出現傾向についての分析。談話資料は少ない。	
432	宮城 論文	133	琴鍾愛	2004	仙台市方言における談話標識の出現傾向	国語学研究43(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	左1-13	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)/談話資料		
433	宮城 論文	134	阿部貴人	2004	特集:スタイル切換え(3)—仙台方言話者のスタイル切換え	阪大社会言語学研究ノート6(大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室)	2-22	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)		
434	宮城 論文	135	琴鍾愛	2005	日本語方言における談話標識の出現傾向—東京方言、大阪方言、仙台方言の比較	日本語の研究1-2(日本語学会)	1-17	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)		
435	宮城 論文	136	琴鍾愛	2005	高校生における談話展開の方法の特徴—宮城県仙台方言を例として—	日本語学研究14(韓国日本語学会)	51-66	仙台市	《世代差》言語行動(談話分析)/談話資料	談話資料は少ない。	
436	宮城 論文	137	作田将三郎	2005	宮城県における<雷>の地方語史	国語学研究44(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	41-53	全域	《地理的分布》語彙(その他(語史))		
437	宮城 論文	138	国立国語研究所	2006	I. 宮城県仙台市1977	[全国方言談話データベース 日本の方ふるさとことば集 第3巻]	11-95	仙台市	《記述的研究》談話資料	昭和52年度から60年度にかけて、文化庁によって実施された「各地方方言収集緊急調査」の一部。仙台市の談話資料は1977年(昭52)のもの。	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
438	宮城論文	139	玉懸元	2006	方言文末形式の使用実態とその背景—仙台市方言における—	国語学研究45(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	48-60	仙台市	《記述的研究》文法(文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/その他(方言意識)	
439	宮城論文	140	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3・4(東北大学文学会)	左58-77	気仙沼市、南三陸町、石巻市、松島町、仙台市、名取市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(その他(語史))	
440	宮城論文	141	作田将三郎	2007	庶民記録から見た力行・子音の有声化—宮城県を例に—	国語学研究46(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	31-44	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)	
441	宮城論文	142	斎藤佳苗	2007	宮城県における方言の社会的活用	名古屋・方言研究会会報24(名古屋・方言研究会)	47-61	全域	《記述的研究》方言集/その他(方言意識)	
442	宮城論文	143	琴鍾愛	2007	説明的場面における「ダカフ」の機能—仙台方言の青年層談話資料の分析から—	日本研究33(韓国外国語大学校日本研究所)	215-231	仙台市	《記述的研究》言語行動(談話分析)	
443	宮城論文	144	琴鍾愛	2008	談話における「ネ」の機能—仙台方言の説明的場面で使用される談話標識としての機能	日本文化学報38(韓国日本文化学会)	15-29	仙台市	《世代差》言語行動(談話分析)	
444	宮城論文	145	川越めぐみ	2011	山形県・宮城県におけるグレイ・ボット系オノマトペについて—具体的描写性の強弱の観点から—	日本方言研究会第92回発表原稿集	35-42	気仙沼市	《記述的研究》語彙	気仙沼市はアンケート調査。その他、山形県寒河江市の面接調査と、陸羽東緑グロットグラム調査の結果も併せて考察している。
445	宮城論文	146	大橋純一	2012	音韻	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	7-20	気仙沼市	《世代差》音声(音韻)	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
446	宮城論文	147	佐藤亮一	2012	アクセント—気仙沼市—	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	21-32	気仙沼市	《世代差》音声(アクセント)	
447	宮城論文	148	田中宣廣	2012	アクセント—三陸地方南部地域—	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	33-43	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《記述的研究》《地理的分布》音声(アクセント)	
448	宮城論文	149	田附敏尚	2012	動詞の活用	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	44-58	気仙沼市	《記述的研究》文法(活用)	
449	宮城論文	150	玉懸元	2012	格助詞相当形式「ンドゴ」	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	59-64	気仙沼市	《記述的研究》《世代差》文法(助詞)	性差に関する記述もあり。
450	宮城論文	151	玉懸元	2012	終助詞「ゴド」	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	65-72	気仙沼市	《記述的研究》《世代差》文法(文末形式・文末表現)	性差に関する記述もあり。
451	宮城論文	152	竹田晃子	2012	ヴォイス(受身・可能)	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	73-86	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(ボイス)	
452	宮城論文	153	竹田晃子	2012	テンス・アスペクト	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	87-98	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》文法(テンス・アスペクト)	
453	宮城論文	154	吉田雅昭	2012	想起表現	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	99-117	気仙沼市	《世代差》文法(テンス・アスペクト/文末形式・文末表現)/言語行動(表現)	性差に関する記述もあり。
454	宮城論文	155	作田将三郎	2012	伝統的方言語彙	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	118-136	気仙沼市	《地理的分布》語彙(その他(語史))《世代差》語彙(意味・用法)	性差に関する記述もあり。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
455	宮城論文	156	武田拓	2012	新しい方言語彙・三陸地方特有語彙	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	137-140	気仙沼市	《世代差》語彙(意味・用法)	
456	宮城論文	157	榎引祐希子	2012	方言特有の「イキナリ」「ナゲル」「オチル」の分布状況	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	141-152	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《地理的分布》語彙(意味・用法)	
457	宮城論文	158	川越めぐみ	2012	グイラ・ポット系オノマトベの個人差について	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	153-164	気仙沼市	《記述的研究》《世代差》語彙(その他(オノマトベ))	気仙沼市松岩地区と気仙沼市気仙沼地区における比較も行っている。
458	宮城論文	159	小林隆・澤村美幸	2012	驚きの感動詞「ハ」	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	165-188	気仙沼市	《記述的研究》語彙(その他(感動詞))	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)・南三陸町・石巻市におけるアハ系感動詞の分布にも少し触れている。
459	宮城論文	160	中西太郎	2012	あいさつ表現	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	189-208	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《地理的分布》《世代差》言語行動(あいさつ表現)	
460	宮城論文	161	椎名渉子	2012	懐かせつけ場面を中心とした育児の言語行動	[宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究]	209-221	気仙沼市(唐桑、鹿折、気仙沼、大島、本吉町)、南三陸町、石巻市	《地理的分布》言語行動(表現)	

Total No.		書籍/論文/市町村史		No.		編者		発行年		書名		発行所		頁数		地域		内容		注	
461	宮城	市町村史	1	名取教育会	1925	名取郡誌	名取教育会	635-644	名取市(名取郡)	《記述的研究》語彙(意味・用法)/方言集	三十四、方言俚諺1973年に名著出版から復刻版が出ている。										
462	宮城	市町村史	2	山下村役場	1936	宮城県巨理郡山下村誌	山下村役場	342-347	山下村(山元町)	《記述的研究》方言集	第十四章 人情風俗 習慣 第三節 風慣 六、言語。										
463	宮城	市町村史	3	気仙沼町誌編集委員会	1953	気仙沼町誌	気仙沼町誌編集委員会	423-456	気仙沼市(気仙沼町)	《記述的研究》方言集	第十五章 民俗 一、言語 関西地方のことばとの関わりについて言及あり。										
464	宮城	市町村史	4	宮城県	1960	宮城県史20 民俗II	宮城県史刊行会	左1-386	全域(一部各地域について記述)	《記述的研究》音声(アクセント/イントネーション)/語彙(意味・用法/その他(擬声語・擬態語))/方言集/文法(助詞/助件表現)/言語行動(表現)/待遇表現(敬語)	「方言」という項が立てられている(藤原勉編)。ここには東北・宮城全域の記述あり。その他、地方の言葉に関して書かれている章として、マダギ言葉を取り上げた只野洋「山間民俗」(p.29-61)や民間語「諺等を取り上げた藤原勉」(p.119-181)、天江富弥「童戯・童詞」(p.243-329)、渡辺波光・菅原喜一「童唄」(p.333-355)もある。										
465	宮城	市町村史	5	宮城県利府村々誌編集委員会	1963	利府村誌	宮城県利府村役場	741-743	利府町(利府村)	《記述的研究》方言集	後編 第九章 行事と民風 八、利府地方の方言。										
466	宮城	市町村史	6	石巻市史編集委員会	1963	石巻市史 第五巻	石巻市史編さん委員会	106-144	石巻市	《記述的研究》方言集	第二十六篇 郷土色 第五章 方言。										
467	宮城	市町村史	7	佐々久監修/多賀城町誌編集委員会	1967	多賀城町誌	多賀城町誌編集委員会	780-820	多賀城市(多賀城町)	《記述的研究》方言集	第六篇 民俗 二、方言。										
468	宮城	市町村史	8	唐桑町史編集委員会	1968	唐桑町史	唐桑町史編集委員会	701-714	気仙沼市(唐桑町)	《記述的研究》方言集	第七篇 民俗 第七章 方言。										

Total No.	宮城	市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
469	宮城	市町村史	9	山元町誌編纂委員会	1971	山元町誌	山本町役場企画広報課	686-696	山元町	《記述的研究》方言集	第五編 民俗 第九章 方言(訛語)。
470	宮城	市町村史	10	本吉郡誌編纂委員会	1973	本吉郡誌	本吉郡誌編纂委員会	846-859	気仙沼市(本吉町)	《記述的研究》方言集	第十三章 民俗 一、言語。
471	宮城	市町村史	11	牡鹿郡役所	1975	牡鹿郡誌(全)	牡鹿郡役所	154-159	石巻市(牡鹿郡)	《記述的研究》方言集	二、方言。
472	宮城	市町村史	12	本吉町誌編纂委員会	1982	本吉町誌(Ⅱ)	本吉町	1535-1560	気仙沼市(本吉町)	《記述的研究》方言集	p.1535-1545「俚諺」として本吉町内で話される諺の類について、主に共通語形式で列挙。但し一部に方言形がある。 p.1545-1560「方言」として本吉町内のいわゆる俚言形を五十音順に配列。500語程度採録。 同書(Ⅰ)にも「町内の庭木」「町内に見る食用植物」「本吉町沿岸の動植物」の箇所の一部方言形や地方名として挙がっているが、数は多くない。
473	宮城	市町村史	13	岩沼市史編纂委員会	1984	岩沼市史	岩沼市	1330-1339	岩沼市	《記述的研究》方言集	第十四章 民俗 第六節 岩沼の方言。
474	宮城	市町村史	14	佐々久監修/利府町誌編纂委員会	1986	利府町誌	利府町	954-959	利府町	《記述的研究》方言集	第十七章 第二節 八、利府地方の方言。
475	宮城	市町村史	15	多賀城市史編纂委員会	1986	多賀城市史 第三巻 民俗・文学	多賀城市史編纂委員会	471-675	多賀城市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法/その他/《地理的分布》語彙	多賀城市の方言。
476	宮城	市町村史	16	石巻市史編纂委員会	1988	石巻の歴史 第三巻 民俗・生活編	石巻市史編纂委員会	636-771	石巻市	《記述的研究》音声/方言集/文法/待遇表現	第一章 石巻の方言 第二章 語彙集 東北地方、石巻市以外 の宮城県方言についても記述あり。

宮城市町村史

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
477	宮城	市町村史	17	志津川町誌編さん室	1989	生活の歎 志津川町誌Ⅱ	志津川町	252-256、656-819	南三陸町(志津川町)	《記述的研究》語彙/その他(昔話)	第二章 第二節 2 部屋の呼び名と使い方の第八章 第三節 昔話昔話は話者の語り口が生かされていて、発音通りの表記がなされている。
478	宮城	市町村史	18	桃生町史編纂委員会	1990	桃生町史 第三巻 自然・民俗編	桃生町史編纂委員会	477-499	石巻市(桃生町)	《記述的研究》方言集	第七章 桃生のことば。
479	宮城	市町村史	19	気仙沼市史編さん委員会	1994	気仙沼市史Ⅶ 民俗・宗教編	気仙沼市史編さん委員会	284-302	気仙沼市	《記述的研究》音声/語彙/その他	第三節 方言。
480	宮城	市町村史	20	大塚徳郎監修/牡鹿町誌編さん委員会	2002	牡鹿町誌 下巻	牡鹿町	614-918	石巻市(牡鹿町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)/方言集/文法(文法概説)	第十三編 第二章 第四節 方言 全国、東北、宮城の方言についても記述あり。
481	宮城	市町村史	21	北上町史編さん委員会	2004	北上町史 自然生活編	北上町	572-633	石巻市(北上町)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(文法概説)	第2節 方言 (第1節伝説・昔話・民謡 p.517-571)。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
482	福島書籍	1	新妻三男	19--	相馬方言考 補遺1	新妻三男	6	相馬地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
483	福島書籍	2	小林勉	19--	相馬方言に就て(草稿)	小林勉	14	相馬地方	《記述的研究》方言集	国研『福島県方言資料集2』に収録。
484	福島書籍	3	新妻三男	1930	相馬方言考	新妻三男	130	相馬市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(文法概説)	すべて手書きだが情報量が多い。前半が音韻・文法などに関する概説、後半が語彙集。
485	福島書籍	4	新妻三男	1930	相馬方言考 上	新妻三男	31	相馬市	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)	「相馬方言考」の前半部分。国研『福島県方言資料集2』に収録。
486	福島書籍	5	酒井喜勝	1930	発音及び方言/矯正: 本年度本校教育改善努力事項ノ三	酒井喜勝	9	南相馬市(高平村)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	現南相馬市原町区の高平地区。音韻、言語の記述がある。国研『福島県方言資料集2』に収録。
487	福島書籍	6	大田栄太郎	1931	福島県方言	廣文社	49	全域	《記述的研究》方言集	書籍15との関連不明。同一物か。
488	福島書籍	7	小林勉	1931	相馬の方言その一	小林勉	13	相馬地方(南相馬市)	《記述的研究》方言集	著者は原町(現南相馬市)の住所。
489	福島書籍	8	武藤要	1931	福島縣中村町方言集	一言社	168	相馬市	《記述的研究》方言集	
490	福島書籍	9	鈴木久義	1932	相馬方言訛語誤音韻 矯正一覽	福島県立相馬高等学校	1	相馬地方	《共通語化》音声(音韻)	方言の音韻と共通語の音韻。分量少ない。
491	福島書籍	10	新妻三男	1932	続相馬方言考(単語の部)	新妻三男	34	相馬地方	《記述的研究》方言集	相馬方言考の内容を補ったもの。著者住所は中村町(現伊達市保原)。国研『福島県方言資料集2』に収録。
492	福島書籍	11	柴田裕定	1934	石城地方中心ノ常磐地方ニ於ケル方言・訛語ノ研究	柴田裕定	108	常磐地方(いわき地方中心)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	音韻に関して若干記述あり。また意味変化の要因についての概説あり。国研『福島県方言資料集3』に収録。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
493	福島	書籍	12	児玉卯一郎	1935	福島県方言辞典	岳陽堂書店	361	全域	《記述的研究》方言集	福島の比較的大型の方言集。音韻・語法について概説するとともに、記2/3を方言語彙が占める。浜、中、会など使用地域を明示するのが特徴。
494	福島	書籍	13	岩崎敏夫	1953	相馬方言集	岩磐郷土研究会	37	相馬地方	《記述的研究》方言集	音話、童謡も収載。国研『福島県方言資料集1』に収録。
495	福島	書籍	14	香内佐一郎	1953	福島方言集	岩磐郷土研究会	32	全域	《記述的研究》方言集	p.13-26にかけて福島方言集として会話例あり。国研『福島県方言資料集2』に収録。
496	福島	書籍	15	柴田裕定	1957	福島県常磐地区における方言の研究	福島県立内郷高等学校	138	いわき市(常磐地区)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	前編に「言語指導」を通しての生活指導があり、その後編(p.61以降)として方言の記述がある。かなり語数が多い。国研『福島県方言資料集3』に収録。
497	福島	書籍	16	広島大学	1962	福島県方言における敬語	広島大学	4	全域	《地理的分布》待遇表現(敬語)	福島県39地点及び隣接県各1地点。表現の形式をまとめた表と地図があるが、文章はほとんどない。国研『福島県方言資料集1』に収録。
498	福島	書籍	17	大田栄太郎	1971	福島県方言(方言集覧稿第三編)	大田栄太郎(日本大学図書館)	49	全域	《記述的研究》方言集	第3編 石城郡誌等9書からの引用。地域名も語ごとに記してある。国研『福島県方言資料集2』に収録。
499	福島	書籍	18	小林金次郎	1972	福島県の方言集成 方言は生きている	西沢	299	全域	《記述的研究》方言集/待遇表現(敬語)/その他《地理的分布》その他	語彙がほとんど。語法について少し。方言雑話もあり。分量多い。
500	福島	書籍	19	新妻三男	1973	相馬方言考 改訂版	相馬郷土研究会	206	相馬地方	《記述的研究》音声(音韻)/語彙/方言集/文法(助詞/活用/ボイス/デンス・アスペクト/その他)/待遇表現(敬語)	方言集自体はそれほど多くないが、音韻、文法等の解説が充実しており、会話例も掲載されている。

Total No.	福島	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
501	福島	書籍	20	福島県教育委員会	1974	福島県民俗分布図— 民俗資料緊急調査報告書—	福島県教育委員会	87	新地町、相馬市、南相馬市(鹿島町、原町市、小高町)、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、いわき市、飯館村、葛尾村、田村市(郡路村、船引町、常葉町、大越町)、川内村、伊達市(梁川町、伊達町、保原町、霊山町、川俣町)	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地区。昭和46・47年に調査が行われたもの。宮城県教育委員会・秋田県教育委員会・山形県教育委員会・福島県教育委員会編/天野武監修(2000)『都道府県別日本の民俗分布地図集成 第2巻 北海道・東北地方の民俗地図2 宮城・秋田・山形・福島』東洋書林所収。
502	福島	書籍	21	飯豊毅一	1974	福島県北部地域の面接調査 言語使用の変遷(国立国語研究所報告53)	秀英出版	388	伊達市(保原町)	《記述的研究》音声(音韻)/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/その他)/《世代差》音声(音韻)/語彙/文法(助詞/ボイス/条件表現/その他)/待遇表現(待遇表現/敬語)/その他(方言意識)	「Ⅱ 伊達郡方言の特徴」(p.30-56)に音韻、文法の記述がある。
503	福島	書籍	22	高木稲水	1975	いわき方言	いわき春秋社	246	いわき市	《記述的研究》方言集	自己の方言の内省と恐られる。わらべ歌も含む。
504	福島	書籍	23	新妻三男	1975	相馬方言考 補遺2	相馬郷土研究会	28	相馬地方	《記述的研究》方言集/その他	方言雑話と単語の追加。少し説明あり。分量多い。
505	福島	書籍	24	福島県女子師範学校	1976	福島県郷土誌	歴史図書社	496	全域	《記述的研究》音声(音韻)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	第十六章 方言 (pp.470-496)が該当箇所。昭和10年刊の複製。

Total No.	県名	書簿/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
506	福島	書籍	25	福島県教育委員会	1980	福島県民俗分布図一 福島県文化財調査報告書第78号一	福島県教育委員会	57	新地町、相馬市、南相馬市(鹿島町、原町市、小高町市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市、飯館村、葛尾村、田村市(都路村、船引町、常葉町、大越町、濱相町)、川内村、伊達市(梁川町、伊達町、保原町、蓋山町、月詔町)、川俣町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地図。昭和53・54年に調査が行われたもの。宮城県教育委員会・秋田県教育委員会・山形県教育委員会・福島県教育委員会編/天野武監修(2000)『都道府県別日本の民俗分布地図集成 第2巻 北海道・東北地方の民俗地図2 宮城・秋田・山形・福島』東洋書林所収。
507	福島	書籍	26	新妻三男	1982	相馬方言をさかのぼる	相馬郷土研究会	265	相馬地方	《記述的研究》方言集/語彙(意味・用法)	民俗習慣の事例とともに、方言形の談話も少々あり。使い方やエピソードの記述あり。
508	福島	書籍	27	福島郷土文化研究会	1986	誰にでもわかる福島県の方言	歴史春秋出版	335	全域	《記述的研究》方言集	昔話を添えた方言語彙集。用例が各語についているところが特徴。浜通、県北、県中、県南、会津に分けて単語を記す。昔話・地名もあり。
509	福島	書籍	28	草野二郎	1990	いわき市小川町地方の方言 改訂増補	草野二郎	186	いわき市	《記述的研究》方言集/言語行動(あいさつ表現)	挨拶ことば(14会話)あり。
510	福島	書籍	29	加藤正信	1995	福島県相馬地方における方言の共通語化の実態とその社会的心理的背景	科研報告書	145	南相馬市(小高町、原町市)、相馬市	《共通語化》音声(音声/アクセント)/その他(方言意識)	世代差・共通語化についてかなり網羅的に調査してあるが、文法の記述は少ない。量は多い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
511	福島	書籍	30	福島県水産試験場	1995	福島の海産動物方言集魚の呼び名	福島県水産試験場	103	いわき地方、相馬地方、双葉地方	《記述的研究》語彙	地域の区分は「全域、いわき、相馬、双葉」。
512	福島	書籍	31	榎葉町文化財調査委員会	1995	ならはの方言 榎葉町のことは残す	榎葉町教育委員会	115	榎葉町	?	未調査。
513	福島	書籍	32	半沢康・小林初夫・武田拓	1998	宮城・福島沿岸地域におけるグロットグラム調査報告	科研報告書	49	相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町	《グロットグラム》音声(音韻)/語彙/文法(助詞/活用/アスペクト)/待遇表現(待遇表現/敬語)	
514	福島	書籍	33	阿部包昭	1998	保原町を中心として昭和一桁生まれが使った方言集 第4版	阿部包昭	81	伊達市(保原町)	《記述的研究》方言集	1版:平成3年、2版:平成4年、3版:平成6年。
515	福島	書籍	34	高野徳	1999	原町市の方言わたしたちの古里言葉	高野徳	81	南相馬市(原町市)	《記述的研究》方言集	南相馬市原町区。50音順に語彙を羅列。当該地域方言と付近共通語を区別して明示してあるのが特徴的。
516	福島	書籍	35	ヤッチキ・ヤッペGROUP	1999	いわきの方言1616(いろいろ)	ヤッチキ・ヤッペGROUP	72	いわき市	《記述的研究》方言集	50代のメンバー7名で作成。1600以上の語。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
517	福島	書籍	36	大橋純一	2002	東北方言音声の研究	おうふう	469	楢葉町、いわき市	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声)	被災地に関しては他に青森県八戸市、岩手県洋野町(種市町、大野村)、久慈市、野田村、菅代村、田野畑村、岩泉町、宮古市(宮古市、田老町、川井村)、大槌町、宮城県気仙沼市(本吉町)、仙台市、山元町が調査地点となっている。
518	福島	書籍	37	井上史雄・玉井宏児・遣水兼貴	2003	東北・北海道方言の地理的・年齢的分布(THグロットグラム)	東京外国語大学	196	伊達市	《グロットグラム》語彙/文法(助詞/活用/ボイス/テンズ・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/その他	一部被災地該当。
519	福島	書籍	38	いわき市教育委員会	2003	いわきの方言:調査報告書	いわき市	105	いわき市	?	未調査。
520	福島	書籍	39	加藤正信・大橋純一・武田拓・半沢康	2004	関東・東北境界域言語地図 常磐線・磐越東線グロットグラム	いわき明星大学人文学部加藤正信研究室	379	新地町、相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市	《地理的分布》音声(音韻/アクセント)/語彙/文法(助詞/活用/テンズ/アスペクト)/《グロットグラム》音声(音韻/アクセント)/語彙/文法(助詞/活用/テンズ/アスペクト)/条件表現)/その他(方言意識)	前半は福島浜通、中南部～栃木・茨城県北部の言語地図。後半はグロットグラム。
521	福島	書籍	40	小林初夫	2005	高平方言集	高平方言教室	52	南相馬市(原町市高平地区)	《記述的研究》方言集	現南相馬市原町区の高平地区。説明なし。分量多い。
522	福島	書籍	41	大橋純一	2008	福島県いわき市方言の研究 関東・東北接触地域の世代別多人数調査	いわき明星大学大学院人文学研究科日本文学専攻	148	いわき市	《世代差》音声(音韻)/語彙(語彙/意味/用法)/文法/その他(方言意識)	対象は高・中・若・少男女計91名。アンケート調査。様々な分析を行い、グラフや表が多く示されている。
523	福島	書籍	42	田村市文化財保護審議会	2010	田村市のことは(田村市史4)	福島県田村市教育委員会	123	田村市	《記述的研究》方言集	書籍構成:方言編/民謡編/地名編。収録の方言、民謡、地名は他の文献から編纂。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
524	福島	1	吉田巖	1915	相馬方言とアイヌ語	人類学雑誌30-1 (東京人類学会)	27-29	相馬地方	《記述的研究》その他	相馬方言とアイヌ語の関わりについて述べたもの。
525	福島	2	松本繁	1932	磐城相馬の植物方言	方言2-10 (春陽堂)	782-787	いわき地方、相馬地方	《記述的研究》方言集	分量少ない。説明なし。
526	福島	3	新妻三男	1932	相馬方言雑記	方言と国文学3 (国語・国文学附録) (郡山市国語研究会)	29-31	相馬地方	《記述的研究》音声 (音声) / 語彙 (意味・用法) / 文法 (活用 / 文末形式・文末表現)	1「らん」の生存、2マヨーとマヤー、3ものして、4かぶす、5なた、6フアとフエの音、7うたて、叫声説、各節短く解説。
527	福島	4	新妻三男	1934	相馬に於ける敬語助詞及び助動詞 (福島県)	国語研究2-4 (国語学研究会)	53-57	相馬地方	《記述的研究》待遇表現 (敬語)	敬語動詞、敬語助動詞の意味と用例。分量少ない。
528	福島	5	高木稲水	1934	磐城地方方言考 (一)	方言4-9 (春陽堂)	46-53	いわき地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
529	福島	6	高木稲水	1935	磐城方言考 (二) — 平町近在磐崎村藤原を中心とする —	方言5-3 (春陽堂)	29-38	いわき地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
530	福島	7	高木稲水	1935	磐城方言の接頭接尾語に就いて	方言5-9 (春陽堂)	15-19	いわき市 (平町、磐崎村藤原)	《記述的研究》文法 (その他 (接辞))	接頭語・接尾語を集めたもの。用例少ない。分量少ない。
531	福島	8	児玉卯一郎	1935	岩磐方言に於ける特殊音韻現象—ヤ行ザ行相通に就いて—	方言5-4 (春陽堂)	72-75	全域	《記述的研究》音声 (音韻)	ヤ行ザ行相通現象。例少ない。分量少ない。
532	福島	9	高木稲水	1936	磐城方言考 (三)—福島県平町近在磐崎村藤原を中心とする—	方言6-4 (春陽堂)	58-65	いわき地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
533	福島	10	広瀬敏子	1947	磐城方言の中に見える古語	日本の言葉1-3 (日本の言葉研究会)	21-22	いわき地方	《記述的研究》語彙	エッセイ的。

福島論文

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
534	論文	11	蒲生明	1955	福島方言	民間伝承19-9(民間伝承の会)	51のみ	田村市(田村郡)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	いくつかの語の説明。分量はとも少ない。「日本の言葉」第二巻第一号の福島方言の花園いしく註解を要するものがあるのので茲に記します」とある。
535	論文	12	柴田武	1957	方言の手帳3 ズーズー弁	放送文化12-11(日本放送協会)	54-55	伊達市(保原村)	《地理的分布》音声(音韻)	ズーズー弁を中心に東北地方から北陸、出雲地方の差を見たもの。
536	論文	13	佐藤喜代治	1958	福島県方言の敬語法	文化22-4(東北大学文学部)	3-20	南相馬市(石神村)、飯館村(大館村)、双葉町(標葉町)、葛尾村	《記述的研究》待遇表現(敬語)	福島方言の敬語についての概説。分量多い。他の調査地点は安積郡日和田町、耶麻郡猪苗代町、塩川町、登島村、河沼郡坂川村、広瀬村、大沼郡高田町、同永井野地区、金山村川口、南会津郡田島町福米沢、只見村只見、南郷村大宮地区、桧枝岐村桧枝岐。
537	論文	14	宮島達夫	1961	方言の実態と共通語化の問題点 6福島・茨城・栃木	[方言学講座2]	236-263	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/文法(助詞/活用/テンス/条件表現)	全体的な概説は最初の一部分。具体的な記述は茨城県水海道市中妻町のもの(筆者の内省による)。
538	論文	15	飯豊毅一	1962	方言の分布—推量表現「べー」について	相模女子大学紀要13(相模女子大学学術研究会)	50-65	相馬市、南相馬市(鹿島町)、浪江町、津島村、いわき市(久之浜町)、磐城市、勿来市	《記述的研究》《地理的分布》文法(ボイス/文末形式・文末表現)	「…べー」の概説と形式の分布。分量多い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
539	福島	論文	16	飯豊毅一	1964	福島県方言における 対者尊敬表現について	国語学59(国語学 会)	11-24	相馬市、南相 馬市(鹿島 町)、浪江町、津 島村)、いわき 市(久之浜 町、磐城市、川 俣町	《地理的分布》待遇表現(敬語)	文末助詞による敬語の 地域分布。分量多い。調 査地点はほかに小野、 三春、国見、野田、福 島、松川、安達、本宮、 日和田、福良、石川、須 賀川、天栄、棚倉、表 郷、白河、猪苗代、岩 月、喜多方、西会津、若 松、北会津、柳津、昭 和、三島、金山、三条、 下郷、田島、南郷、館 岩、只見、楢枝岐。
540	福島	論文	17	飯豊毅一	1964	南奥方言と関東方言 の境界について	[日本の方言区画]	196-224	相馬市、南相 馬市(鹿島 町)、浪江町、津 島村)、いわき 市(久之浜 町、磐城市、川 俣町	《地理的分布》音声(高声/音韻)/語彙 (語形)/文法(助詞/活用)/ボイス/案件表 現/文末形式・文末表現/待遇表現(敬 語)	調査地点はほかに小 野、三春、国見、野田、 福島、松川、安達、本 宮、日和田、福良、石 川、須賀川、天栄、棚 倉、表郷、白河、猪苗 代、岩月、喜多方、西 会津、若松、北会津、柳 津、昭和、三島、金山、 三条、下郷、田島、南 郷、館岩、只見、楢枝 岐。
541	福島	論文	18	加藤正信	1964	北奥方言と南奥方言 と越後方言の境界	[日本の方言区画]	175-195	相馬市	《地理的分布》音声(高声/音韻)/語彙 (語形)/文法(助詞/助動詞/活用)	調査地点はほかに吾手 県花巻市、一関市、秋田 県横手市、宮城県気仙 沼市、石巻市、大崎市 (古川)、仙台市、白石 市、山形県新庄市、鶴岡 市、山形市、米沢市、小 国町、福島県福島市、郡 山市、会津若松市、新潟 県村上市、新発田市、阿 賀町(津川)、新潟市、三 条市、長岡市、柏崎市、 上越市(高田)。
542	福島	論文	19	高萩精玄	1965?	石城地方坑夫用語	石城郡誌?	778-781 (46-49)	いわき地方	《記述的研究》方言集	99語の坑夫用語を掲 載。方言一意味の形式。 発行所不明。

福島論文

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
543	福島論文	20	日本放送協会	1966	9 福島県相馬郡石神村	[全国方言資料第一巻 東北・北海道編]	257-284	南相馬市(石神村)	《記述的研究》談話資料	自由会話×2、あいさつ。
544	福島論文	21	言語班	1967	福島県相馬地方調査・言語編一 概説、音韻的特徴、血族関係語彙など一	ほうげん3(二松学各大学方言研究会)	22-201	相馬地方	《記述的研究》音声(音韻)/《地理的分布》その他	音韻の特徴と語彙の分布が中心。分量多い。
545	福島論文	22	岩崎敏夫・秋山政一	1967	第6章 言語生活	[福島県史24]	379-491	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/文法(文法概説/活用/ボイス/文末形式・文末表現)/《地理的分布》音声(音韻/イントネーション)/文法(活用/文末形式・文末表現)/その他	各分野について詳細に記述。県内の分布についても。分量多い。
546	福島論文	23	飯豊毅一	1969	福島県方言における「ル」「ラル」敬語について	国文学攷49(広島文理科大学国語国文学会)	23-35	全域	《地理的分布》待遇表現(敬語)	
547	福島論文	24	小林清治・山田舜	1970	方言	[県史シリーズ7 福島県の歴史]	左48のみ	全域	《記述的研究》方言集	付録のp.48に方言が数十語記載されている。使用地区は「全県/県北/県南/会津/浜」という分類。
548	福島論文	25	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の外觀	フィールドの歩み4(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	49-69	相馬市、南相馬市、浪江町、いわき市	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
549	福島論文	26	飯豊毅一	1978	東北地方における方言語彙の変遷—福島県北部地域調査を中心として—	[日本方言の語彙]	389-412	伊達市(保原町)	《共通語化》語彙	
550	福島論文	27	岩崎敏夫	1978	民俗編 福島県のことば	[新福島風土記 福島県の歴史と風土]	441-448	相馬地方、いわき地方	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)	各分野の概説。浜通り地方(相馬地方、いわき地方)のほか、中通り地方(三春・二本松地方)、会津地方の方言にも言及。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
551	福島	論文	28	飯豊毅一	1981	文法形式と変容—福島県北部地域方言を主例として—	[方言学論叢・藤原与一先生古希記念論集1]	129-148	伊達市(保原町)	《世代差》その他(方言意識)/《共通語化》音声(音韻)/語彙/文法	飯豊1974『言語使用の変遷』(国立国語研究所、秀英出版)に記載の福島県北部地域調査の結果を使用。地点は福島市と保原町(現伊達市)。世代差、位相差に着目。
552	福島	論文	29	菅野宏	1982	福島県の方言	[講座方言学4 北海道・東北地方の方言]	363-398	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(文法概説)/《地理的分布》(音韻)/語彙	
553	福島	論文	30	森下喜一	1985	いわき市の敬語表現について 特に接頭語「お」をめぐって	国語研究49(国学院大学国語研究会)	99-108	いわき市	《記述的研究》待遇表現(敬語)	調査地点はいわき市の平と江名。敬語表現の接頭語について、語彙差・職業差・男女差・年代差から。分量多い。
554	福島	論文	31	岩崎敏夫	1986	福島県のことば	[福島の研究 5 方言・民俗篇]	61-80	相馬地方、いわき地方	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)	各分野の概説。分量少ない。浜通り地方(相馬地方、いわき地方)のほか、中通り地方(三春・二本松地方)、会津地方の方言にも言及。
555	福島	論文	32	森下喜一	1986	いわき市の敬語表現 命令的表現の型を中心に	岩手医科大学教養部研究年報21(岩手医科大学教養部)	183-200	いわき市	《記述的研究》待遇表現(敬語)	調査地点はいわき市の平と江名。地域別、性別、年齢別の敬語表現の状況。分量多い。
556	福島	論文	33	菅野宏	1986	福島県方言の語彙語法の分布	[福島の研究 5 方言・民俗篇]	9-59	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/文法(助詞/活用/ボイス/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/《地理的分布》音声(音韻)/文法(助詞/活用/ボイス/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/その他	福島方言の概説。分量多い。
557	福島	論文	34	高木誠一	1986	稲作に関する語彙	[福島の研究 5 方言・民俗篇]	81-96	全域	《記述的研究》語彙(語彙)	
558	福島	論文	35	森下喜一	1993	福島方言アクセントの年齢的特徴	作新学院大学紀要文化と科学3(作新学院大学経営学部)	25-43	相馬市、いわき市	《世代差》音声(アクセント)	アクセントの年代差について。東京式と比較。分量多い。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
559	福島論文	36	加藤正信・齋藤孝滋・半沢康・亀田裕見	1994	福島県小高町における方言の共通語化に関する社会言語学的調査報告	日本文化研究所研究報告別巻31(東北大学日本文化研究所)	左15-37	南相馬市(小高町)	《共通語化》音声(音声/アクセント)/文法(助詞/ボイス)/その他(方言意識/その他)	対象地域における各分野の共通語化の実態、言語意識の関わり。分量多い。
560	福島論文	37	半沢康	1995	伊達・中村藩境地帯の方言分布に関する調査報告	東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要(論文編)26(東北生活文化大学・三島学園女子短期大学)	67-80	新地町、相馬市	《地理的分布》音声(音声/音韻)/語彙/文法	
561	福島論文	38	亀田裕見	1996	福島県相馬地方の無型アクセント・多人数話者における音相・基本周波数曲線の視覚的パターン分類による方言変化に関わる社会的・心理的要因	日本文化研究所研究報告別巻33(東北大学日本文化研究所)	80-92	南相馬市(小高町、原町市)	《記述的研究》音声(アクセント)	一地域における多人数の無型アクセント話者の示す音相の違い。分量多い。
562	福島論文	39	半沢康・亀田裕見	1996	福島県相馬地方における共通語使用に関する調査から	[方言の現在]	254-274	南相馬市(小高町、原町市)	《共通語化》その他(方言意識/その他)	対象地域の共通語使用の実態とそれに関わる要因について。分量多い。
563	福島論文	40	半沢康	1996	福島県北部地域における多人数方言調査の報告と考察(1)	東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要(論文編)27(東北生活文化大学・三島学園女子短期大学)	57-111	伊達市、川俣町	《地理的分布》語彙/文法	多人数調査。
564	福島論文	41	半沢康	1997	福島県北部地域における多人数方言調査の報告と考察(2)	東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要(論文編)28(東北生活文化大学・三島学園女子短期大学)	75-86	伊達市、川俣町	《共通語化》その他(方言意識)	多人数調査。
565	福島論文	42	半沢康	1998	方言使用と方言評価意識に関する因果分析の試み—東北地方南部高校生アンケート調査の結果から—	国語学研究37(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	45-56	新地町、南相馬市、いわき市	《共通語化》その他(方言意識)	南相馬市は原町、いわき市は内郷と勿来が調査地点。方言意識と使用の因果関係。その他の要因も少し。分量多い。

福島論文

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
566	福島	論文	43	半沢康	1999	東北地方の地域方言と社会方言	日本語学18-13(明治書院)	176-185	新地町、相馬市、南相馬市(鹿島町、原町市、小高町)、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市	《グロットグラム》音声(音韻)/文法(助詞/テンス・アスペクト/文末表現・文末形式)/その他	宮城県北部から福島県いわき市にかけてのグロットグラムや、福島県・宮城県のグロットグラムを用いて方言変化の様子をみたもの。
567	福島	論文	44	小野米一	2000	福島県相馬地方への旅	日本語学19-10(明治書院)	58-64	相馬地方	《記述的研究》音声(アクセント)/その他	著者が相馬地方を訪れた際の話。アクセントを若干。分量少ない。
568	福島	論文	45	小林初夫	2000	福島県相馬郡小高町飯崎方言の副助詞	方言資料叢刊8(方言研究ゼミナール)	49-54	南相馬市(小高町飯崎)	《記述的研究》文法(助詞)	副助詞の用例。分量少ない。
569	福島	論文	46	小池壮一	2000	福島方言と共通語	国文学論叢21(国文学研究センター)	169-180	全域	《記述的研究》音声(音韻)	「分かんない」について福島の新方言であると、福島、栃木、茨城、埼玉、東京への地域差・世代差の調査も行っている。
570	福島	論文	47	半沢康	2001	宮城・福島太平洋沿岸地域の方言動態常磐線沿線グロットグラム調査の結果から	言文48(福島大学教育学部国語学国文学会)	1-14	新地町、相馬市、南相馬市(鹿島町、原町市、小高町)、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市	《グロットグラム》音声(音韻)/その他	グロットグラム調査による各分野の方言の境界の成立、移動・変化。分量多い。
571	福島	論文	48	西牧忠	2002	夜間の交通事故から身を守るために一福島方言駆使してPR	人と車38-11(全日本交通安全協会)	10-14	相馬市、南相馬市、伊達市、浪江町、富岡町、いわき市	《その他》	ラジオで交通安全指導をPRすることに方言を使ったという紹介。一部方言談話がある。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
572	福島論文	49	本多真史	2003	平行するグロットグラム—東北本線と常磐線の比較	いわき明星大学大学院人文学研究紀要1(いわき明星大学)	77-91	浜通り	《グロットグラム》	
573	福島論文	50	大橋純一	2004	福島県相馬市方言における語中が行入り渡り鼻音	国語学研究43(東北大学大学院文学研究紀要「国語学研究」刊行会)	左39-51	相馬市	《記述的研究》音声(音声)	語中が行入り渡り鼻音の実態について。分量が多い。
574	福島論文	51	本多真史	2004	関東・東北接触地帯における話者の言語意識と方言使用の関わり	いわき明星大学大学院人文学研究紀要2(いわき明星大学)	58-77	浜通り	《地理的分布》その他(方言意識)	言語意識と方言使用の関係、その地理的分布。分量多い。
575	福島論文	52	半沢康	2005	東北地方南部若年層における非標準語形使用の要因分析 心理的特性とのかかわり	国語学研究44(東北大学大学院文学研究紀要「国語学研究」刊行会)	1-15	新地町、南相馬市、いわき市	《共通語化》その他	南相馬市は原町、いわき市は内郷と由来が調査地点。「非標準語形」の使用と心理的特性との関わり。分量多い。
576	福島論文	53	大橋純一	2005	関東・東北境界域方言の分布パターン	いわき明星大学大学院人文学研究紀要18(いわき明星大学)	108-118	福島県南東部(いわき市、ほか)地点不明『関東・東北境界域言語地図』に即する)	《地理的分布》語彙	語彙の地理的分布パターン。
577	福島論文	54	本多真史	2005	平行するグロットグラムと平面分布図による言語侵入の立体的把握 北関東から福島県中通り・浜通りにかけて	いわき明星大学大学院人文学研究紀要3(いわき明星大学)	51-62	相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、高岡町、楢葉町、いわき市	《グロットグラム》《共通語化》その他	グロットグラム調査による共通語侵入傾向の把握。分量多い。具体的な調査地点は以下の通り。相馬、原ノ町、小高、浪江、双葉、大野、富岡、竜田、末統、四倉、平、湯本、勿来。
578	福島論文	55	大橋純一	2006	方言事象分布における使用語と理解語『関東・東北境界域言語地図』調査に即して	いわき明星大学大学院人文学研究紀要19(いわき明星大学)	32-43	浜通南部、ほか)地点不明『関東・東北境界域言語地図』に即する)	《地理的分布》その他	使用語に対する理解語の比率、その傾向、分布パターン。分量多い。

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
579	福島論文	56	大橋純一	2006	福島県いわき市平下高久方言の立ち上げ	方言資料叢刊9(方言研究ゼミナール)	15-22	いわき市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	いわき市平下高久。立ち上げ詞の種類。アクセント記号あり。
580	福島論文	57	小林初夫	2006	福島県相馬郡小高町飯崎方言の立ち上げ	方言資料叢刊9(方言研究ゼミナール)	23-28	相馬市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	相馬市小高区。無アクセントのためアクセント記号はなし。
581	福島論文	58	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3・4(東北大学文学会)	左58-77	相馬市、伊達市、いわき市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(その他(語史))	
582	福島論文	59	本多真史・加藤浩二	2007	福島県中通り・浜通りにおける方言領域・生活圏との関わりに着目して	言文54(福島大学教育学部国語学国文学会)	2-11	浜通り	《地理的分布》その他	「氷柱」を例に見た方言領域と生活圏との関係。分量少ない。
583	福島論文	60	本多真史	2009	関東・東北接触地帯における新方言普及	言文56(福島大学教育学部国語学国文学会)	32-42	相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市、飯沼村、川俣町、伊達市、田村市、葛屋村	《グロットグラム》語彙	東北本線、常磐線グロットグラム。
584	福島論文	61	半沢康	2010	福島県南相馬市小高区方言の要素・方言実時間調査データの比較	言文57(福島大学教育学部国語学国文学会)	左2-14	南相馬市	《世代差》音声(音声/アクセント)/語彙/文法/その他(方言意識)	南相馬市小高区。
585	福島論文	62	本多真史	2010	福島県相馬市小高区における方言使用実態・世代差に着目して	言文57(福島大学教育学部国語学国文学会)	左15-25	南相馬市	《世代差》《共通語化》語彙	南相馬市小高区。多人数調査。

福島市町村史

Total No.	福島	市町村史	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
586	福島	市町村史	福島県	1967	福島県史 第24巻 民俗2	福島県	379-491	全域	《記述的研究》《地理的分布》音声(音韻)/語彙/文法(文法概説)	第六章 言語生活 岩崎敏夫・秋山政一著。 第一四章 第四節 方言 訛語 石城郡役所編(1922) 『石城郡誌』の復刻。もと の該当ページは341- 356
587	福島	市町村史	福島県史料叢書刊行会	1968	石城郡誌(福島県郡誌集成15)	福島県史料叢書刊行会	301-308	いわき市	《記述的研究》方言集	
588	福島	市町村史	福島県史料叢書刊行会	1969	双葉郡郷土誌(福島県郡誌集成16)	福島県史料叢書刊行会	156-179	相馬地方、いわき市	《記述的研究》方言集	第五節 方言訛語 『雙葉郡郷土誌』の復刻。
589	福島	市町村史	常葉町	1974	常葉町史	常葉町	572-575	田村市(常葉町)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助動詞)	4ページに満たない記述で、それほど詳しくはない。
590	福島	市町村史	相馬市史編纂委員会	1975	相馬市史3 各論編2・民俗・人物	相馬市史編纂会	648-659	相馬市	《記述的研究》待遇表現(敬語)/その他	第五節 相馬のことば。
591	福島	市町村史	伊達郡役所	1979	伊達郡誌	伊達郡役所	214-231	川俣町	《記述的研究》音声(音韻)/語彙	第十五章 方言訛語。
592	福島	市町村史	飯館村史編纂委員会	1979	飯館村史 第一巻 通史	飯館村	829のみ	飯館村	《記述的研究》方言集	附資料 第四節 方言訛語。
593	福島	市町村史	新福島風土記編纂会	1981	新福島風土記2 福島県の自然と生活	創土社	441-448	相馬地方、いわき市	《記述的研究》音声(音韻)/語彙/文法	福島県のことば。
594	福島	市町村史	保原町史編纂委員会(渡辺友左(転載))	1981	保原町史 第4巻 民俗	保原町	766-799	伊達市(保原町)	《記述的研究》語彙/方言集	前半(766-777)「福島北部方言の形容詞語彙体系」(転載、一部改編)後半(778-799)保原近郷方言集。
595	福島	市町村史	船引町教育委員会(船引町史編さん委員会)	1982	船引町史 民俗編	船引町教育委員会 船引町史編さん委員会	725-733	田村市(船引町)	《記述的研究》方言集	第十章 三 方言。
596	福島	市町村史	都路村史編纂委員会	1985	都路村史	都路村	635-652	田村市(都路村)	《記述的研究》方言集	第四編 民俗と宗教 第六節 方言と訛語。

Total No.	福島	市町村史	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
597	福島	市町村史	田中正能監修/富岡町史編纂委員会編	12	1987	富岡町史 第三巻 考古・民俗編	富岡町	925-959	富岡町	《記述的研究》方言集	第十章 第二節 方言。	
598	福島	市町村史	川内村史編纂委員会	13	1988	川内村史 第三巻 民俗編	川内村史編纂委員会	612-642	川内村	《記述的研究》方言集	第十二章 一 方言。	
599	福島	市町村史	滝根町史編纂委員会	14	1988	滝根町史 第三巻 民俗	滝根町	805-829	田村市(滝根町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)/語彙/文法	第四節 滝根のことば方言のほぼ全般にわたる記述が行われている。	
600	福島	市町村史	葛尾村史編纂委員会	15	1991	葛尾村史	葛尾村	528-549	葛尾村	《記述的研究》方言集/文法(文法概説)	品詞ごとに記載。	
601	福島	市町村史	大越町教育委員会編纂委員会	16	1996	大越町史 第三巻 民俗編	大越町教育委員会 町史編さん室	622-644	田村市(大越町)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法/その他	第一節 第九章 三方言。	
602	福島	市町村史	檜葉町教育委員会	17	2006	檜葉町の民俗 暮らしの足あと	檜葉町教育委員会	481-501	檜葉町	《記述的研究》語彙	第3部 暮らしのぬくもり Ⅲ ことばによる言い伝え 二、方言 檜葉町文化財調査委員会編(1995)『ならばの方言』の中から民俗に関する方言を分野別に掲載。	

茨城書籍

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
603	茨城	書籍	1	井川作之助 (巴水)	1911	茨城百科全書上巻	茨城百科全書発行所	308	水戸市～全域 土浦市	《記述的研究》方言集	「茨城方言」(p.189-307)として方言語彙集(方言形一品詞一共通語)を掲げる。
604	茨城	書籍	2	佐藤季愛	1936	鹿島郡に於ける方言語彙の研究	佐藤季愛	174	鹿島郡	《記述的研究》音声/方言集/文法	
605	茨城	書籍	3	田口美雄	1954	地調(54) 方言の記述(茨城県新治郡田糸村)	田口美雄	81	全域	《記述的研究》音声/文法	最初に「茨城県方言の概観」があり、そのうち音韻、文法とつづく。国立国語研究所所蔵。
606	茨城	書籍	4	外山善八、金沢直人	1966	水戸地方の方言資料一(附)符牒・符号および隠語	茨城民俗学会	71	水戸市	《記述的研究》方言集	
607	茨城	書籍	5	茨城教育協会	1975	茨城方言集覧	国書刊行会	255	全域	《記述的研究》方言集	
608	茨城	書籍	6	更科公護	1981	茨城こども歳時記(春夏秋冬編)	筑波書林(土浦)(茨城図書)ふるさと文庫	104	全域	《記述的研究》語彙	茨城県のかつての農村における四季折々の子供の遊びを解説したのも。春「たこあげ」～「国とり」(55項目)、夏「五月節供と武者遊び」～「子供と俗信」(73項目)、各0.5～2ページ程度の分量。解説の中に方言形(方言の呼び名)が出てくる。春夏編と同じ。春夏編とは別冊だが、ページは通し。秋「チンチロリメ捕り」～「ハテン銃」(53項目)、冬「たき火」～「もちつき」(51項目)。
609	茨城	書籍	7	更科公護	1982	茨城こども歳時記(秋冬編)	筑波書林(茨城図書)ふるさと文庫	185	全域	《記述的研究》語彙	
610	茨城	書籍	8	遠藤忠男	1983	茨城のことば 上	筑波書林	96	全域	《記述的研究》語彙	二分冊。上巻はpp.1～96。
611	茨城	書籍	9	遠藤忠男	1984	茨城のことば 下	筑波書林	98	全域	《記述的研究》語彙	二分冊。下巻はpp.97～194。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
612	茨城	書籍	10	更科公護	1985	水戸市の動植物方言・動物編(ふるさと文庫)	筑波書林	78	水戸市	《記述的研究》方言集	二分冊。索引つき。動物編はpp.1~78。
613	茨城	書籍	11	更科公護	1985	水戸市の動植物方言・植物編(ふるさと文庫)	筑波書林	85	水戸市	《記述的研究》方言集	二分冊。索引つき。植物編はpp.79~103。
614	茨城	書籍	12	横山俊珠	1986	なんだんべえ歳時記—茨城のことは・習俗12 九月	川又書店	199	全域	《記述的研究》語彙	
615	茨城	書籍	13	市村正二・瀬谷義彦・櫻井明俊	1987	茨城県風土記	旺文社	16	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/文末形式・文末表現/その他(接辞))/言語行動(あいさつ)/待遇表現(敬語)/談話資料/その他	
616	茨城	書籍	14	波崎町文化財保護審議会	1990	波崎のことは	波崎町教育委員会	132	神栖市(鹿島郡波崎町)	《記述的研究》音声/文法/方言集	波崎町方言の発音と文法の特徴を概説した上で、方言語彙集(方言形一意味一用例の3段からなる)を五十音順に掲げる。
617	茨城	書籍	15	赤城毅彦	1991	茨城方言民俗語辞典	大橋信夫	1015	全域	《記述的研究》方言集	辞典として、分量が多い。
618	茨城	書籍	16	山形鶴著/黒澤利康編著	2003	方言事典—大津あたりの言葉と民俗—	北茨城民俗学会	550	北茨城市	《記述的研究》方言集	北茨城市大津町。
619	茨城	書籍	17	加藤正信・大橋純一・武田祐・半沢康	2004	関東・東北境界域言語地図 常磐線・磐越東線グロットグラム	いわき明星大学人文学部加藤正信研究室	379	北茨城市、高萩市、日立市、ひたちなか市、水戸市	《グロットグラム》音声(アクセント)/語彙/文法(助詞/活用/デンス/アスペクト/条件表現)/その他(方言意識)	前半は福島浜通、中南部～栃木・茨城県北部の言語地図。後半はグロットグラム。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
620	茨城	論文	1	浅野長雄	1956	茨城県海産魚類の方言について	魚類学雑誌5(魚の会)	19-51	全域	《記述的研究》語彙(語形)	茨城県沿岸以外に、全国の方言も収載。
621	茨城	論文	2	宮島達夫	1961	方言の事能と共通語化の問題点 6福島・茨城・栃木	[方言学講座2]	236-263	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/文法(助詞/活用/テンス/案件表現)	全体的な概説は最初の一部分。具体的な記述は茨城県水海道市中菱町のもの(筆者の内省による)。
622	茨城	論文	3	金沢直人	1964	茨城県の竹馬方言の分布	茨城の民俗3(茨城民俗学の会)	10-14	全域	《地理的分布》語彙(語形)	竹馬の語形分布。
623	茨城	論文	4	茨大国研方言ゼミ	1966	茨城県の氷柱方言の分布 資料編(口承文芸)その一 俚諺と昔話(天気・時刻・書語など)その二 方言・民謡	茨城の民俗5(茨城民俗学の会)	36-42	全域	《地理的分布》語彙(語形)	正式な筆者名は「茨城大文学会友会国語国文学研究会方言ゼミナール同人 金沢直人・柴田栄八郎・三津山証江・青砥順子・森島稔」が。県内各小学校の六年生の児童を対象に、氷柱の絵を寫せ、これをその土地の方言で何とよいかを筆答させる方法。
624	茨城	論文	5	広瀬金之介	1966	水戸の方言	茨城の民俗5(茨城民俗学の会)	73-74	水戸市	《記述的研究》方言集	「水戸地方の方言資料(1)の追加」とあるため、どこかでその方言資料をこれ以外にも発表している可能性が高い。
625	茨城	論文	6	石馬賢洲	1966	大野村地方の方言	茨城の民俗5(茨城民俗学の会)	74-76	鹿嶋市(大野村)	《記述的研究》方言集	
626	茨城	論文	7	石馬賢洲	1968	大野村地方の方言(追加)	茨城の民俗7(茨城民俗学の会)	117のみ	鹿嶋市(大野村)	《記述的研究》方言集	
627	茨城	論文	8	石黒賢洲	1971	鹿嶋郡大野地方の方言(その三)	茨城の民俗10(茨城民俗学の会)	145-146	鹿嶋市(大野村)	《記述的研究》方言集	
628	茨城	論文	9	井上史雄・加藤正信・高田誠・徳川宗賢	1971	利根川流域の語の分布	[利根川—自然・文化・社会—]	212-222	利根川河口から上流の沼田市南部まで(茨城県33地点)	《地理的分布》語彙(語形)	分布地図が多い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
629	茨城	論文	10	野尻洋一	1973	那珂湊の自然発話	ワールドの歩み2 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	59-78	ひたちなか市 (那珂湊市)	《記述的研究》談話資料	
630	茨城	論文	11	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の外観	ワールドの歩み4 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	49-69	日立市	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
631	茨城	論文	12	大崎和二・月橋輝男・森泉昭治・吉川昭雄・日下部三郎・鈴木幸三郎・安氏優・武田英之・引地三千夫・高嶋彰・萩谷俊雄	1978	茨城、千葉両県における慣行田植法の地域性とその成立要因に関する研究 第1報 田植法とそれに関係する方言の分布について	茨城大学農学部学術報告25(茨城大学農学部)	89-106	全域	《記述的研究》語彙	方言についてはp.99-101に「方言の分布」として掲載。
632	茨城	論文	13	平山輝男	1978	移住者二世の言語一特に無アクセント地域の場合一	国語学114(国語学会)	35-47	水戸市、日立市、東海村	《記述的研究》その他(言語習得)	
633	茨城	論文	14	更科公護	1983	波崎町の動植物方言	茨城の民俗22(茨城民俗学の会)	43-53	神栖市(波崎町)	《記述的研究》語彙	
634	茨城	論文	15	金沢直人	1984	茨城県の方言	[講座]方言学5 関東地方の方言	79-100	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/語彙/文法(文法概説)/待遇表現(敬語)/その他(方言区画)	
635	茨城	論文	16	更科公護	1985	茨城のトンボの方言	茨城の民俗24(茨城民俗学の会)	92-104	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
636	茨城	論文	17	更科公護	1986	アリジゴクとスベリヒコの方言	茨城の民俗25(茨城民俗学の会)	91-98	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
637	茨城	論文	18	更科公護	1987	茨城セミの方言	茨城の民俗26(茨城民俗学の会)	70-80	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
638	茨城	論文	19	更科公護	1988	茨城の植物方言 路傍や畑の雑草	茨城の民俗27(茨城民俗学の会)	101-114	全域	《地理的分布》語彙(語形)	

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
639	茨城論文	20	更科公護	1989	バッタと鳴く虫の方言	茨城の民俗28(茨城民俗学の会)	43-54	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
640	茨城論文	21	更科公護	1990	茨城の植物方言 山林や原野の草	茨城の民俗29(茨城民俗学の会)	63-75	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
641	茨城論文	22	更科公護	1991	蝶や蛾の茨城方言(付幼虫および蛹)	茨城の民俗30(茨城民俗学の会)	48-60	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
642	茨城論文	23	更科公護	1993	茨城の植物方言—水田やその周辺の草—	茨城の民俗32(茨城民俗学の会)	73-86	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
643	茨城論文	24	内藤裕之	1999	使役表現「サセル」による待遇法の特徴—北茨城市方言を対象として—	[地域言語調査研究法]	62-70	北茨城市	《記述的研究》文法/《世代差》待遇表現	
644	茨城論文	25	国立国語研究所	2002	I. 茨城県水戸市1982	[全国方言談話データベース 日本の方ふることば集成 第4巻 茨城・栃木]	11-116	水戸市	《記述的研究》談話資料	昭和52年度から60年度にかけて、文化庁によって実施された「各地方言収集緊急調査」の一部。水戸市の談話資料は1982年(昭57)のもの。
645	茨城論文	26	早野慎吾	2002	東京語者と茨城語者のイメーヂ—水戸市の調査から—	名古屋・方言研究会 名古屋 方言研究 会会報19(名古屋・方言研究会)	67-74	水戸市	《記述的研究》その他	
646	茨城論文	27	早野慎吾	2002	首都近郊都市における方言形の分類—茨城県水戸市の場合—	[地域語研究論集: 山田達也先生喜寿記念論文集]	301-326	水戸市	《共通語化》語彙(語形)	
647	茨城論文	28	早野慎吾	2006	キャンパスことばの研究 常盤大学(茨城県水戸市)の調査から	宮崎大学教育文化学部紀要 人文科学14(宮崎大学教育文化学部)	13-35	水戸市	《記述的研究》その他(キャンパスことば)	
648	茨城論文	29	早野慎吾	2006	無アクセントの比較研究: 栃木・茨城アクセントと宮崎アクセントの比較	地域文化研究1(宮崎地域文化研究会)	23-32	全域	《共通語化》音声(アクセント)	

茨城論文

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
649	茨城	論文	30	本多真史	2009	関東・東北接触地帯における新方言普及	言文56(福島大学教育学部国語国文学会)	32-42	北茨城市、高萩市、日立市、東海村、ひたちなか市、水戸市	《グロットグラム》語彙	東北本線、常磐線グロットグラム。

茨城市町村史

Total No.	茨城	市町村名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
650	茨城	市町村史	鹿島町史編さん委員会	1	鹿島町史編さん委員会	1974	鹿島町史 第二巻	鹿島町史編さん委員会	514-551	鹿嶋市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集	「方言」。
651	茨城	市町村史	大野村史編さん委員会	2	大野村史編さん委員会	1979	大野村史	大野村教育委員会	399-401	鹿嶋市(鹿島郡大野村)	《記述的研究》方言集	思いつくまま収集。
652	茨城	市町村史	高萩市史編纂専門委員会	3	高萩市史編纂専門委員会	1969	高萩市史 下	高萩市役所	701-710	高萩市	《記述的研究》方言集/《地理的分布》語彙	
653	茨城	市町村史	大洗町文化財保存会	4	大洗町文化財保存会	1969	大洗町史料 一	大洗町教育委員会	44-51	大洗町	《記述的研究》音声/方言集/文法(助詞)	第十五章 言語。方言訛語、俗説、歌謡などについて紹介している。頁数は方言訛語の部分のみ。部分タイトル「郷土大観 磯浜志」。
654	茨城	市町村史	東海村史編さん委員会	5	東海村史編さん委員会	1992	東海村史9 民俗編	東海村	963-980、998-1000	東海村	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法/談話資料	全体的に語彙が載っている。民俗の解説、説明。さらに当時の若い世代4人に対して使用語彙、理解語彙を尋ねている。また、節末には談話資料も掲載。充実している。p.998-1000に当方言の音韻、文法の簡略な解説もある。

Total No.	原 名	書籍/ 論文/ 市町村史	No.	編 著 者	発 行 年	書 名	発 行 所	頁 数	地 域	内 容	注
655	千葉	書籍	1	栗飯原金次郎・神戸直次	1911	千葉縣 方言調査書	栗飯原金次郎 神戸直次	45	全域	《記述的研究》方言集	名詞・代名詞・形容詞・動詞・雑語などの単語や文例について掲載。東条操編の「方言採集手帖」に調査結果を手書き記入したものの。
656	千葉	書籍	2	調査者井田律子	1928	千葉県海上郡高神村 地方方言	郷土研究社	頁付なし	旭市	《記述的研究》方言集	
657	千葉	書籍	3	井上平四郎	1933	山武郡方言研究	井上平四郎	55	山武郡	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/方言集/文法(活用/文末形式・文末表現)	採集した2681語をもとに、文法・音韻・転訛現象、訛音矯正私案・アクセント・語法についてまとめた。
658	千葉	書籍	4	塚田芳太郎	1934	千葉方言・第1	千葉方言刊行会	165	全域	《記述的研究》文法(文法概説)	
659	千葉	書籍	5	嚙鳴尋常高等小學校	1937	嚙鳴村方言	千葉県海上郡嚙鳴尋常高等小學校	13	旭市	《記述的研究》音声(音韻)/語彙(意味・用法)	「嚙鳴村々誌」よりの抜刷。西沢良澄氏の調査による。特殊語・清音濁音・音韻・対照語彙など。
660	千葉	書籍	6	安藤操	1942	房総のふるさと言葉	国書刊行会(NPO 法人ふるさと文化研究会)	245	九十九里、白子町、いすみ市、銚子市、一宮町、匝瑳市、山武市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/言語行動/談話資料	付属CDつき。NHK千葉FM放送局「まるごと千葉」で放送した方言と民話を収録。
661	千葉	書籍	7	上智大学史学会・史学研究会	1968	東上総の社会と文化: 千葉県長生郡総合調査	上智大学史学会、 史学研究会	420	長生郡	《記述的研究》方言集	天文・地理・慣習・衣食住・動物・食物・動詞・形容詞・雑語に分類され、カタカナで表記されている。
662	千葉	書籍	8	川名興	1969	千葉県の植物方言 第一報-第三報(下)	川名興 第3報の発行地は [銚南町(千葉県)]	135	全域	《記述的研究》方言集/《地理的分布》語彙(意味・用法)	
663	千葉	書籍	9	川名興	1969	千葉県の動物方言 第一報	川名興	145	全域	《記述的研究》方言集/《地理的分布》語彙(意味・用法)	

Total No.	千葉 書籍/論文/ 市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
664	千葉書籍	10	川名興	1970	千葉県の動物方言、 千葉県の植物方言 第二報	川名興	76	全域	《記述的研究》方言集、 《地理的分布》語彙(意味・用法)	
665	千葉書籍	11	椎野秀峯	1971	長生地方の童謡と民 謡方言里諺集	東総園	237	長生郡	《記述的研究》方言集	郷土の方言編(pp.100-199)。天文気候・歴史・地理交通など24項目に分類。共通語と方言形とを対照させて表記したものの。
666	千葉書籍	12	川名興	1971	千葉県の動物方言、 千葉県の植物方言 第三報 上	川名興	249	全域	《記述的研究》方言集、 《地理的分布》語彙(意味・用法)	
667	千葉書籍	13	川名興	1971	千葉県の動物方言、 千葉県の植物方言 第三報 中	川名興	260	全域	《記述的研究》方言集、 《地理的分布》語彙(意味・用法)	
668	千葉書籍	14	川名興	1971	千葉県の動物方言、 千葉県の植物方言 第三報 下	川名興	209	全域	《記述的研究》方言集、 《地理的分布》語彙(意味・用法)	
669	千葉書籍	15	徳川宗賢・ 坂本真理子	1974	千葉県夷隅川流域方 言地図	学習院大学方言研 究会(夷隅のことは をたずねる会)	48図	いすみ市	《地理的分布》語彙	動物名・植物名・日常用 語・遊び・動詞など48の 語の地図。
670	千葉書籍	16	塚田芳太郎 [等]	1975	千葉方言 山武郡篇	青史社、合同出版	110	山武郡	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法 (活用)/その他	昭和19(1934)年刊の複製。千葉県中等教育研究会が県内の全小学校に採集簿を交付し調査したもので全13巻の刊行予定が既刊はこれのみ。
671	千葉書籍	17	川名興	1975	富津市(旧富津町)の 動物方言基礎資料； 富津市(旧富津町)の 動・植物方言 その2- その3	川名興	?	富津市	《記述的研究》方言集	「その2」は植物方言名を 併載。29種の動物名の 異名の調査。
672	千葉書籍	18	千葉県教育委 員会	1981	千葉県方言の自然談 話1	千葉県教育委員会	778	長生郡、旭市 (海上郡)	《記述的研究》談話資料	

Total No.	千葉書籍/ 市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
673	千葉書籍	19	戸石史郎・戸石芳江	1981	銚子の民俗と方言(ふるさと文庫(新書))	尚書房	179	銚子市	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説/助詞/接続表現)	pp.90-95に「銚子方言の特色私見」として方言についての記述あり。
674	千葉書籍	20	千葉県教育委員会	1982	千葉県方言の自然談話2	千葉県教育委員会	821	長生郡、旭市(海上郡)	《記述的研究》談話資料	
675	千葉書籍	21	山本熊之助	1982	私の銚子方言考	工面堂	111	銚子市	《記述的研究》方言集	
676	千葉書籍	22	千葉県教育委員会	1983	千葉県方言の自然談話3	千葉県教育委員会	624	長生郡、旭市(海上郡)	《記述的研究》談話資料	昔の海岸のようす、子ども頃の遊びといった談話を収録。
677	千葉書籍	23	学習院大学方言研究会	1983	千葉県夷隅川流域新方言地図	学習院大学方言研究会	頁付なし	いすみ市	《地理的分布》語彙	
678	千葉書籍	24	川名興	1986	千葉県の植物方言(6)-(10)	野外植物研究会刊『野草』No.399(vol.50), No.403(vol.51), No.405(vol.51)-No.406(vol.51), No.409(vol.52)よりの複写昭和59-昭和61	8	全域	《記述的研究》方言集	『野草』No.399~No.409に渡る全8ページ。千葉の植物方言を紹介するコーナーの部分を抜粋して製本したものの。国研所蔵。
679	千葉書籍	25	銚子市教育委員会	1988	銚子のことば	銚子市教育委員会	119	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/方言集/文法(文法概説)	
680	千葉書籍	26	小高昇	1990	一宮地方方言集	一宮町	37	一宮町	《記述的研究》方言集	
681	千葉書籍	27	銚子市教育委員会	1996	銚子のことば	銚子市教育委員会	124	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/方言集/文法(文法概説)	改訂増補第2版。
682	千葉書籍	28	篠崎晃一・ゼミ	1996	千葉県銚子町方言調査報告書	東京都立大学人文学部	142	白子町	《記述的研究》音声(音声)/語彙(意味・用法)/文法(助詞)/待遇表現/その他(方言意識)	
683	千葉書籍	29	石橋満壽男	1996	千葉県訛:方言集	東京文芸館	198	全域	《記述的研究》方言集	

千葉書籍

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
684	千葉	書籍	30	平山輝男ほか 編/佐々木英樹・真田信治 執筆	1997	〈日本のことばシリーズ3〉千葉県のことば	明治書院	223	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/方言集/語彙(意味・用法)/文法(助詞/助動詞/活用)	概説書。

千葉論文

Total No.	県名	書簿/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
685	千葉	論文	1	大久保初男	1889	上総国長柄郡一ノ宮方言表	東京人類学会雑誌(人類学雑誌)4-40(東京人類学会)	416のみ	一宮町	《記述的研究》方言集	
686	千葉	論文	2	蓋山處士	1915	九十九里浜方言考(上総之部)	風俗画報471(東陽堂)	16-17	九十九里町	《記述的研究》方言集	名詞、動詞、または成句などと明記して、いくつか方言をあげている。
687	千葉	論文	3	蓋山處士	1916	九十九里浜方言考(上総之部)	風俗画報477(東陽堂)	15-16	九十九里町	《記述的研究》方言集	471の続きか。内容は異なる。
688	千葉	論文	4	本山桂川	1932	千葉縣郡別方言集中篇	民俗研究43(日本民俗研究会)	57-106	海上郡、山武郡、長生郡	《記述的研究》方言集	「千葉県各郡の郡誌中に収録せる所謂「方言訛音」の項中より摘直抜抄したものである」とのこと。頁数は上中下連番(上は『民俗研究』40、pp.1-56)。上篇は「東葛飾郡之部、千葉郡之部、印旛郡之部、香取郡之部」。中篇は「海上郡之部、山武郡之部、長生郡之部」。下篇は「市原郡之部、夷隅郡之部、君津郡之部、安房郡之部」。

千葉論文

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
689	千葉論文	5	本山桂川	1932	千葉県縣別方言集 下篇	民俗研究46(日本民俗研究会)	107-166	夷隅郡、君津郡	《記述的研究》方言集	「千葉県各郡の郡誌中に収録せる所謂「方言訛言」の項中より摘直抜抄したものである」とのこと。頁数は上中下運番(上は『民俗研究』40、pp.1-57)。上篇は「東葛飾郡之部、千葉郡之部、印旛郡之部、香取郡之部」。中篇は「海上郡之部、山中郡之部、長生郡之部」。下篇は「市原郡之部、夷隅郡之部、君津郡之部、安房郡之部」。タイトルには「昭和十一年三月採集」とある。また、話者情報も中に記載されている。この巻はほぼすべてがこの論文。中は語彙が中心だが、音声や文法についても多少触れられている。
690	千葉論文	6	浅野栄一郎	1936	千葉県長生郡一宮町方言	方言誌16(国学院大学方言研究会)	1-53	一宮町	《記述的研究》音声(音声)/語彙(意味・用法)/方言業/文法(助詞/活用/文法概説/その他(接辞))	
691	千葉論文	7	林天然	1939	房総方言集(1)	千葉文化1-4(千葉中央図書館)	8-13	長生郡	《記述的研究》方言集	
692	千葉論文	8	林天然	1939	房総方言集(2)	千葉文化1-5(千葉中央図書館)	8-14	長生郡	《記述的研究》方言集	
693	千葉論文	9	林天然	1939	房総方言集(3)	千葉文化1-6(千葉中央図書館)	12-15	長生郡	《記述的研究》方言集	
694	千葉論文	10	林天然	1939	房総方言集(4)	千葉文化1-7(千葉中央図書館)	10-15	長生郡	《記述的研究》方言集	稿末に「筆者八郷土史家住所 長生郡鶴枝村」とある。
695	千葉論文	11	林天然	1939	房総方言集(5)	千葉文化1-8(千葉中央図書館)	10-12	長生郡	《記述的研究》方言集	
696	千葉論文	12	林天然	1940	房総方言集(6)	千葉文化2-1(千葉中央図書館)	12-15	長生郡	《記述的研究》方言集	

Total No.	千葉	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
697	千葉	論文	13	林天然	1940	房総方言集(7)	千葉文化2-2(千葉中央図書館)	12-15	長生郡	《記述的研究》方言集	
698	千葉	論文	14	林天然	1940	房総方言集(8)	千葉文化2-5(千葉中央図書館)	10-13	長生郡	《記述的研究》方言集	
699	千葉	論文	15	W.A.グロース/柴田武(訳)	1959	千葉県アクセントの言語地理学的研究	国語学37(国語学会)	1-34	全域	《地理的分布》音声(アクセント)	
700	千葉	論文	16	金田一春彦	1960	房総アクセント再論—グロースさんの「千葉県アクセントの言語地理学的研究」を読んで	国語学40(国語学会)	42-54、105	房総半島	《地理的分布》音声(アクセント)	
701	千葉	論文	17	加藤信昭	1961	方言の実態と共通語化の問題点 8千葉・東京・神奈川	[方言学講座2]	282-306	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(活用)	概説。
702	千葉	論文	18	鈴木国郭	1964	夷隅生活語覚之書	総南文化3(総南文化研究会)	15-17	いすみ市	《記述的研究》語彙	旧夷隅郡の年中行事に関連した語を解説したものの。
703	千葉	論文	19	中村正紀	1968	一ノ宮町東浪見地区方言集稿	上智大学方言学会会報37	(16)	全域	《記述的研究》方言集	
704	千葉	論文	20	中条修	1971	千葉県山武町方言の音韻	都立大学方言学会会報37(都立大学方言学会)	1-10	山武市(山武町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)	
705	千葉	論文	21	加藤昭	1972	外川ことばの音声面における特徴	ワールドの歩み1(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(18)	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻)	漁に関する語。分量少ない。
706	千葉	論文	22	野尻洋一	1972	『外川の自然と人間』	ワールドの歩み1(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(18)	銚子市	《記述的研究》音声(音背/音韻)	風と潮に関する語。分量少ない。
707	千葉	論文	23	大橋勝男	1972	関東地方の方言についての言語地理学的研究	新潟大学教育学部紀要・人文・社会科学編14(新潟大学教育学部)	53-62	全域	《地理的分布》語彙	千葉県の方言調査地点は29地点。

千葉論文

Total No.	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
708	千葉論文	24	川名興	1972	生物方言の教材化	理科教育研究11-5 (千葉県教育センター)	6-7	富津市	《その他》	生物の方言形をあげ、その命名が生物の特長を捉えていると指摘し、それを生物教育に活かそうという内容。
709	千葉論文	25	大島一郎	1973	千葉県山武町方言の語法	人文学報96(東京都立大学人文学会)	103-127	山武市(山武町)	《記述的研究》文法(活用)	形態と表現について。分量やや多い。
710	千葉論文	26	村上昭子	1973	外川の自然発話(1)	フィールドの歩み2 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(34)	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻)	会話に見られる音韻。分量やや多い。
711	千葉論文	27	川名興	1975	千葉県でのネコノハエトリの方言	屋総文化13(房総文化研究所)	13-23	富津市を中心 に全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)	
712	千葉論文	28	川名興	1975	千葉県の主な生物方言	〔千葉県の生物〕別刷	227-241	全域	《記述的研究》方言集	日本生物教育会第30回全国大会(千葉大会)実行委員会「千葉県の生物」編集部編。1975.8掲載。26項目。地点名あり。
713	千葉論文	29	川名興	1975	千葉県の植物方言	〔新版千葉県植物誌〕	316-320	全域、いすみ市	《記述的研究》方言集	全域的に植物方言名を載せるとともに、安房郡、夷隅郡における動植物の方言名について、地点名を載せながら数十語掲載してある。
714	千葉論文	30	青柳精三	1977	千葉県九十九里浜片貝の網巻網漁の語彙	フィールドの歩み10 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(32)	九十九里町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	九十九里町片貝の漁に関する語彙。説明あり。
715	千葉論文	31	伊東裕子	1977	千葉県九十九里浜片貝の風	フィールドの歩み10 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(4)	九十九里町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	九十九里町片貝の風に関する語。分量少ない。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
716	千葉	論文	32	太田守	1977	千葉県九十九里浜片員の潮	フィールドの歩み10 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(5)	九十九里町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	九十九里町片員の潮に関する語。分量少ない。
717	千葉	論文	33	川名興	1977	千葉県のゴキブリの方言	千葉生物誌26-2 (千葉県生物学会)	93-102	全域	《地理的分布》語彙	ゴキブリの方言について、千葉県全域の語形分布を地図化してある。
718	千葉	論文	34	大崎和二・月橋輝男・森泉昭治・吉川昭雄・日下部三郎・鈴木幸三郎・安氏優・武田英之・引地三千夫・高嶋彰・萩谷俊雄	1978	茨城、千葉両県における慣行田植法の地域性とその成立要因に関する研究 第1報 田植法とそれに関係する方言の分布について	茨城大学農学部学術報告25(茨城大学農学部)	89-106	全域	《記述的研究》語彙	
719	千葉	論文	35	川名興	1978	富津市富津の方言分布地図 特に老人と中学生の場合	千葉生物誌(創立30周年記念号)別冊27-12(千葉県生物学会)	123-133	富津市	《地理的分布》《世代差》語彙	動植物の方言(26項目)について、富津市の明治生まれと当時中学3年生のその孫を対象に調査。26項目について地図を作成してある。
720	千葉	論文	36	川名興	1981	富津市西川での海産物方言	冬虫夏草16(安房生物愛好会)	56-57	富津市	《記述的研究》語彙(語彙/意味/用法)	20程度の語。
721	千葉	論文	37	川名興	1982	佐倉の島の方言	冬虫夏草18(安房生物愛好会)	(3)	富津市	《記述的研究》語彙	
722	千葉	論文	38	川名興	1983	千葉県方言の特徴	[房総半島の孤島性とその文化の研究]	71-72	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)/文法(文法概説)	『トヨタ財団助成研究報告書』(房総半島の孤島性研究会 研究代表者 鈴木亮)。
723	千葉	論文	39	伊藤一也	1984	千葉方言の文法から「二」格,「サ」格,「ヲ」格,「ン」コド格のほりあい関係をみる	国文学解釈と鑑賞49-1(至文堂)	63-74	山武市	《記述的研究》文法(文法概説)	名詞・動詞の形態論。分量多い。用例多い。

千葉論文

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
724	千葉	論文	40	佐々木英樹	1984	千葉県の方言について	〔講座方言学5 関東地方の方言〕	101-130	全域	《記述的研究》音声(音韻)/文法(活用)/言語行動(表現)/待遇表現(敬語)/《地理的分布》音声(音声/アクセント)/《その他》研究史	地理的分布は方言区画設定のためのもの。
725	千葉	論文	41	川名興	1986	植物の方言にみる命名の民俗学的考察	日本民俗学168(日本民俗学会)	59-68	房総半島	《記述的研究》その他(命名法)	命名法の考察。植物名自体は川名興(1975)「千葉県の植物方言」か。
726	千葉	論文	42	篠崎晃一	1991	千葉方言における動詞・形容詞の活用	人文学報225(東京都立大学人文学部)	59-80	旭市	《記述的研究》文法(活用)	その他、勝浦、長生郡長南町小沢、印旛郡本笠村が調査地点。
727	千葉	論文	43	佐藤亮一	1991	千葉県銚子市高神東町における祝言のあいさつ	方言資料叢刊1(方言研究ゼミナール)	54-62	銚子市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/談話資料	
728	千葉	論文	44	佐藤亮一	1992	千葉県銚子市田神東町方言における身体感覚を表すオノマトペ	方言資料叢刊2(方言研究ゼミナール)	45-49	銚子市	《記述的研究》語彙(オノマトペ)	
729	千葉	論文	45	川名興	1992	千葉県のモクスガニの方言	Cancer2(日本甲殻類学会)	3-6	全域	《地理的分布》語彙(意味・用法)	
730	千葉	論文	46	浅尾公司	1994	外房・大原の方言に関する一考察	環境社会学研究9(千葉大学教育学部社会学研究室)	44-48	いすみ市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/談話資料	
731	千葉	論文	47	篠崎晃一	1995	地域社会への新語の浸透 山形県東田川郡三川町と千葉県夷生郡白子町との比較	人文学報266(首都大学東京)	1-13	白子町	《共通語化》語彙(意味・用法)	新語の浸透。分量少ない。
732	千葉	論文	48	江波戸絹代	1998	千葉県下の高校生の方言使用の状況	日本文学誌要58(法政大学国文学会)	128-141	全域	《共通語化》音声(音韻)/語彙/文法/その他	卒業論文。

千葉論文

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
733	千葉	論文	49	国立国語研究所	2002	Ⅱ. 千葉県長生郡長生村1977	[全国方言談話データベース 日本の方をさすことば集 成 第5巻 埼玉・千葉]	103-230	長生村	《記述的研究》談話資料	昭和52年度から60年度にかけて、文化庁によって実施された「各地方言収集緊急調査」の一部。長生村の談話資料は1977年(昭52)のもの。
734	千葉	論文	50	川名興	2003	海辺の人々からみた天文・気象方言と天気の良い伝え 銚子、九十九里、白浜、富津、金田	千葉県立安房博物館研究紀要10(千葉県立安房博物館)	3-42	銚子市、九十九里町	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・用法)	アンケート結果の掲載。他に南房総市(白浜)、富津市(富津)、木更津市(金田)も。
735	千葉	論文	51	小嶋小百合	2003	千葉の方言について一特に「アオナジミ」を中心として一	昭学院国語国文学会 36(昭学院短期大学国語国文学)	28-34	全域	《地理的分布》語彙(語形)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
736	千葉	市町村史	1	山田角次郎	1900	香取郡誌	山田角次郎	93-97	香取郡	《記述的研究》方言集	第十六章風俗 第二節 言語 山武郡方言集として挙げられている。 (第三節に遊戯歌謡) 1976年、斎書房から復刊。
737	千葉	市町村史	2	山武郡教育会	1916	山武郡郷土誌	山武郡教育会	208-221	山武郡	《記述的研究》方言集	
738	千葉	市町村史	3	夷隅郡役所	1923	千葉県夷隅郡誌	夷隅郡役所	745-777	夷隅郡	《記述的研究》方言集/語彙(意味・用法)	第二十二章 方言訛言 1972年、名著出版から復刊。
739	千葉	市町村史	4	長生村史編纂委員会	1960	長生村史	長生村	473-474	長生村	《記述的研究》語彙	「ベエ」「アニ(何)」など、その他語彙の列挙。記述はコメント程度。
740	千葉	市町村史	5	千潟町史編纂委員会	1975	千潟町史	千潟町	1541-1566	旭市(千潟町)	《記述的研究》方言集	方言を五十音順に配列。語数は比較的多い。
741	千葉	市町村史	6	長生村風土記編纂委員会	1980	長生村風土記 明治・大正篇	長生村教育委員会	345-357	長生村	《記述的研究》方言集	
742	千葉	市町村史	7	飯岡町史編纂委員会	1981	飯岡町史 付篇	飯岡町	327-338	旭市(飯岡町)	《記述的研究》方言集	海上郡誌、小見川町史、千潟町史より収集。俚言のみ。
743	千葉	市町村史	8	銚子市	1983	銚子市史 II 昭和後期	銚子市	796-817	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻)/語彙/文法(文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	方言概説。
744	千葉	市町村史	9	岬町史編纂委員会	1983	岬町史	岬町	1285-1296	いすみ市(岬町)	《記述的研究》方言集	方言を五十音順で列挙。方言の出典は「古沢村誌」「中根村誌」「夷隅郡誌」など。
745	千葉	市町村史	10	大網白里町史編纂委員会	1986	大網白里町史	大網白里町	1232-1239	大網白里町	《記述的研究》方言集	当該地域の特色を持つ方言について方言五十音順に列挙(『山武郡郷土誌』を参照)他に俚諺などが多少記されている。

千葉市町村史

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
746	千葉	市町村史	11	長生村風土記編纂委員会	1988	長生村風土記 昭和編	長生村教育委員会	32のみ	長生村	《その他》	方言にまつわる随想。
747	千葉	市町村史	12	白子風土記編纂委員会	1989	千葉県長生郡白子風土記	白子町	?	白子町	《記述的研究》方言集/文法(文法概説)	二. 方言・訛語(1)方言の現状 (2) 訛語の現状 (3) 収録の範囲。
748	千葉	市町村史	13	九十九里町誌編纂委員会	1992	九十九里町誌 各論編 下巻	九十九里町	782-797	九十九里町	《記述的研究》文法(文法概説)/語彙(意味・用法)/方言集	
749	千葉	市町村史	14	財団法人千葉県史料研究財団	2003	千葉県の自然誌 別編 4 千葉県植物誌(原史 シリーズ51)	千葉県	1089-1118	全域	《記述的研究》語彙(語形)	「千葉県の植物方言」の項。「この植物方言は、川名(1971)「千葉県の植物方言第三報」を基礎に、その後、収集した資料を追加した」とある。
750	千葉	市町村史	15	夷隅町史編さん委員会	2004	夷隅町史 通史編	夷隅町	966-980	いすみ市(夷隅町)	《記述的研究》方言集	五十音順、会話からの聞き取りによる方言。